

SAI あなたの御国が来ますように



シュリ サティヤ サイババの「復活」
の可能性に関する考察

S. ナーラーヤン著

あの地上天国を体験できる人々は本当に恵まれています

- シュリ サティヤ サイババ

SAI, THY KINGDOM COME
A deliberation on the possibility of Sri Sathya Sai Baba's "return"
by
SREEJITH NARAYAN

Copyright © 2012 Sreejith Narayan

Japanese translation rights arranged by the author

サイ、あなたの御国が来ますように
シュリ サティヤサイババの「復活」の可能性についての考察
著者：シュリージットナーラーヤン
訳者：サイプラサード、穂積由利子

本書の無断複製について、著作権法上での例外を除き、これを禁じます。翻訳や引用については、出典を記載した短い文を除いて、著者の書面による許可が必要です。この電子書籍（e-book）は、著者の書面による許可無しには、www.saikingdom.com を除くいかなるウェブサイトでも再生することは出来ません。

本書中の引用文の著作権は各引用文の著作権保持者に属し、本書における使用は著作権使用法に従っています。

ISBN: 978-1-62314-842-3

2012 年 6 月 第二版発行（米国：英語版）
2012 年 4 月 8 日 復活祭 第一版発行（米国：英語版）

読者へのお願い

URL www.saikingdom.com は、興味のある方、どなたにでも自由に紹介してください。しかし、この PDF ファイルを CD などの電子媒体で配布／送付することは、誤用の恐れがありますので固くご遠慮ください。.

皆さんからのフィードバックは貴重です

本書についての問い合わせ、ご質問、感想等は、snarayan@saikingdom.com 宛に著者に直接送っていただくか、またはホームページ www.saikingdom.com を訪れてコメントを書き込んでください。

本書は、私の愛する主、シュリ サティヤ サイババ様の
聖なる蓮華の御足への、ささやかな捧げ物です。
本書を書こうという思いをお植えになり、
その実現に向けた働きもされた御方に、
その実も結んで下さいますように、
お祈りします。



目次

序文、訳者前書き.....	i
著者について.....	viii
謝辞.....	ix
はじめに.....	1
本書について.....	1
 第1部：私の言葉に間違いはありません	6
第1章：スワミは太陰年で話されていたのか？	7
太陰年節	7
100歳の帰依者たちの場合	9
さらなる証拠.....	11
スワミの伝記作者による説明.....	12
第2章：スワミの御計画とは？.....	14
それではスワミは計画を変更されたのでしょうか？	14
それでは、スワミの御計画とはどのようなものでしょう？	15
第3章：スワミが御自身の寿命について話されたこと	16
可能性として考えられる一つの説明.....	18
第4章：未来に関するサイの予言.....	20
私たちに疑う資格はない	22
 第2部：再臨	24
第5章：スワミの再臨が迫ることを示す前兆.....	25
これから起きるひとつの奇跡.....	26
帰依者たちの夢.....	28
第6章：驚くべきナーディの予言.....	34
サティヤサイアヴァターに関するナーディの予言.....	34
私のナーディ体験.....	38
ナーディの予言—スワミはお戻りになる	39
ノストラダムスの興味深い予言	41
第7章：消えたマフディー.....	44
マフディーとは誰か.....	44
マフディーを見分けるためのしるし	44
地上におけるマフディーの統治期間.....	46
消えたマフディー	48
マフディーはいつ戻って来るのか？	50
マフディーは若い肉体で戻るのだろうか？	50
マフディーの黄金時代	51

なぜマフディーは戻って来るのか？	52
第8章：空にビジョンが現れる？.....	54
延期されたヴィシュワルーパダルシヤン	57
静けさの前の嵐なのか？	60
空を横切ってわたる	60
第3部：あなたの御国が来ますように	62
第9章：サティヤサイの黄金時代の幕開け.....	63
再び巡り来る黄金時代	64
それは人々の予想より早く訪れる	64
黄金時代の特質.....	65
サティヤサイ アヴァターが全世界で受け入れられる	66
サイ オーガニゼーションの重要性	67
バーラタ（インド）の栄光	68
2012年の意義	68
経典に書かれた黄金時代	70
人の子の到来.....	72
第10章：なぜスワミは肉体をお離れになったのか？.....	76
この身体は帰依者たちのために来たのです	76
祈りの力	82
全世界を駆け巡ったニュース.....	83
多くのことを一度に	85
第11章：復活の栄光.....	86
肉体に関する疑問.....	88
ニルマナカーヤ（肉体の物質化）という概念	90
第12章：結論.....	93
スワミはすべての約束を守られる	95
スワミの帰依者たちの訓練期間？	96
サイ、あなたの御国が来ますように.....	99
祈り	100
訳者あとがき.....	102
参考資料／引用文献.....	103

序文：ジョーディー クレアリーとテッド ヘンリー

シュリージット ナーラーヤン氏による『サイ、あなたの御国が来ますように』（原題 “Sai, Thy Kingdom Come”）は、間違いなく一読に値する一冊です。

著者の、冷静な洞察、慎重な調査、そして論駁不可能なほど完璧な論旨の展開は非の打ちどころがありません。本書が結論に至る過程をじっくりと読み進めた方は、たとえどのような先入観の持ち主であっても、本書の根拠が容易に無視できないものであることがお分かりになるでしょう。

私自身と夫のテッド ヘンリーにとって、シュリ サティヤサイババとのつながりは、実は、これまで一瞬たりとも途絶えたことはありません。マハー サマーディ以降も、スワミの楽しいリーラ、教訓、夢、聖なる臨在を感じる体験は、以前と同じように続いています。ソウルジャーナイズというサイトを通じた私たちのセヴァとスワミへの愛は、むしろ倍加したと言えるでしょう。スワミは、私たちのために、私たちが想像したりお願いしたりできるよりもはるかに多くのことをしてくださり、与えてくださいます。私たちはいつも、尽きることのない感謝の念に浸っています。

とはいえ…テッドと私はこれ以上のものをお願いすることはできませんが、スワミを体験し、スワミから恩恵を受ける機会に恵まれなかった人々はどうなのでしょう？

とはいえ…世界の状況は、いっそう強烈な衝撃 — 今突き進んでいる軌道を阻んで、かつてスワミが予言された「愛に満ちた兄弟姉妹としてひとつの家族となった」世界へと変容させるようなショック療法 — を必要としているようです。

とはいえ…今、『サイ、あなたの御国が来ますように』によって、私たちの、奥深くに隠れていた考えや疑問、口に出されなかった疑いが、言葉で表現されたことで気持ちが楽になったと思います。

もちろん私たちは、これまでの体験を通じて、スワミの「不確実性」を愛さなくてはならないことを学んで来ました。

何にもまして、スワミはすべてを超えた存在であられるのです。

もし、本書の著者シュリージット ナーラーヤン氏が、『サイ、あなたの御国が来ますように』の中で慎重にかつ勇気をふるって示唆しているものが、サティヤ ユガと呼ばれる黄金時代の到来を示しているならば、間違いなくそれに続いて起きる、個人と世界の変容を目のあたりにする恩寵に恵まれて、誰もが大きい喜びに満たされることでしょう。

〔米国在住のジョーディー クレアリーと彼女の夫であるテッド ヘンリーは、シュリ サティヤ サイババの長い間の帰依者です。テッド ヘンリーは、40 年間余、テレビ報道記者を務め、最近、米国オハイオ州クリーブランド市にある ABC 系列の WEWS というテレビ局を退職しました。彼は、このテレビ局で多くの仕事をしましたが「ハート アンド ソウル」という霊性に関する週間レポート番組の司会も務めていました。ジョーディーとテッドはこの 15 年間、サイの帰依者や霊性の求道者らのビデオインタビューを行い、広く世界を旅してきました。これらのビデオは、二人が作った下記のウェブサイトに掲載されています。〕

www.vimeo.com/souljourns

www.youtube.com/souljourns

www.souljourns.net

序文：ジュリーチャウドゥリー

「サイ、あなたの御国が来ますように」…この重要な祈りの言葉に続くのは、「あなたの心が行われますように」です。私たちの愛するバガヴァンの御意志を上回るものはありません。サイの御国は、サイのみ心に沿って、サイが意志されるときに到来します。私たちは、今後未来永劫に至るまで大いなる畏敬の念を持って語り継がれるであろう、空前絶後の出来事が起きるのを、忍耐強く待たなければなりません。

本書は全頁に力がみなぎっており、深く読者の心をつかむ語り口で始まっているために、私たちは随所に汲み取れる一つひとつのニュアンスを味わいながら、つつい先へと読み進んでまいります。著者は、「本書は今から起きることを予測しようと試みるものではありません。注意深く、学術研究の形を取りました」、と力強く言い切っています。まことにそれは、何十年もの間にスワミ御自身が行ってきた様々な宣言の中から、スワミの再臨とシンクロするものを集めた綿密な年表となっています。そして自ずと、真実の言葉であるスワミの確約は、さらなる慰めとなって希望を再燃させます。いにしへの聖賢や予言者たちが記録した太古のナーディ經典から、細心の注意を払って掬い取られた予言を扱っている章は、驚くべき新事実です。本書の内容以上に啓発的なことは何も言えませんが、テーマがバガヴァンの再来だけに、読んでいと熱い感情がほとばしるのを抑えられません。

私たちは、**2011年4月24日**を忘れることができるでしょうか？バガヴァンは、それまで一ヶ月近くの間、御自身がお建てになった「癒しの殿堂」である、プラシャンティグラムのSSSIHMS（シュリサティヤサイ高等医療機関）に自らを「幽閉する」ことを選択されました。世界中の帰依者たちはこの間、心をひとつにして、息を殺し、悲痛な涙を流して、愛する方が御自身で身体を癒され、再びヤジュールの住居にお戻りになってダルシャンを続けてくださることを懇願していました。しかしバガヴァンは御自身の計画をお持ちであり、ものごとはスワミの御意志の通りに展開しなければなりませんでした。スワミのなさり方は、深遠にして無限であって、スワミのみが御存知です。脆弱で浅薄で有限な人間の頭脳では、とうてい測り知ることはできません。スワミが、個々人と宇宙の双方に恩恵を与えるために、無私無条件で御自身の身にどのようなことを引き受けられたのか、それを理解することは、私たちの限られた知性と偏見にとらわれた判断を持ってしてはとうてい不可能です。スワミが肉体をお離れになったことは、世界中の帰依者たちに大きな衝撃を与え、動揺を与えて大きな混乱に陥れました。どうしてこんなことが現実には？スワミがこんな形で私たちを残して行くなんてあり得るのだろうか？これは悪夢ではないのか？人生からはメロディーがもぎ取られ、一撃のもとにリズムまで別れを告げてしまいました。私たちの頭は疑問ばかりで考えられず、ハートは粉々になって苦悶の中に埋もれ、悲嘆の津波に襲われて、魂はあまりの空虚さに飛ぶ力を無くしたように思われました。

知性では、何であれ形を取ったものは無形の世界に融合しなければならないことは分かっています。また魂も、いったん物質世界に生まれた以上、物質界を離れなければなりません。しか

しながら、今回の出来事は、何かが変だと感じるのです。これで終わりではない、そういう感覚が今も膨らみ続けているのです。サティヤサイの時代には、間違いなく、まだもっと何か大きなものが秘められているはずです。(人類史という舞台への) スワミの登場は実に鮮烈でユニークでした。スワミの退場もまた、その時が来たら、同じくらい鮮烈でユニークなものとなるはずです。というのも、スワミこそはすべてのアヴァターの源であられるからです。そう考えれば、これは一つの幕間であり、聖なる休憩時間なのでしょう。この空白、この中断は、私たちがさらなる努力と霊性修行に励むときです。言ってみれば、今は、私たちが、課せられた宿題を完成させて卒業できるように自分たちに磨きをかけるための、徹底した個人的／集合的な霊性修行を行うための時間なのです。今はまた、宇宙万物に内在しているスワミに奉仕しようとする私たちの意欲を、確認し、さらに再確認するために、それについて熟考し、誓い、再びそれに専念する一つの局面でもあるのです。私たちは、こうした集団的思考を強めて、念願の「愛するバガヴァンの再臨」を願い求める「臨界質量」を一日も早く集積することに努めましょう。

さて、何ごとも主なる神の御意志なしには起きないことを考えると、著者のハートと頭脳と魂からほとばしり出た本書、『サイ、あなたの御国が来ますように』は、神の御計画によって靈感を与えられたものと言えます。愛するバガヴァンの御言葉に関するこれほど広範囲にわたるリサーチは、スワミの恩寵があって初めて成し遂げることのできる偉業です。さらに出版の時期も、『サイ、あなたの御国が来ますように』が「臨界質量」の形成を先導するべく、至高の立案者でいらっしゃるバガヴァンによって選ばれたものです。最近まで一部の人だけが聞くべく言葉として声を潜めて囁かれていたことが --- 希望やビジョンや夢が、その憧れや切望、揺るぎない信念や完全なる確信が --- 公然と明るみに出たのです。そして、それをもたらした功績は、もちろん、『サイ、あなたの御国が来ますように』にあると言えます。著者のシュリージット氏は、この上なく献身的に、きわめて注意深いリサーチを行いました。一つひとつの言葉、文章の一行一行、すべてのページが実になめらかで、読む者の注意をひき惹き付けます。それはすべてスワミの御言葉についての話であり、一つひとつの言葉に含まれたメッセージについて、一つひとつの言葉に込められた真実についての話です…サティヤサイ…すなわちサイの真実(サティヤ)が語る「真理の言葉」についての話なのです。

この聖なるドラマがどのように展開するかは、まったくスワミ次第です。とは言え、私たちの意図、私たちの信ずるもの、私たちの確信、私たちの献身、私たちの信仰と帰依は、私たちの手中にあります。私たちの一人ひとりが自分自身の宇宙を持ち、その宇宙の中に何を引き入れるかは私たち次第です。私たちの主の御意志は、あらゆる有限性を打ち破るものであり、主にとって不可能はありません。つまるところ、すべてが主の筋書きにほかなりません！私たちはひたすら待っている間にも、論議は慎みましょう。スワミとスワミの御言葉について静かに内省し、沈思黙考しましょう。みんなで一つにつながって、そのつながりを明確な意図と純粋な愛で満たしましょう。心を慈愛で満たして、黄金時代・真実の時代が来ますように、全宇宙に恩恵をもたらす出来事が起きますようにと、祈りましょう。

本書は、膨大な量の原典、資料から、バガヴァンの言葉を集め、読者が分かりやすいように、「ひとつ屋根の下」に並べてあります。私たちは、本書を熟読するうちに、バガヴァン御自身がいかに何度も繰り返して、次のようなことを明言して来られたか、理解するようになります。… スワミの言葉は決して誤ることはありません。スワミが計画したことは必ず成功します。スワミの活動と運動は決して変更されることはありません。スワミは自分の言葉から外れることはありません。状況に強いられてある程度の変更が生じるかもしれませんが、それはいつまでも続くものではなく、スワミの筋道を変えるものでもありません。サティヤサイの時代に黄金時代が巡って来ます、新しい者の到来がその時代を告げるでしょう。その日が目覚めの日であり、その日には、本当の神の力が啓示されるでしょう。

早くスワミの王国が到来しますようにと、共に、愛するサイに訴え、懇願しましょう。私たちがそれをふさわしい価値のある人間にしてくださいと、愛するサイにお願いしましょう。

スワミは無限の存在でありながら、
必ず御自身の言葉をお守りになります。
自らの意志で、御自身の帰依者たちに縛られて、
スワミは、間もなく復活される定めにあります。
それによって、サマーディという聖なるドラマが終わるのです。

サマスタ ローカー スキノー バヴァントゥー

(すべての世界のすべての住人が幸せになりますように)

〔シュリ ジューリー チャウドゥリーは、素晴らしい実績を持つ優れた著述家であり、彼女の愛するシュリ サティヤサイババに関する数々の記事や詩を書き、出版して来ました。彼女は幸運にも非常に若い時からサイの信徒となりました。彼女は過去 10 年にわたって、プーネの青年部のためのシュリ サティヤサイ ニュースレターの執筆者／編集者を務めてきました。2010 年 11 月、彼女は、スワミの祝福によって、85 篇の詩を集めた “Mother Sai (母なるサイ)” と題する詩集をスワミの蓮華の御足に捧げました。〕

序文：ジャティンダル シャッド 元陸軍大佐

帰依者にとって、自分が選んだ神の栄光を見る喜びは、何ものにも例えることが出来ません。しかし、帰依の心と愛を持って崇拝していたその神が肉体を去ってからは、心に痛みばかりが感じられます。本書は、その神が戻って来られることを述べたものです。きっと読者は、最初から最後まで、息もつかずに読み通されるでめいましょう。

本書『サイ、あなたの御国が来ますように』は二つとない研究報告書であります。研究は、様々な宗教そして入手可能な資料の全てにまたがったもので、その結果、どの宗教にも、サイババという呼び名ではなくとも、マフディー、あるいはメシアと呼ばれている存在があることが明らかにされています。

シュリ サティヤ サイババをご存知で、自宅の祭壇に 5 センチ× 5 センチの小さな写真を置いている方なら誰でも、本書を読み、わたしが体験したと同じ歓喜を体験されることと思います。

私は本書の著者に、いい仕事をされましたね、という言葉を送りたいと思います。私の中にはもうなんの疑いもありません。スワミは戻って来られます！--- 待っていきましょう、待って祈るだけです。

本書は希望に確信を加えてくれます。私たちは、私たちの愛する主の復活を熱望しています。人類は、進む方向を示す方が必要なのです。

そして、スワミの再来を待つ私たちには、何が期待されるでしょう？ そうです、現在の私たちより、さらに良い人間になるように精進することが求められています。

私たちは、自分たちを常に取り囲んでいる神の臨在を感じ、常に統一された意識でありましょう。

サイ ラムー喜びましょう！

〔シャッド前陸軍大尉は、インド陸軍に勤務していた時に、シュリ サティヤ サイババを知りました。彼は 1981 年に退役し、それ以来様々なサイのセヴァ活動に携わって来ました。1985 年、スワミは彼にインタビューをくださり、彼が率いるチームに、プラシャーンティ ニラヤムのマンディールの塗装という大役を与えられました。1990 年、スワミの導きにより大尉は、ババ様の最初のホログラム映像を作成しました。その後このホログラム映像は、ババ様の最初のアルミエンボス加工による画像となりました〕

訳者前書き：サイプラサード

サイの黄金時代の到来が近いことを示唆する福音の日本語訳が出来ました。2年前のちょうど今頃、世界中のサイの帰依者たちは皆、毎日毎日寝ても覚めても、ただひとつ、スワミが体調を回復されることのみを、心から祈り求めています。プッタパルティ近辺の村人からは、もしスワミの健康が回復するのであれば、私の腎臓でも肝臓でも使ってくださいという申し出もあったと聞きます。あのときの、スワミを愛する無数の人々の祈りが、スワミの復活という形でかなえられることになるとは、何という恩寵でしょう！

スワミの再臨の希望を受け入れるだけで、切れていた心の中の幾つかの糸が新しく張られて、心と体に生氣が蘇って来るのが感じられます。

スワミの復活に思いを馳せれば、徐々に明らかになって来る想像をはるかに超えた福島放射能汚染の実態から来る恐怖も含めて、あらゆる種類の絶望や不安が、朝日の前に霧が晴れるように消えて行きます。全人類の一人ひとりを、我が子として深く愛していらっしゃる宇宙の最高神が、再び肉体を取ってお戻りになり、これまではごく一部しか使っていらっしゃらなかった御力を、十分に発揮して私たちを守り導いて下さるのですから！

本書は、スワミを一筋に愛して来られたシュリージット氏への、スワミからの愛と英知のプレゼントであり、氏を通してスワミが私たち帰依者に贈って下さった希望の光です。

新しい愛と平安の時代の到来を祝いましょう！ 神の栄光を歌いましょう！

私たち一人ひとりの内なるスワミが復活されて、私たちとスワミが本当に一つであるという実感の中で日々を送ることが出来ますように！ 私たちが、すべての人の中に、またすべてのものやことの中にスワミの愛を見て、同じ心ですべてのものに接することが出来ますように！

サマスタ ローカー スキノー バヴァントゥー！

すべての世界のすべての住民が幸せになりますように！

2013 年 4 月 8 日 花祭りの吉日に

〔サイプラサードは、この訳者がナーディのリーディングを通して与えられた名前です。訳者は米国でサイオーガニゼーションのセンター活動に参加するようになり、現在は日本に住んでいます。セヴァと教育に関するスワミの御教えに深い関心を持っています。〕

著者について

著者であるシュリージット ナーラーヤンは、1992 年にスワミを知りました。それ以来スワミは、夢や実生活上のレッスンなど、様々な方法で、彼を導いて来られました。インドのケーララ州に生まれた彼は、現在米国のニュージャージー州に住み、ソフトウェア エンジニアの職に就いています。彼は現在、ブリッジウォーター サイ センターの奉仕担当を務めており、サイの活動に定期的に参加して、地域のサイグループで非常に活躍しています。1997 年に渡米するまでは、ケーララ州におけるサイ活動の青年部（ヤングアダルト）のメンバーおよびセヴァダルとして活躍しました。



彼は、自分に本を書く力があるとは思っていなかったにもかかわらず、長年スワミに関する本を書きたいという願いを温めてきました。1997 年、米国に移住する前に、彼は、その思いをスワミへの手紙に書きました。スワミは手紙を快く受け取られて、彼の手を、愛情を込めて優しく叩かれ、その上パダナマスカールを与えてくださいました。彼はこの時すでに、本を書くために、多くの資料を集めていました。しかし、様々な理由が現れて、彼の思いはなかなか形にはなりませんでした。2012 年の 1 月末、彼は突然、スワミの再臨の可能性について本を書きたいという衝動にかられるようになりました。それからというもの、ものごとが、ひとつまたひとつと整って、ついに、スワミの恩寵によって本書が陽の目を見ることになったのです。彼が別の本を書く目的で調べていた資料が、本書を著す上で大きく役立つことになりました。スワミは、帰依者の願いを書いた手紙を祝福されるとき、その願いが成就するようにも計ってくださいます。私たちの誰もが知っているように、私たちの主であるスワミは、このように深い愛を、私たち帰依者に注いでくださるのです。

本書の中で、著者は誇らしげに、自分の確信を忠実な弟子のそれになぞらえています。なぜなら、太古のインドの伝統によれば、弟子は常にグルの言葉を最後の一文字にいたるまで完全に信頼しているからです。著者は、こうした弟子と同様、スワミの言葉に完全な確信と信仰を抱いており、スワミの言葉が一つの間違ひも無く現実になる日が来ることを信じています。

謝 辞

…私にお礼を言う必要はありません。私は第三者ではありません。あなたは毎日食事を出してくれる母親にお礼を言いますか？ あなたは世話をしてくれる外部の人にはお礼を言うかもしれませんが、私は外部の人ではありません。ですから、スワミには決してお礼を言わないようにしなさい。スワミをあなたの身内と見なしなさい。そうして初めて、あなたはスワミに近づく権利があるのです。

— 『サティヤサイスピークス (第 31 巻)』 第 45 章

私の最愛のスワミ、私はあなたの身内であり、この作品もあなた御自身のものです。だから私は、あなたにお礼を言いません。多くの方々が本書に貢献してくださいました。私は彼らにもお礼を言いません。というのも、彼らもまた私の身内だからです。あなたのみが行為者であるという認識の中においてさえ、エゴが忍び込んで過ちにつながった瞬間があったかもしれません。もしそうであれば、私は誠心誠意あなたの許しを乞い、読者の皆さんには、何らかの至らないところがあれば、過ちの奥の真実を見てくださるようお願いします。

聖グニャネーシュワル¹がひと触れしただけで水牛がヴェーダを唱え始めたという言い伝えがあります。グニャネーシュワルという名前の意味は、「すべての知識の神」であり、それはスワミ御自身にほかなりません。私はヴェーダを唱えようとしているわけではありませんが、スワミからの聖なる恩寵がなければ、スワミに関する一つの言葉を書こうとすることさえ不可能であると理解しています。この上ない敬意を込めて、私は、すべての知識をお授けくださる、愛する主サイの聖なる蓮華の御足のもとに平伏して、このドゥンナポツ²（水牛）に触れてくださいますように、心からの祈りを捧げます。



¹ シュリ グニャネーシュワル (1275 – 1296) は 13 世紀インド (マハラシュトラ州) の聖者・詩人・哲学者で、『グニャネーシュワリ』として広く知られているバガヴァッドギーターの解説書と、『アムルタヌバーヴァ』という著書は、マラティ文学における画期的な作品と評価されている。

² スワミは帰依者たちを優しくたしなめるときにこの言葉を使われることがある。テルグ語でオスの水牛のこと。

はじめに

オーム シュリ サイラム

親愛なる読者の皆さんにサイラム、

本書は主にシュリ サッティヤ サイババの帰依者たちを対象にしたものであって、読者がすでにサッティヤ サイ アヴァターに関してかなり詳しく知っていることを想定して書かれたものであることにご注意ください。ここに表現された見解は全く個人的なものであって、必ずしも何らかの団体や組織の見解を反映したものではありません。

スワミは「戻って来られる」のでしょうか？

はい。私はそれについて何の疑いも持っていません！

私たちサイの帰依者の全員が、スワミが将来プレーマ サイババとして化身されることを信じています。しかし、私の言う「戻って来られる」とは、スワミが、同じシュリ サッティヤ サイババの身体で再び出現されることです。

何が私にそう思わせるのでしょうか？

スワミの御言葉は決して間違えることはありません。何であれ、スワミが仰ったことは必ず起きます。それが確実であれば、それ以外のことはすべて重要ではなくなります。皆さんは本書の中で、マハーサマディのときが、まだスワミが最終的にお隠れになるときではなかったことを明確に示すスワミの御言葉をご覧になることでしょう。そしてまた、スワミの御計画にもいっさいの変更があるはずがないこともご理解いただけることでしょう。私にとっては、これらのことが意味するものは一つしかありません。つまり、スワミは間違いなく戻って来られるということです!!! スワミはまた、スワミが間もなく戻ってこられることに関して、幾つかの驚くべき兆候をお示しになっているのです。その上、特定のユニークな経典の中に、スワミの再臨を明確に告げている幾つかの衝撃的な予言があるのです。ではどうぞ読み進めてください…。

本書について

2011 年 4 月 24 日の日曜日、午前 2 時頃¹に、私は一本の電話によって深い眠りを覚まされました。一人のサイの兄弟が電話をかけてきて衝撃的なニュースを告げたのです。私の魂が苦悩に沈むにつれて、心臓が激しく打ち始めてコントロールできなくなりました。突然私は、誰かが慰めるように私の右肩を軽くたたくのを感じました。私は妻がそうしてくれたのだと思って、彼女に感謝するために振り返りましたが、彼女は遠く離れて座っていることが分かりました。すぐに私は、それがスワミであったことに気づきました。そして、私は不思議な落ち着きに包まれました。

あの悲しみのときを振り返ってみると、私たち一人ひとりがそれを通るのを助けて下さっていたスワミの見えざる手を、誰もが見ることに違いありません。それはタッチや、夢や、ビジョンの形であったり、別な帰依者や家族の誰かからの心の鎮まる言葉を通じてであったりしたかも知れません。どのような形であったにせよ、すべてのサイの帰依者たちが間違いなくショックを乗り越えるようにして下さったスワミの限らない愛と恩寵を思うと、私は大いなる畏敬の念と驚きを感じずにはおれません。

スワミが「逝ってしまわれて」から何日かの間、多くの思いが私の心を通り過ぎました。スワミがあればどあっさと、しかも、予告されていた時よりもはるかに早い時期にこの世を去られたことを、私は受け入れることができませんでした。私が話した帰依者の誰もが奇跡を期待しており、スワミが復活されるかもしれないという感覚をみんなが持っていました。ほどなくして御遺体がマハー サマーディに安置されると、その希望も薄れて行きました。その間にも、いくつかのテレビのニュース番組を通じて、スワミが一部の学生たちに、自分は 40 日間にわたって具合が悪くなるが、その後また戻ってくると仰ったという話が伝えられました。これは、『タポーヴァナム (Thapovanam)』と題する本に書かれているということで、私はすぐにその本を入手して、文字通り隅々まで調べてみました。しかし、その本にはそれに類することは何も書かれていませんでした。間もなく帰依者たちは、96 歳まで生きると仰っていたスワミ御自身の予言がすでに成就されたのだという様々な説を提唱し始めました。私は、スワミが通常の暦の年数ではなく、太陰暦の年数でお話しになっていた可能性があるという説明を見つけました。それは誰もがしがみつくことのできる「多少は」納得感のある説でした。何しろ、スワミが間違ったことを仰るはずがないのですから。しかし、注意深く分析してみると、スワミは太陰年でお話しになっていたのではないことが理解できました。そうではないことを確信させてくれる、いくつかのスワミ御自身の言葉が見つかったのです。依然として謎が残りました。

今になって当時の何日間かを振り返ってみると、私自身の思考プロセスが、論理的思考ではなく、感情によって動かされていたことが分かります。論理的思考すらも助けにはならなかったことでしょう。スワミはそれさえも超えた存在だからです。何であれ、スワミのなされることは、私たちの理解を超えています。それではどうして疑問を投げるのでしょうか？ 私は、自分がただ「本来の自分である」だけでいいことに気づきました。肉体をお持ちになっている

¹ 米国東部時間

といないに関わらず、スワミはいつも私たちと共にいてくださいます。スワミの肉体が見えなくなったことは、ある意味で、形を超えて一つひとつすべてのものの内にスワミを見ようとする方向に、私が赤ん坊のような足取りを進めるのに役立ちました。あるいは、サイの帰依者たちに肉体執着を超えさせることが、このドラマの目的のすべてであるのかもしれませんが。スワミの肉体は、神が人間たちと相互作用を持つことができるように、未知の領域からプラシャーンティ ニラヤムに投影された単なるホログラムもしくは「マーヤー（幻影）」に過ぎません。スワミの肉体が見られなくなったことさえも、肉体そのものがそうであったように、理解不能と見なすことができるのかもしれませんが。

マハーシャクティ（神のエネルギー）は、人類に接触して彼らを守るという目的を果たすために、マーヤー シャクティ（幻のエネルギーとその姿）の衣をまといます。

—『サティヤサイスピークス（第1巻）』第30章

警察官が盗賊団の中に入って彼らを捕まえて報いを受けさせるために、盗賊の衣を身にまとわなければならないように、私は皆さんの中に入って来るために、マーヤーシャクティをまとわなければなりません。神は、マハーシャクティを弱めずに降臨することはできません。神は、愛と献身的奉仕の対象となることができるように、輝きを減らし、光を制限して降臨しなければなりません。

—『サティヤサイスピークス（第1巻）』第3章

本書は、スワミとその謎めいたなさり方を理解しようと試みるものではありません。聖賢たちや高度に進化した魂たちですら、スワミの実体の特質を理解しようと努力して出来なかったのです。そのような試みは、私などにできることはありません。しかし、私が確信しているのは、スワミの御言葉が間違うはずがないということです。スワミの御計画にもまた、何の変化もあるはずがないのです。ただ、それ自体が本当に大事なことだというわけではありません。なぜなら、この世界にとって何が最善であるかは、スワミのみがご存知であるからです。世界を救うことは、実はスワミのお仕事です。それを心配する私はいったい何様なのでしょう？もし私がスワミの御教えを守ることができて自分自身を救うことができさえすれば、それはスワミにとって、対処すべき問題が一つ減ることになるのです！すでにスワミは、可能な限り単純な言葉で説かれた、たくさんの御教えを残してくださっているので、普通の人間ですら、自己の存在の頂点である解脱に到達するための鍵を手に入れることができるのです。もしスワミが帰って来られたとしても、教えるべきことがこれ以上何か残っているのでしょうか？

それでも私は、あれはまだスワミがこの世から姿を消されるタイミングではなかったと信じることは不自然ではないと思います。数々の御講話の中に私が見つけたスワミ御自身の御言葉が、私の信念を立証してくれます。そしてもし、あれがまだスワミがこの世を去られるべき時ではなかったとすれば、スワミが戻ってお見えになるということもまた真実であるに違いありません。私は、かつての SSSIHL（サイの大学）の学生であった人々¹も含めた、多くの帰依者たち

¹ シュリ サティヤサイ高等教育機関（通称：サイ大学）の卒業生たち

が私と同様のことを信じていることを知りました。

私は本書を執筆しようという計画などは、まったく持っていませんでした。ところが 2012 年の 1 月に、突然、スワミが再び出現される可能性に関する記事を書いてみたいという衝動を覚えました。あるサイの帰依者の友人にこのことを話すと、彼も私が本を書くのを励ましてくれ、彼が見た、スワミが再び現れることに関する美しい夢のことを話してくれました。また私は、他にも何人かの帰依者たちが、スワミが戻っていらっしゃることに関する同様の夢を見ていることを知りました。これについてより深く調べていくうちに、驚くべき手がかりが浮かび上がってきました。私はスワミの見えない御手が働いているのを感じました。この作業のために私が様々な資料を受け取った経緯は、奇跡以外の何ものでもありませんでした。結局、一つの記事として始まったものが、非常に詳細にわたるものになったので、それを一冊の本と呼ぶなければならなくなりました！

これは今から起きることを予測する試みではありません。本書は注意深く、学術研究の体裁を取っています。その根底にある原則は、「スワミがそうおっしゃった。その通りのことが起きるに違いない」という考え方です。本書はまた、細切れの情報を集めたものを一つのはっきりした形にして、真摯に求めている人々に提示するささやかな試みと見なすこともできます。スワミの神秘は理解することができません。私たちにできる最善のことは、それに浸ることです。ただ一つ確かなことは、何であれスワミが仰ったことは、必ずその通りに起きるということです。それについては、疑問の余地はありません。しかし、たくさんの可能性があるのも、それがどのように起きるのかは、スワミのみが御存じです。今から何年か経ったとき、私たち全員が驚きを込めて振り返って、あらゆることがスワミの仰ったとおりに起きた、と褒め称えることでしょうか。しかし、現時点において私が限られた人間の能力で考えていることは、そうした可能性の中のわずかな部分でしかありません。主要な情報源はスワミの御講話ではありましたが、私はまた、スワミに関する何冊かの書籍から得られた信頼のおける情報も調べてみました。それ以外に検討した情報には、一部の傑出した帰依者たちの体験や、自分自身の体験によって私が深い信頼を置いているナーディ（予言の書）のリーディングや、宗教の經典の一部となっている予言などが含まれています。何にも増して、本書の完成へと導いてくれたものは、私のグルであり神であるシュリ サティヤ サイババの御言葉に対する私自身の確信です。

私の目的は、一般的に、忍耐強い注意をもって、一つひとつの言葉と行為の意味を知ろうと、熱心かつ油断なく見守ることによって、初めて理解できます。

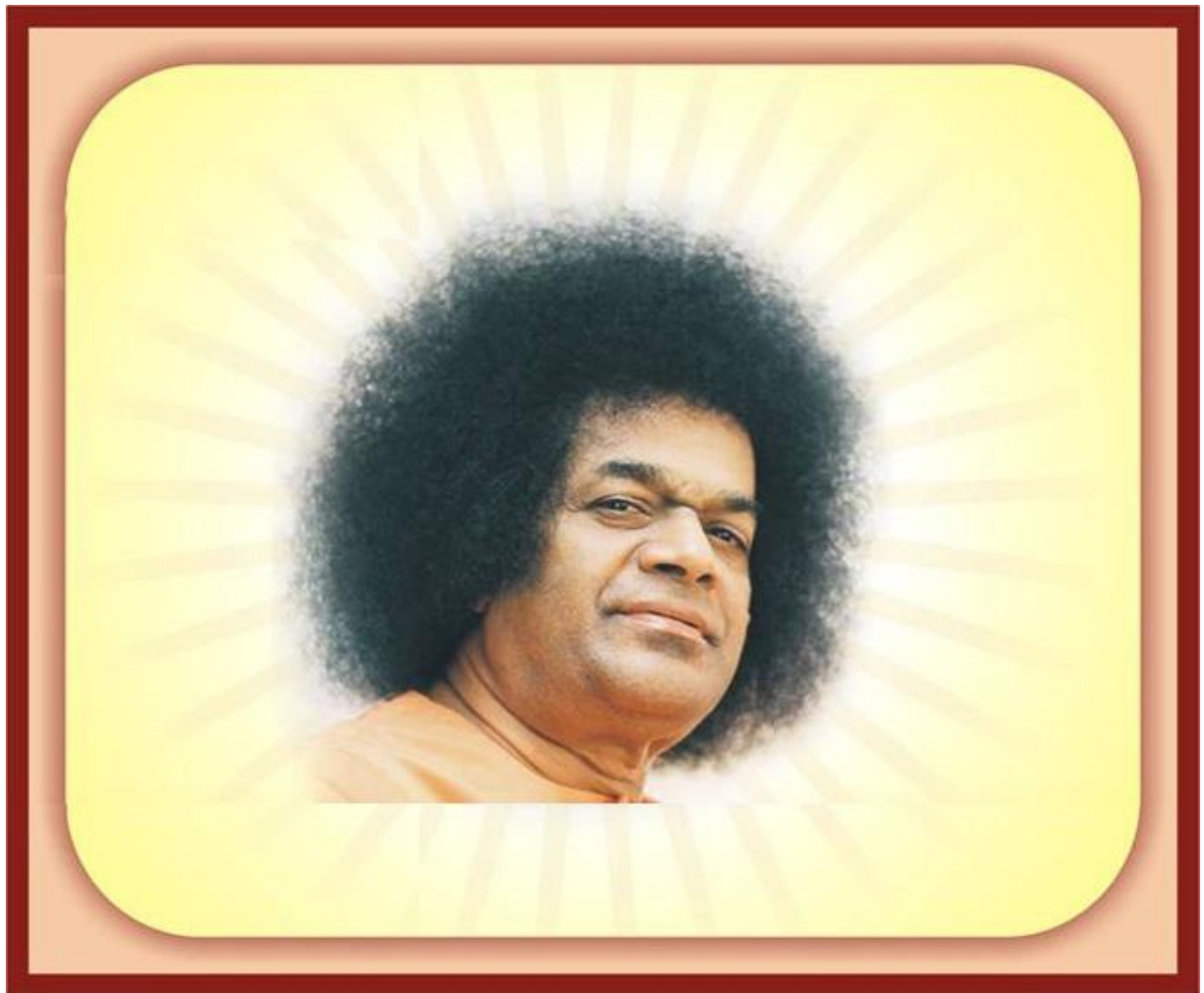
—『サティヤ サイ スピークス（第 29 巻）』第 29 章

まさにそれこそが、本書を著すのに心がけたことです。私は熱心にスワミの御講話の中に手がかりを求め、忍耐強く注意を集中して、スワミの御言葉の意味を探ろうとしました。私は読者の皆さんに請け合いますが、断じてこれは、自分のグルが死んだことの帳尻を合わせようと必死になっている、魂を失った者の不毛な試みなどではありません。どうか本書を、自分自身の目よりもグルの言葉に信頼を置く忠実な弟子の確信の表明として、お読みください。

物言えぬ者に語らせ、
足の萎えた者を山頂まで登らせるあなたの恩寵が、
あなたの御足に捧げる
この私の真剣な試みを促したのであることを祈りつつ

第1部

私の言葉に
間違いはありません



第1章 スワミは太陰年で話されていたのか？

スワミが肉体をお離れになってから、サイの帰依者仲間全体が、スワミが早くこの世を去られたことの説明を探し求めて来ました。スワミは決して間違われるはずがありません。何であれ、スワミが仰ったことは必ず起きるのです。ですから、スワミが予告されたよりもずっと早い85歳（正確には84歳と5か月）でこの世を去られた時に、スワミは太陽暦以外の何か別な、例えば太陰暦の暦法（太陰年）に基づいて話していらっしやったのではないかと推測するのは自然なことです。私もまた、初めてこの話を聞いたときは、それを一つの可能性として受け入れたいと思いました。ところが、御自身の寿命に関するスワミの御言葉も含めて、詳細に調べるにつれて、スワミが太陰年でお話しになっていたのではないと完全に確信できることが明らかになりました。もしスワミが太陰年でお話しになっていなかったのであれば、スワミは予告よりも早くこの世を去られたこととなります。もしそうだとすれば、スワミの予言がいつかは実現することを考えると、スワミが同じ姿で戻って来られる可能性があります。事実、そのことがきっかけになって私の調査が始まり、本書の執筆へとつながったのです。

太陰年説

多くのサイの帰依者たちは、スワミが御自身の寿命について、ヒンドゥー教の（インドの）太陰年で話していらっしやったと信じています。私はインターネットの中で次のような説明を見つけました。

以下はスワミが肉体をお離れになった時のスワミの年齢に関する議論です。

1960年9月29日の御講話（『サティヤ サイ スピークス（第1巻）』第31章）の中で、スワミは次のように仰っています。

「私はこの命に限りのある人間の姿の中にあと59年留まって、このアヴァターの目的を必ず達成するでしょう。それを疑ってはなりません。私は、皆さんのことに関しては、私自身の時間によって、私の計画を実行します。皆さんが急ぐからといって、私が急ぐことはできません。ときには私は、一度に十のことを達成できるまで待つことがあるかもしれません。それはちょうど、機関車が一台の貨車を引くために使われるのではなく、その能力に応じた数の貨車の準備が整うまで待つのに似ています。しかし、私の言葉に決して間違いはありません。それは必ず私の意志するとおりに起きるのです」。

それはつまり、スワミは93歳か94歳で肉体をお離れになるということです。というのも、スワミは1926年11月23日にお生まれになったからです。ところ

がスワミは、2011年4月24日（復活祭の日）の午前7時40分に、84歳で肉体の姿を手放されました。この一見矛盾と思えることは、どのように説明できるのでしょうか？ここに一つ、説明のつく考え方があります。

スワミは太陽暦の年数ではなく、太陰暦の年数でお話になっていたのかもしれませんが。ここにインターネットで見つけた情報を使った簡単な計算があります。スワミは30,833日間生きていらっしゃいました。太陰月は平均27.21日で、太陰年は12ヶ月です。ですから、スワミは太陰月で約1,133ヶ月、すなわち94.4太陰年いらっしゃったのです。つまり、その意味では、スワミは肉体をお離れになった時は94歳だったわけです。

さて、上の説明を詳しく分析してみましょう。ヒンドゥー暦の1ヶ月は27.21日以上あります（後で説明します）が、ここでは議論のために、この数字を使って計算してみましょう。もしスワミが、上記の御講話の中で、私は94年間生きますと仰っていたのであれば、スワミが肉体をお離れになった時点でのスワミの年齢に関する上の説明は正しかったことでしょう。もしそうであったとすれば、太陰暦の94年は、スワミが実際に肉体を持って生きられた標準的な（広く使われているグレゴリオ暦の）84年に相当すると論じることができたはずです。しかし、実際にスワミが仰ったのは、「私はこの限りある命の人間の姿の中にと 59 年留まる」ということです。ですから、その太陰年の計算は、その59年間にに対してだけ適用されるべきであって、上記の説明のように、94年間の全体に適用されるべきではありません。スワミがこのように仰ったのは、1960年の9月29日でした。スワミが肉体をお離れになったのは2011年の4月24日です。この二つの日付には含まれた期間において、スワミは御自身の肉体の中に18,469日間留まっていたいらっしゃいました。これは太陰年の59年に相当するのでしょうか？ひとつ調べてみましょう。

A. 太陰年の日数＝27.21日×12ヶ月＝326.52日。

ですから、18,469日は $18,469 / 326.52 = 56.56$ 太陰年（約57年）に相当します。

上に示したように、この期間は約57年でしかありません。それでは、私たちはどのように考えるべきなのでしょう？スワミは御自身の予言よりも2年早く逝かれたのでしょうか？しかしまだ、これで終わったわけではありません。それからほぼ1年後に、スワミは再び同様のことを仰っています。

皆さんは、プッタパルティがマドゥラナガール（クリシュナ神降誕の地）のようになるのを見守ることでしょう。こうした展開を止めたり遅らせたりすることは誰にもできません。私は決して皆さんを見離すことはありません。また、皆さん方の誰も、私を手放すことはできません。たとえ皆さんが信仰を失ったとしても、そのことを悔いて、入れてくださいと叫びながら、すぐにこの避難所に戻って来ることでしょう。私はこの肉体の中にと58年留まります。これについてはすでに皆さんに約束しています。皆さんの人生は私の地上での経歴と絡み合っています。絶えずその大いなる特権にふさわしく

振る舞いなさい。

—『サティヤ サイ スピークス (第2巻)』
プラシャーンティ ニラヤムにて、1961年10月21日

上の引用に見られるように、スワミは1961年10月21日に、御自身の肉体にあと58年留まることを公表されました。

- B. 上記のように仰ってから、スワミは肉体に18,082日間留まられました。先ほどと同じように、太陰年の計算を適用してみると、これは太陰年の約55.4年でしかありません。ここではほとんど3年くらい足りない計算になります！

その上、ヒンドゥー暦の一ヶ月は27.21日より長いという、さらに大きな問題が存在します。ヒンドゥー暦によれば、一ヶ月の長さは、29日と12時間44分です。この数字を上計算に適用すれば、その差はかなりのものになります！たとえば、18,469日（上記参照）は52.2年となり、約7年の差となります（59年というスワミの言葉と比べて）。

太陰月の長さは27.21日であるという仮定は、月が自らの軌道の中で、同じ結節点に戻ってくるまでの周期から来ています（月の軌道は地球の軌道と二カ所で交差していますが、その交差点のことを結節点と言います）。その周期が、平均で27.21日なのです。これは、ヒンドゥー暦の27の星宿（ナクシャトラ）に対応していますが、一ヶ月の日数には対応していません。（一ヶ月のうちに同じ星宿が再び訪れることがあります）。とはいえ、たとえこの数字を我々の計算に当てはめてみたところで、上のA.とB.で示したような理由から、計算が合いません。A.とB.では、それぞれ2年と3年の誤差が生じます。

ですから、スワミが太陰年でお話しになっていたのではないことは、非常に明白です。

100歳の帰依者たちの場合

スワミが太陰年をお使いになっていたと信じる一般向けの理由の一つに、スワミが一部の長生きした帰依者たちのことを、彼らが百歳に達していないのに、「百年生きた」と言及されていたことがあります。たとえば、サイ ガーヤトゥリーの啓示を受けた有名なサンスクリット語の学者で帰依者でもあった、偉大なシュリ ガンディコータ スッブラマンニャ シャーストゥリは、93歳でスワミに融合されました。ところがスワミは、シュリ シャーストゥリのお孫さんたちに、彼らの祖父は（彼が93歳で他界したにもかかわらず）百歳に達したマハリシであったと仰ったのです。スワミはまた、ある日の御講話の中でもそのことに言及されました。それとは別の御講話の中でスワミは、70代¹で他界したシュリセーシャギリ ラオという傑出した

¹ ラジオサイの記事によれば、シュリ セーシャギリ ラオは1943年に、彼が58歳の時に初めてスワミを見ました。もう一つの情報源によれば、シュリ セーシャギリ ラオは1961年に他界しています。ですから彼は75歳か76歳であったに違いありません。

帰依者のこともまた、百年生きたと仰いました。

パドマナーバン博士の父親、セーシャギリ ラオは、退職して後 63 歳でここに来ました。彼もまた百年生きて、平安に満ちた死を迎えました。

—『サティヤサイ スピークス (第 36 巻)』第 20 章

スワミは、別な御講話の中でも、同じ帰依者について、次のように仰っています。

以前プラシャーンティ ニラヤムには、セーシャギリ ラオがいました。彼は素晴らしい役人でした。彼はよくアーラティを捧げており、百年生きました。

—プラシャーンティ ニラヤムでの御講話

2001 年 8 月 22 日

私たちがもし、こうした（シュリ シャーストゥリやシュリ ラオの）例だけを、他とは切り離して考察したとすれば、スワミが、御自身の計算には太陽暦以外の暦法をお使いになっていた可能性がある、と信じたくなるかもしれません。しかしそうではないことは、二つの異なる年齢が百年に等しいとされているという事実から明らかです。それよりも、シュリ セーシャギリ ラオの場合のように、20 年以上の差¹をそのサイクルの中に吸収できる暦は、どこで見つければよいのでしょうか？

上記以外の帰依者たちで、スワミが御講話の中で百歳まで生きたと仰った方々の中に、シュリ ゴーパール ラオとスワミ カールンニャーナダがいます。彼らは二人とも実際に百歳以上まで生きました。興味深いことに、スワミがシュリ ゴーパール ラオのことをそのように仰った時、彼は 96 歳でした。その 4 年後の 2007 年 12 月、シュリ ゴーパール ラオの実際の 100 歳の誕生日に、スワミは祝辞を述べる儀式の中でこの素晴らしい老帰依者を称賛されました。

「100 年生きた」という表現によってスワミが本当に意味していच्छやったことが何であるかを理解するには、スワミがそのように仰った背景を調べる必要があります。それは、（すでにご紹介したものと同一ときの）78 歳の御降誕祭のスワミの御講話を見れば分かります。そのときスワミは、次のように仰っています。

私は皆さんに、もう一つ重要なことを伝えたいと思います。このプラシャーンティ ニラヤムでは、スワミに人生を捧げる帰依者たちは皆充実した 100 年を生きます。カストゥーリもここに来て、充実した人生を生きました。

—『サティヤサイ スピークス (第 36 巻)』第 20 章

私たちは皆、カストゥーリ教授が 90 歳でスワミに融合されたことを知っています。上記の御言葉を詳しく調べてみると、「100 年生きる」という言葉は、単にスワミが、帰依者が充実し

¹ スワミの表現とシュリ セーシャギリ ラオの実際の年齢との差

た人生を生きたことを意味するためにお使いになった表現であることが、明白に理解できます。スワミは、100歳まで生きる帰依者に何を期待されるのでしょうか？

100歳になった時、人は五つの行動器官と五つの感覚器官の主となって、神に融合するべきです。五つの行動器官とは、話し、歩き、排泄し、生殖し、食べるための器官であり、五つの感覚器官とは、聞き、触れ、見、味わい、嗅ぐための器官です。

—『サティヤサイババとの対話』

ジョン ヒスロップ博士著。SSSBPT 刊。(英語版) p.42

誰であれ、充実した人生を生き、上記のスワミの期待を満たした帰依者であれば、実際の年齢には関係なく、絶対的な霊的な意味において 100 年生きたことになるのです。インドの多くの場所で、特に村落においては、年長者たちは「あなたが 100 年生きますように」と言って自分よりも若い人々を祝福します。それは単に、「末永く充実した人生を送りますように」という意味です。この表現の出どころは、「長生きしますように」という意味の “*Shatam Jeevat*” というヴェーダの祝福と、長寿を祈る “*Jeevam Sharadah Shatam*” というマントラに求めることができます。サンスクリット語の “*shatam*” という言葉は 100 という数字を表しますが、文脈によって「長い時間」という意味にもなります。ですから、このマントラ全体は、「信仰深い者が、末永く、完全で、健康で、満足した一生を送りますように」という意味になります。ここで、“*Shatam Jeevat*” という言葉の真の意味について、クリヤ ヨーガ研究所のシュリ パラマハムサ プラグニャーナンドの言葉を引用したいと思います。「100 年という時間は、完全さの象徴です。それは単なる物理的な数字ではありません。それは象徴的に、愛と帰依の人生を生きるようにと私たちに教えています。100 という数字の中の 1 が無かったとすれば、00 には何の価値もありません。同様に、もし神が、すなわち愛が欠如していたとすれば、人生には何の価値もありません。」¹

これらの古くからの帰依者たちは愛と帰依の見本であり、あらゆる意味で、充実した完全な “*Shatam*” (100 年／長寿) の人生を生き、どこかの時点で、神の蓮華の御足への奉仕に全託したことでしょう！

さらなる証拠

79 歳の御降誕祭における、スワミの次の御言葉を調べてみましょう。

今日は、この肉体だけの誕生日でしかありません。私は **79 歳** の人間に見えますか？ 全くそのようなことはありません !! この年齢の人々は、たくさんの不調を抱えています。彼らの耳は聞こえにくくなり、目は白内障を患って、額には皺が寄ります。私の場

¹ 出典： - www.kriya.org

合は、すべての器官が完全に正常です。皆さんは、私の額に皺一本見つけることができません。今だけではなく、**80歳になっても、90歳になっても、同じことでしょう!!!**

— プラシャーンティ ニラヤムでの御講話

2004年11月23日 79歳降誕祭

スワミが79歳の降誕祭に「79歳」と仰ったので、少なくともこの場合は、スワミが通常の暦（グレゴリオ暦）の年数を使ってお話になっていたことは間違いありません。この御講話の中で、スワミが90歳という年齢に言及していらっしゃることに注目してください。これは明らかに、スワミが（通常の暦での）90歳を超えても肉体の中に留まろうとしていらっしゃったことを意味します。

スワミの伝記作者による説明

故シュリ ラー ガナパティは、バガヴァンに非常に近い帰依者であり、様々な言語の経典に造詣の深い学者でした。彼は、“Baba: Sathya Sai”と題するスワミの伝記シリーズを書きましたが、これはバガヴァン シュリ サティヤ サイババの生涯を書いた素晴らしい捧げ物と見なされています。以下は、そのシリーズのある巻に記載された出来事です。

スワミの大学の学生たちは**1976年7月**のウータカムンドの夏期講習の最中に、もう一つの珍しい創造物（訳注：後述の18の機関の位置を示す、スワミによって物質化された未来の世界地図）を目の当たりにするという特権に預かりました。**この肉体で96歳を迎えると宣言されたスワミは、残りの46年の間に、御自身によってインド全国に18の重要な機関が設立されることになる**と仰いました。

— “Baba: Sathya Sai”（第2部）ラー ガナパティ著 p.85

ここで注目すべきは、スワミが96歳まで生きると仰ったばかりでなく、1976年以降、46年間その肉体で活動されると仰ったことです。スワミはその時50歳であり、だからこそ、全部で96年の生涯の中の「残りの46年」のことをお話しになったのです。スワミが間接的に、その時点での御自身の通常の暦による実際の年齢をお認めになったわけですから、ここで言われる96歳も46年もまた、通常の暦による数字であると考えるのは、論理にかなっていません。スワミが同時に二種類の異なる暦をお使いになっていたはずはありません。しかし、1976年以降（2011年に肉体の衣を脱がれるまで）スワミはその肉体に35年しか留まっていられませんでした。通常の暦の35年が、太陰暦のみならず、いかなる暦法による46年にも相当するはずがない¹ことは明らかです。

おそらく、すべての証拠の中で最も納得できる証拠は、ほかならぬ、神の生涯に関する輝かし

¹通常の暦の36年が46年に匹敵する暦は、1ヶ月がわずか23日、1年が276日でなければなりません。

い伝記作者として選ばれた偉大な（故）カストゥーリ教授が残された次の言葉でしょう。

ババは、2020 年を過ぎるまで人間の姿をして留まることを私たちに確約してください
ました。

— “The Life of Bhagavan Sri Sathya Sai Baba”

N.カストゥーリ 著。1971 年刊 p.235

幸運なことにスワミは、最も優れたメッセンジャーであったカストゥーリ教授を通じて、年齢ではなく年号に言及されることによって、疑問の余地を残さず、この議論に完全に終止符を打って下さったのです！

第2章 スワミの御計画とは？

前の章で、私たちはスワミが太陰年でお話になっていたのではないことについて検討しました。

それではスワミは計画を変更されたのでしょうか？

いったい何が起きたのでしょうか？ なぜこのような矛盾が生じたのでしょうか？ スワミは御自身の最初の計画を変更されて、予定より早く肉体を離れることを決意されたのでしょうか？

この件について尋ねられると、一部の帰依者たちは、「スワミはいつでも御自身の計画を変更することが出来る」とさえ言います。もちろん、スワミはそれがお出来になります！ スワミはアヴァターです。スワミは神です。スワミは、何でもお望みの通りにする力をお持ちです。しかし私に理解できないのは、スワミ御自身の計画に対する「想定される」変更をスワミが予測されなかったという理由でアヴァターを責めるという見識です！ しかも、スワミがその逆のことを何度も繰り返して仰っているのを聞いた後であるにも関わらずです。それはたとえば次のような御言葉です。

私の言葉は決して間違ふことはありません。必ず私の意志した通りのことが起きなければならぬのです。

—『サティヤ サイ スピークス (第1巻)』第31章

私が意志したことは必ず起きなければなりません。私が計画したことは必ず成功しなければなりません。

—『サティヤ サイ スピークス (第12巻)』第38章

ひとたび私の言葉が発せられれば、それはその通りに起きなければなりません。それを疑ってはなりません。

—『サティヤ サイ スピークス (第1巻)』第16章

わずかでも私の進路を変えたり、私の振る舞いに影響を及ぼしたりすることのできる者は一人もいません。私は万物の主なのです。

—『サティヤ サイ スピークス (第1巻)』第30章

アヴァターの通り道の足取りは一步一步前もって定められています。

— 1968年11月23日の御講話より

主なる神は、決して自分の言葉から逸脱することはありません。

—『サティヤ サイ スピークス (第2巻)』第22章

私の活動や動きは、それらに関して人が何を言おうとも、決して変更されることはありません。

—『サティヤ サイ スピークス (第5巻)』第42章

状況によっては、ある程度の変更が生じるかもしれません。それらは永続するものではありません。私はそうした出来事のために方向を変えることはありません。

—『サティヤ サイ スピークス (第17巻)』第14章

上の言葉はすべて、それ自体が雄弁に語っています。私にとって、最も特別で断固とした御言葉は、「ひとたび私の言葉が発せられれば、それはその通りに起きなければなりません」です。スワミが、何であれこれから起きることを御存じであると言うだけに留まらなかったことに注目してください。それは当然のことです。スワミは、その先を行かれて、口から出たことは、必ずその通りになる!と宣言されたのです。

計画の変更ですか？ それは否定的に物事を見る人々のみ考えることだと言えましょう！

それでは、スワミの御計画とはどのようなものでしょう？

神のみが計画を知っています。というのも、その計画は神のものだからです。皆さんが見るのは舞台の上の劇の一部だけであり、したがってすべてが非常に混乱して見えます。物語の全体が開示されれば、その時初めて皆さんは神の計画を喜ぶことが出来ますが、それまではそれが出来ません。

—『サティヤ サイ スピークス (第17巻)』第14章

スワミの御計画がどのようなものかは、誰も予測したり予言したりすることは出来ません。常々スワミは、私たちは皆スワミの不確実性を愛さなければならぬと仰ってきました。唯一確実なことは、何であれスワミが仰ったことは必ず起きることです。どのように？ いつ？ どこで？ …その答えは、限りある命の我々の能力を超えています。時間のみがその神秘を解き明かしてくれることでしょう。

私の不確実性を愛しなさい！ というのも、それは間違いではないからです。それは私の意図であり、意志であるのです。覚えておきなさい。私の意思なしには何一つ起きません。静かにしていなさい。理解したいと思ってはなりません。理解することを求めてはなりません。理解を放棄しなさい。理解したいと強く願う衝動を手放しなさい。

—『サッティヤム シヴァム スンダラム 第3巻』

第3章 スワミが御自身の寿命について 話されたこと

スワミは何回かにわたって、地上における御自身の寿命についてお話になったことがあります。そのうちのいくつかは（御講話の中での）公的な宣言であり、また別のいくつかは個人インタビューの中で語られ、そのインタビューの場にいた帰依者たちが後で書いた本によって明らかしたものです。以下にご紹介するものには、スワミの御講話や御著書から取ったものも含まれています。

1. 私は、命に限りのあるこの人間の姿の中にと 59 年留まって、このアヴァターの目的を必ず達成するでしょう。それを疑ってはなりません。

— プラシャーンティ ニラヤムにおける御講話
1960 年 9 月 29 日

〔上の引用によれば、スワミは 93 歳か 94 歳まで生きられることになります。1960 年の 59 年後は、2019 年になります。2019 年には、スワミの年齢は 93 歳です。2019 年 11 月 23 日の御降誕祭以降は、スワミは 94 歳になられます。〕

2. 私はこの肉体の中にと 58 年留まります。これについてはすでに皆さんに約束しています。

— プラシャーンティ ニラヤムにおける御講話
1961 年 10 月 21 日

〔引用 1 と同じ年齢を示しています。〕

3. 今日だけでなく、96 歳まで、私はこのようであるでしょう。

— 『サティヤ サイ スピークス（第 36 巻）』第 14 章

4. (カストゥーリ教授)：ババは、2020 年を過ぎるまで人間の姿をして留まることを私たちに確約してくださいました。

— “The Life of Bhagavan Sri Sathya Sai Baba”
N.カストゥーリ著 p.235

〔2020 年には、スワミは 94 歳になられます。11 月 23 日の御降誕祭以降は、スワミは 95 歳になられます。カストゥーリ教授は、「2020 年を過ぎるまで」と書いているので、これは 95 歳以上の年齢を指していると考えられ、引用 3 と一致しているものとみなすことが出来るでしょう。〕

5. ゲスト¹：それではプレーマ サイには、すべき仕事がいまだにたくさんありますね！すでにスワミが世界を平和な状態になさった後になりますから。

サイ：それは40年ほど先のことです。その頃には、世界は平和になっているでしょう。プレーマサイ、それが名前です。すべてが愛になるでしょう。---愛、愛、いたるところが愛になります。

—“My Baba and I” J.S.ヒスロップ著 p.189
1978年12月のインタビューから

[上の会話からは、スワミがいつ肉体をお離れになるかということに関する決定的な証拠は得られませんが、プレーマサイの時代は2,018年よりも後になり、サティヤサイ アヴァターがそれまでに世界を平和にしていられという手がかりを与えてくれます。これも引用3と一致しています。]

6. このインタビューによって、ひとつの副産物が生まれました。ババは私たちに、自分は94歳まで生きると仰ったのです。

—“Modern Miracles”アーレンドゥルハラルドソン著 p.46

7. ババの予言の一つで、時が来たら読者諸氏に検証していただくものがあります。ババは、94歳まで生きると、何度も繰り返して仰いました。

—“Modern Miracles”アーレンドゥルハラルドソン著 p.294

8. この体は96歳まで生きて、若さを保っているでしょう。

—『サティヤサイババとの対話』J.S.ヒスロップ著
米国カリフォルニア州サンディエゴ市バースデー出版社 1978年刊 英語版 p.83。[上記のインタビューは、この版にのみ記載されています。]

9. スワミの大学の学生たちは**1976年6月**のウータカムンドの夏期講習の最中に、もう一つの珍しい創造物（訳注：後述の18の機関の位置を示す、スワミによって物質化された未来の世界地図）を目の当たりにするという特権に預かりました。**この肉体で96歳を迎えると宣言されたスワミは、残りの46年の間に、御自身によってインド全国に18の重要な機関が設立されることになる**と仰いました。

—“Baba: Sathya Sai”（第2部）ラーガナパティ著 p.85

[上の引用によれば、スワミは1976年6月以降、46年生きられることになります。これは2022年のいつか（もしくは2021年の終わり頃）を示しています。]

¹ ヒスロップ博士と共にインタビュールームにいた帰依者

スワミの年齢は、上記の引用の中のいくつかにおいては（スワミが地上で姿をお見せにならないのは）94歳と仰り、また別な二～三の場面においては、96歳と仰っています。（訳注：太古の聖仙たちによって書かれた）サティヤ サイ アヴァターに関する幾つかの予言にも、96歳という年齢の言及があります。

上の引用を分析して、スワミがこの地球をお離れになるのはいつであると予言されているのかを考えてみましょう。

- a. 引用1と2は、2019年の10月から2020年8月までの期間を指しています。
- b. 引用3と8は、スワミが2021年12月から2022年11月までの間に肉体をお離れになることを意味しています。
- c. 引用4と5は、引用3と8と符合すると見なすことができます。
- d. 引用6と7は、2019年12月から2020年11月までの期間を示しています。
- e. 引用9は、2022年のいつか（もしくは2021年の終わり）を指しており、これは引用3と8に包含されていると見なすことができます。

私たちが94歳という言及のある“a”と“d”だけを取って、カレンダーに関連付けてみれば、2019年12月から2020年8月までという期間が得られます。[“c”と“e”は“b”と一致していると見なして]これを96歳に言及している“b”と比較すれば、両者の間に15カ月から36カ月の差があることが分かるでしょう。言い換えれば、スワミが94歳と言及されたときと、96歳と言及されたときがあって、このスワミの寿命に関する二つの見解の間には、少なくとも15カ月以上の隔たりがあるのです。

〔最小限の差異は、2020年8月の次の月から2021年の12月の前の月までの間で、15カ月になります。最大の差異は、2019年12月から2022年11月までで、36カ月となります。〕

可能性として考えられる一つの説明

私は決して意味のない言葉は発しません。

— “The Life of Bhagavan Sri Sathya Sai Baba”

N.カストゥーリ著 p.196

スワミの二つの異なる発言の矛盾を説明することはできるのでしょうか？ それは何を意味するかはスワミのみが御存じで、私たちはせいぜい憶測が出来るだけです。私たちが確実に知っている唯一のことは、スワミが間違いを犯されないということです。スワミが仰ることは何でもあれ、その通りのことが起きなければなりません。この視点に立てば一つの結論を導き出してみることが可能です。

一方でスワミは、その肉体の中に94年間いらっしゃると仰っており、もう一方では96歳ま

でいらっしゃると仰っています。それはいったい何を意味するのでしょうか？ それは、スワミが約 2 年にわたって、肉体をお離れになる¹というヒントだったのではないのでしょうか？ これは一つの可能性として非常にあり得ることです。現にスワミは今²、肉体をお離れになっていらっしゃいますよね？

これまでの分析から導き出された「食い違いの期間」を考え合わせてみると、スワミの言葉は、肉体をお離れになった時から数えて 15 ヶ月以上、36 ヶ月未満で「復活」されることを意味しているのかもしれませんが。スワミは、2011 年の 4 月 24 日に肉体を離れられたので、この復活の時期は、2012 年 7 月から 2014 年の 4 月までの間である可能性が出てきます。

私の英知を信頼しなさい。私は過ちを犯しません。

—『サナタナ サラティ』誌 1984 年 8 月号

¹もしくは姿を消す。

²本書の初版が出版された 2012 年 4 月 8 日現在

第4章 未来に関するサイの予言

スワミは、御自身とその使命に関して多くのことをお話しになっただけで済ませないで済ませなければならぬでしょう。というのも、車や飛行機の周囲に押しかける群衆が膨大な数になるからです。私は空を横切って移動しなければならないでしょう。そうです、そのようなことも起きるのです。私を信じなさい。

以下は、そのほんの一部を列挙したものです。〔下記に列挙したのは、サティヤ サイ アヴァターの時代には、確実にまだまだ多くの素晴らしいことが起きることを示すためであって、それ以外の目的はありません。〕

私がある場所から別な場所へと移動するときは、車や飛行機さえも使わないで済ませなければならないでしょう。というのも、車や飛行機の周囲に押しかける群衆が膨大な数になるからです。私は空を横切って移動しなければならないでしょう。そうです、そのようなことも起きるのです。私を信じなさい。

—『サティヤ サイ スピークス (第2巻)』第18章

私を信じなさい。皆さんが私のローブの小さな赤いひらめきを、非常に遠くから、それも大変な努力をして、やっとのことで見つけることしか出来なくなる日が来ます。皆さんは、スワミが空の端から端まで歩いて渡るときに、スワミの栄光に気づくことでしょう。

—“Thapovanam: Sri Sathya Sai Sathcharithra”

ジャンディヤーラ ヴェンカテーシュワラ シャーストゥリ 著 第1章

以前、ゴーヴァルダナギリ山を小さな少年が持ち上げたとき、ゴピーやゴパールたちは、クリシュナが神であることに気づきました。今度は、一つのゴーヴァルダナギリだけではなく、一つの地域全体が持ち上げられるのです。皆さんはそれを見るでしょう！ 忍耐力を持ちなさい、信仰を持ちなさい。

—『サティヤ サイ スピークス (第3巻)』第15章

〔このときスワミは、たとえ話を使って御自身の任務が膨大なものであることを説明されていたのかもしれませんが。しかし、スワミの場合はあらゆることが可能です。〕

繰り返しますが、皆さんは何と幸運なことでしょう。皆さんは、世界中のすべての国々がバーラタに敬意を表するのを目撃出来ることでしょう。この肉体が、皆さんの前に生きて存在している間に、サティヤ サイの名前を敬愛する声が世界中に鳴り響くのを聞くことが出来るでしょう。また皆さんは、間もなくサナタナ ダルマ (永遠の法) が、全世界のすべての人々の善のためにヴェーダの中に定められたダルマが、純粋で自然な状態にまで復興されるのを目の当たりにすることでしょう。

—1968年5月17日の御講話より

この肉体は、**ダルマを確立しダルマを教える**という目的に役立てるために私が身に着けたものです。その目的が終われば、この肉体は水面の泡のように消滅するでしょう。

—『サティヤ サイ スピークス (第10巻)』第39章

上の引用から明らかなように、スワミは、御自身が現在の姿で生きていらっしゃる間に起きる素晴らしい奇跡について話していらっしゃいます。スワミはまた、御自身の肉体が存在している間に、いかに世界のすべての国々がインドに敬意を表するかということや、御自身の肉体が消滅する前にダルマが完全に確立されるだろうということについても言及していらっしゃいます。

上のスワミの御言葉は、明らかに、スワミの存命中に起きる出来事を示していますが、スワミはまた、サティヤ サイ アヴァターの時代に起きるべき、さらに多くの素晴らしいことを示唆していらっしゃいます。以下に示す抜粋は、スワミの御講話や、文書化されたインタビューから取ったもので、元になる引用文は、第9章「サティヤ サイの黄金時代の幕開け」に提示されています。

- プレーマ サイが生まれるときは、世界はすでに平和になっていることでしょう。
- スワミは黄金時代を導き入れますが、それは誰もが予期しているよりも早くやって来ます。その黄金時代の美しさは誰も想像することが出来ません。それはあらゆる夢よりも、はるかに素晴らしいものとなるでしょう。
- 変化は普遍的なもので、あらゆる場所で起きるでしょう。
- サイの国（サイ ラーシュトラ）が確立されるでしょう。その地上天国を体験できる人々は、まことに恵まれています。
- すべての混乱がまもなく地球の表面から一掃されることでしょう。誰もが神聖な感情を培うことでしょう。すべての人が神の至福を楽しむことでしょう。まもなく国全体が平和と幸福を楽しむことでしょう。いかなる困難も苦しみも存在しなくなります。
- すべての国の人々が一致団結するでしょう。
- スワミの名と姿があらゆる場所で確立されることになるでしょう。それは世界中のすべての場所をくまなく占めることになるでしょう。
- サイの集まりにおいては、人々が立つ場所すらなくなるでしょう。
- サイ オーガニゼーションの会員であることは、将来非常に大きな利点となるでしょう。サイの集まりは非常に多くの人々をひきつけるので、一般の人々を収容することはできないかもしれません。利用できる空間はすべてサイ オーガニゼーション内の人々に割り当てられることになるかもしれません。
- 全世界がサティヤ サイ オーガニゼーションに変わるでしょう。そしてサティヤ サイが一人ひとりすべての人のハートの中に祀られるでしょう。
- すべての国々がインドに敬意を表するでしょう。インドは、霊的にも、文化的にも、社会的にも、政治的にも、経済的にも、あらゆる面で世界のリーダーとなるでしょう。
- 将来、全世界がブラシャーンティ ニラヤムに来ざるを得なくなるでしょう。

- 私たちは皆、プッタパルティがマドゥラナガール（クリシュナ生誕の地）となるのを見ることでしょう。どこにいても、世界地図はプッタパルティを重要な場所として表記するようになるでしょう。

[元の引用文については、第9章「サティヤ サイの黄金時代の幕開け」を参照してください。]

私たちに疑う資格はない

カストゥーリ教授は、『サッティヤム シヴァム スンダラム（第4部）』の中で、かつてアーノルド シュルマンが「石器時代から 5 分も経っていない」と記述したプッタパルティと呼ばれる小さな村落が、神の意志のみによって、美しい霊的な天国へと変容を遂げた様子を説明しています。スワミはわずか 17 歳の時に、ラクシュミアーという名前の僧侶に、非常にたくさんの人々が彼のダルシャンを受けに来るようになると打ち明けました。ラクシュミアーはその時に聞いたことを信じるのが出来ませんでした。当時はそんなことが可能だとは思えなかったからです。歳月が流れ、非常に多くの群衆が集まり始めると、ラクシュミアーは遠くから主を垣間見るだけで満足しなければなりませんでした。その頃には、彼はあの言葉を信じるようになっていました！

スワミは、65 歳の誕生日に、人々に無料で医療を施す最先端の特別専門病院を建てることと、わずか 1 年で心臓手術を行う準備が整うことを宣言されました。専門家たちはそれを一笑に付してそんなことはできないと言いました。バガヴァンの側近たちの中にも、それほど巨大な計画を支える資金がどこから来るのかと疑問視する人々もいました。病院の設計に携わった有名な建築家キース クリッチロウ博士も、疑念を抱えていました。「米国のような非常に技術的に進んだ国においてさえ、この種の特別専門病院を 7 年以内に建設することはできない。それなのにスワミは、この病院をどうやって 6 カ月で建てるというのだろうか？」と、彼は戸惑いました¹。あらゆる疑念にもかかわらず、神の御意志によって、その翌年のスワミの 66 歳の降誕祭に病院の落成式が行われ、その日のうちに、4 件の心臓切開手術が行われました！ こうした奇跡的な出来事の話をとくさん聞いた後でさえ、私たちはついつい疑いを抱えてしまいます。実際、主の表現が大げさでも誇張でもなかったことを、主御自身に明確にさせていただきたいと求めるほどに、事態は悪化してしまうのです。

神の愛の化身である皆さん！ 私がこれから言うことを誇張と受け止めてはなりません。私には、自己関心の痕跡すらありません。

—『サティヤ サイ スピークス（第23巻）』第34章

¹ 参考資料：ジャンディヤーラ ヴェンカテーシュワラ シャーストゥリ 著 “Thapovanam: Sri Sathya Sai Sathcharithra”

サイの物語は、かつては不可解と思えた物事が、後になって奇跡的に、神の御意志の典型として顕現されるものであることを、私たちに示して来ました。何かを疑っていた人々が、後になってそのことを、神の栄光を垣間見るために体験させていただいたことであって、スワミの使命にとっては偶発的な出来事に過ぎなかったと言って称賛するのです。彼らのほとんどは、自分たちがかつてそうした疑いを抱いていたことを忘れてしまいます。また覚えている者は、恥ずかしくなって、アヴァターを疑った自分の無知を恥じ、それを深く悔いることになります。

スワミが何か起きると仰るとき、それは必ず起きるのです。私たちにそれを疑う資格はありません。私たちは、集まってスワミの栄光を讃える時にも、シュリ サティヤ サイ アヴァターの全能の力によって今後起きることになっている素晴らしいことが確実に起きると分かるように、知恵と判断力を授けてくださいと祈りましょう。

第2部

再臨



第5章 スワミの再臨が迫ることを示す前兆

スワミは、この地球に愛と平安に満ちた新しい時代が到来すると宣言されました。それをスワミは「黄金時代」と呼んで、スワミの存命中にそれが訪れるだろうと仰いました。

多くの人々が、事態が改善される、人生はすべての人々にとって幸せで喜びに満ちたものとなる、そして**黄金時代が再びやって来る**、と信じることに戸惑いを覚えています。**断言しますが、このダルマの化身は、この神聖な肉体は、無駄にやって来たのではありません。**この化身は、人類に訪れた危機を回避させることに成功するでしょう。

1968年のスワミの御言葉『サイババ --- 聖者と精神科医』英語版 p.91

〔「サティヤ サイの黄金時代の幕開け」の章を参照してください。黄金時代を確約するスワミの御言葉が他にも紹介されています。〕

スワミは多くの御講話やインタビューの中で、黄金時代に関する話をされています。スワミはまた、身近な一部の帰依者たちに、来るべき黄金時代の驚くべき詳細を明らかにしていらっしゃいます。英国人のサイの帰依者ルーカス ローリは、『あなたと私へのサイメッセージ』という全四巻の著書の中で、スワミのメッセージをいくつか集めて紹介しています。そのうちの一つに次のようなものがあります。

今日あまりにも広く行き渡っている悪を根こそぎにするような大変動が起こり、「再臨」が前触れとなって、黄金時代が到来するでしょう。

—『あなたと私へのサイメッセージ』第Ⅱ巻
ルーカス ローリ著 英語版 1988年刊 p.70

私はこれまで、上にあげたスワミのメッセージを引用した本を何冊も見て来ましたが、それらは全て「再臨」という言葉を、プレーマ サイババの到来と解釈していました。しかし、スワミが予期されたよりも早く肉体をお離れになった今、上の言葉に新しい意味が加わることになりました。スワミは、サティヤ サイババと同じ姿による「再臨」があるというヒントを下さっていたとは考えられないでしょうか？ 黄金時代はサティヤ サイ アヴァターの時にやって来る、とスワミが仰っているので、なおさらです。悪と不調和が蔓延している今の時代には、それほど壮大な規模の奇跡が起きなければ、悪を根絶して、人々の意識を神に向かせることはできないように、私は思います。

シュリ サティヤ サイ高等教育機関（サイ大学）の教授で、同大学の初代の副学長を務めた故 V.K. ゴーク教授は、インドの著名な詩人でもありました。彼はスワミと個人的にお会いする機会を何度も与えられ、スワミに関する本を数冊書きました。教授は、“Bhagavan Sri Sathya Sai Baba”という著書の中で、「サティヤ サイ アヴァターの生涯には、『神の時間』

(同書 p54) とも言うべき『決定的な瞬間』が訪れるだろう」と示唆しています。その決定的な瞬間とは、サティヤ サイの復活ではないのでしょうか？ スワミもまた、黄金時代は、スワミの神性に世界の注目を引き付ける、一つの（もしくは一連の）出来事によってもたらされるだろうと述べていらっしゃいます。

目覚めの日は遠い先のことではありません。その日が来ると、神の真の力が、神の遍在が明らかになることでしょう。それは、続いて起きる大きな前進の合図であり、この挑戦を受け入れる準備のできていない人々は取り除かれることでしょう。

—『あなたと私へのサイメッセージ』第I巻
ルーカス ローリ著 1985年刊

これから起きるひとつの奇跡

2011年4月24日に肉体をお離れになる前に、バガヴァンは米国オハイオ州キャントン市に住む帰依者のシーマ デーワンにインスピレーションによる三つのメッセージをお授けになりました。シーマ デーワンの書いた本は、サイの帰依者たちの間で有名で、彼女の名前は広く知られています。1990年の8月、スワミはシーマ デーワンに、彼女の内面におけるスワミとのコミュニケーションのすべてを記録しなさい、それはいつか人類の役に立つことになり、と仰いました。このような経緯から彼女の最初の本である『サイ ダルシャン (Sai Darshan)』(プラシャーンティ ニラヤムのシュリ サティヤ サイ出版局によって出版) が書かれました。1997年9月、スワミは合計11回にわたって、ダルシャンの最中にこの本の原稿を祝福され、その上2度もヴィブーティを原稿の上に注がれたのです。スワミが、肉体をお離れになる直前に(ビジョンや内面の会話を通じて) シーマ デーワンに授けられたメッセージは、『サイ ダルシャン』同様、世界中の多くの帰依者に、大いなる慰めと感動を与えています。彼女は、次のように書いています¹。

スワミはその時、“*For Your Sake Only* (あなたのためだけに)” と、“*Everything is Possible* (あらゆることが可能です)” と、“*A Miracle to Come* (これから起きる一つの奇跡)” という三つのメッセージは、スワミの健康に関する最後のメッセージであり、それはサイの帰依者たちの手の中で、常に安らぎと励みを与える道具となるだろうと仰いました。スワミはまた私に、テッド ヘンリー氏²と妻のジョーディー夫人に、三番目のメッセージのビデオを作るように頼みなさいと指示されました。

¹ シーマ デーワンが受けたメッセージの原文の抜粋は、すべて saidivineinspirations.blogspot.com から引用しています。

² テッド ヘンリーは、退職したテレビジャーナリストで、オハイオ州クリーブランド市に住む長年にわたるサイの帰依者です。彼はジョーディー夫人と共に、数多くのサイの帰依者たちのインタビューを行っています。これらのビデオは、二人が開設したウェブサイト souljourns.net で見る事が出来ます。シーマ デーワンが受け取ったメッセージのビデオ版も、彼らのウェブサイトで見ることが出来ます。

“A Miracle to Come (これから起きるひとつの奇跡)”というメッセージは、スワミが肉体をお離れになる前日、2011年4月23日にシーマ デーワンが受けたものです。そのメッセージの中で、スワミは次のように仰っています(抜粋)：

ひとつの奇跡が起きようとしています。私の愛する皆さん。…私だけがそのことをよく知っています。もし皆さんが、日々が過ぎるのを待ち、不屈の精神で自分を保つことが出来るなら、そして皆さんがもうこれまでと思うより…少しだけ長くしがみついていることが出来るなら、私の愛する皆さんは、私が皆さんに見せようとして、また皆さんがそれを生きるために、私がこれから繰り広げることを、目撃しはじめることでしょう。----- ひとつの奇跡が起きようとしています。皆さんはそれを祈り求めて来たのです。

このメッセージについて、シーマ デーワンは次のように語っています (抜粋)。

スワミは、土曜日の朝、『これから起きる一つの奇跡』というメッセージと共に私のところにお見えになりました。スワミはそれを朝早く私にお与えになりましたが、午前9時までそれを公開することをお許しになりませんでした。スワミは、これから黄金時代がやって来ることを私に約束してくださいました。もちろん、私はその時、スワミが再び前の御身体にお戻りになるのだと思いました。スワミは、物事をはっきりとは説明されませんが、確実にスワミのお仕事が成就するようになります。

シーマ デーワン自身が認めているように、その時彼女は、スワミが御自身を癒されて、肉体に戻られると考えました。スワミが一つの奇跡が起きようとしていると仰っているわけですから、当時そのメッセージを読んだ人は誰もが同じように考えたことでしょう。しかしスワミは、翌日肉体をお離れになりました。それでは、スワミが仰る奇跡とはいったい何なのでしょう か？

スワミは、肉体を去られた翌日の2011年4月25日に、彼女に“I Have Gone Nowhere (私はどこにも行っていません)”という、もう一つのメッセージをお与えになりました (抜粋)。

清らかな心と愛に満ちたハートを持つ献身的な人々は、折に触れて何度も私を呼ぶでしょう。そうした人々のみが、清らかさの力によって、私を再びこの世に見えるようにし、私は再び、両手に一杯贈り物を持ってやって来るでしょう。皆さんは私の言葉を信じなければなりません。というのも、何であれ、私の言ったことは決して無駄にはならないからです。何であれ、私の言ったことは真実になるからです。常に私を思い出さない。私があなたの目の前にいることを知らない。感情から自己を解き放って、私が戻って来るのを待ちなさい。

このメッセージの中でスワミは、もう一度この世に見えるようになると仰っています。それはプレーマ サイ ババの降臨と解釈することもできます。しかし、それではどうしてスワミは、

再び戻って来られることを描写するのに、「この世に見えるように」という表現が使われたのでしょうか？〔後ほど「空にビジョンが表れる？」という章で、この点についてさらに論じることになります。〕このメッセージを、その前の（『これから起きるひとつの奇跡』という）メッセージと併せて読んだ時に、初めて私たちは、近い将来に奇跡が起きるという示唆を読み取ることが出来るのです。スワミがお話しになっている奇跡とは、プレーマ サイの降臨のことであるはずがありません。それはすでに期待され、待たれているからです。同じ理由から、「皆さんは私の言葉を信じなければなりません。」「何であれ、私の言ったことは決して無駄にはならないからです。」「何であれ、私の言ったことは真実になるからです。」という確約もまた、プレーマ サイババの降臨のことだと考えることはできません。予期されたよりも早く「この世を去られた」のは、サティヤ サイ アヴァターの御姿です。ですから、時宜を得たその確約は、同じサティヤ サイババの御姿での復活に関するものであるに違いありません。しかしながら、スワミは、「皆さんがもうこれまでと思うより…少しだけ長くしがみついて」と仰っているので、スワミが直ちにお戻りになるという可能性は排除した方がいいでしょう。このことは、間近に迫ったスワミの再臨に関して本書で取り上げた、他の多くの手がかりの裏付けとなります¹。

帰依者たちの夢

スワミに関する夢は、スワミの御意志があって初めて見る事ができるものです。それは真実であって、夢を見た帰依者に明確なメッセージを伝えます。

スワミが夢に現れるのは非常に縁起の良いことです。[…中略…] 一般に夢はあなたの中にあるものの反射、反応、反響です。スワミが現れる夢に関しては、それは当てはまりません。スワミが夢に現れるのは、スワミが意志するときに限られるのであり、あなたがそれを望んでいる時に現れるものではありません。

—『サティヤ サイ スピークス（第31巻）』第44章

私が意志した夢は非常にはっきりとしていて、混乱や疑いの余地がありません。私があるあなたの許にやって来て、私が伝えたいことを、最も直接的な方法で伝えるのです。

—『サティヤ サイ スピークス（第31巻）』第44章

スワミが肉体をお離れになって三ヵ月ほど経ったとき、シュリ B.N. ナラシマムルティ²は、現在彼が学長を務めている（サイ大学の）ムッデナハリ校に関して、夢の中でスワミから詳細な指示を受けました。

¹ これらの解釈は、著者自身による解釈です。

² シュリ サティヤ サイババに関する公式の伝記：『サッティヤム シヴァム スンダラム』（第5, 6, 7巻）の著者

スワミはその夢¹の中で次のように仰いました。(抜粋)

私がここに来るグル プールニマの日 (2011 年 7 月 15 日) までに、丘の上の建物を、私が滞在できるように準備しておきなさい。グル プールニマの日に私はそこに入って、ずっとそこに留まります。私はここから様々な場所を訪れて戻って来ます。しかし私は、ここに永久に留まります。

スワミは、さらに、そこでスワミの姿が見られるようになると仰いました。

次にスワミは、“*Nenu akkadiki vastaanu, akkada kanabadutaanu.*” (私はそこに来ます。そこで私の姿が見られるようになるでしょう) と仰いました。

上に述べた夢の中でのスワミの言葉に関して、シュリ ナラシマムルティは次のように詳述しています。

スワミの御姿が誰に見えて誰に見えないかは、スワミの御意志に委ねられます。かつては、人がそれを受ける資格があるかどうかに関わらず、スワミが誰にでもダルシヤンを授けていらっしゃった時期がありました。その機会は 2011 年 4 月 24 日で幕を閉じたのです。今後は私たちの中でスワミのダルシヤンを受ける資格のある人々がそれを与えられ — スワミが意志された時にスワミを見ることが出来るのです。なぜなら、過去 46 年余りにわたるスワミとの関わり合いの中で、スワミの御言葉が真実にならなかったことは一度もなかったからです。間違いなく、いつの日か私たちはスワミの御姿を見ることになるでしょう。

かつてシュリ サティヤ サイ大学の副学長を務めた故 K. ハヌマンタッパ博士は、“*Sri Sathya Sai Baba A Yugavatar*” という著書に、スワミがプッタパルティの将来を見せて下さった夢について詳しく書いています。「プッタパルティの未来のビジョン」という章の中で博士は次のように説明しています。(同書 p.165-167) :

ある日、私の夢の中で、スワミは将来プッタパルティがどのようなになるかの説明をお始めになりました。スワミは私を一段高い場所にお連れになって、その場所から最も重要な発展力所について、ひとつずつ私にお示しく下さいました。それらの中には、スワミが現在のブラシャーンティ マンディールから、チトラーヴァティ川の対岸の丘の上の宮殿のような建物にお住まいを移されたことも入っていました。丘の周りに、敷地を囲う大きな堀が建てられているところでした。(…中略…) 敷地全体が武装した軍隊に守られていました。

彼が夢で見た中で、本書のテーマと関連性があるもの :

¹ この抜粋は www.sssso.net から取りました。

- 異なった国々から来た帰依者たちがブッタパルティ周辺に居留地を作っている。スワミは丘を降りて、御自身をいくつもの分身に分けて、これらの居留地を同時に訪れてダルシヤンを与えていらっしゃる。
- スワミは御自身の身体を増やして何百人ものスワミの姿になって、それぞれの国の一つひとつのセンターを訪れてダルシヤンを与えていらっしゃる。
- ブッタパルティは賑やかで繁栄した大都会へと成長している。ニューヨークと比肩できるほど、時代の最先端を行く大きな町になっている。
- スワミに直接お会いすることができるのは、選ばれたわずかの帰依者のみである。
- 将来の帰依者たちにとっては、スワミの御姿を垣間見ることさえ非常に困難になる。

ハヌマンタッパ博士は優れた学者で、スワミとの数々の素晴らしい体験がありました。上述の本の中で、博士は人生の様々な局面において、スワミが夢を通してお導き下さったことを説明しています。事実、スワミ御自身がそれらの夢は信憑性があることを認めていらっしゃいます（同書 p. 8）。またこの本が、2008年の3月7日に、スワミ御自身によって発売されたのも興味深いことです。スワミが戻って来られたとすれば、将来に関するこれらのビジョンは、すべて見事につじつまが合うことでしょう。スワミが肉体をお離れになる前は、サイの帰依者たちはそうした様子を容易に思い描くことが出来たはずで、今になってこれらの夢を単なる幻想だと言うのは適切でしょうか？ スワミ御自身が断言していらっしゃるように、スワミの夢は帰依者の想像力の産物ではないのです：

私が夢の中に現れるのは、その人に何かを伝えるためです。それは一般に知られているようなただの夢ではありません。皆さんが夢の中で体験するこうした出来事を、自分の想像の産物と考えてはなりません。

—『サッティヤム シヴァム スンダラム』（第4部）p. 100

私は幸運にも、スワミの恩寵によって、スワミの復活に関して私と似たようなことを信じている多くのサイの帰依者たちの体験を聞くことが出来ました。中には、スワミが前と同じように長期間肉体に留まり続けるとは信じない人々もいますが、何らかの大規模な奇跡が起きる、世界の複数の場所でスワミが「出現」する、一般大衆が「ビジョン」を見るといった点では全員が同意しています。スワミの再臨に関する夢を見ている帰依者たちも何人かいます。

私が遭遇した中で、復活に関する最も啓発的な夢の一つは、シュリ ハイロ ボルハスのものです。ハイロはヴェネズエラの人で 1988 年からサイに帰依しています。彼は、米国オーランド市、コロンビア、メキシコ、ヴェネズエラ等のサイ センターの活動に積極的に参加し、サイ オーガニゼーションの様々な役職も務めて来ました。彼はこれまで何度かプラシャーンティ ニラヤムを訪れています。1997 年から 1998 年にかけてはアシュラムに 1 年ほど滞在しましたが、これはインタビューでスワミから直接に命じられたからです。現在ハイロはコロンビアのボゴタに住んでいます。

彼は 2012 年の 4 月 29 日に美しい夢を見ました。その中で彼は「人類の歴史における非常に

特別な瞬間が間もなく訪れる」というニュースを、サイの帰依者の間に広めるようにスワミに命じられたのです！ 以下は、彼がスペイン語で語った内容を翻訳したものです¹。

昨夜、家に帰り着く前に、私はこれから起きることに備えて準備を整えるようにと促すスワミの声を感じ始めました。その声は、「君は準備が出来ているか？」、「君は準備が出来ているか？」と繰り返し尋ねました。その声が段々大きくなるので、私は初め、怖くなりました。私はどう答えていいかわからなかったので、家に到着したくありませんでした。そこで私は、「スワミの息子である私は、スワミのあらゆる愛と守護を受けるにふさわしく、私は常にスワミのために準備ができています。愛に満ちた私の父であり神であるスワミに対する私の信仰が、常に私を守るでしょう」という思いをスワミに向けながら、ガーヤトゥリー マントラを唱え始めました。しかしその声はますます強くなって行きました。その時私は、その声が、何か素晴らしい驚くべき出来事のために、私に準備を整えさせようとしていることを確信しました。

家に着いた後、私はいつものように寝る前に仕事を始めました。しかし非常に疲れていたもので、あまり長時間続けることが出来ず、ガーヤトゥリーを唱えながら間もなく寝てしまいました。スワミは、非常に鮮明な夢でお見えになりました。その夢の中で、私はサイの霊性教育（バルヴィカス）の生徒たちと一緒にいました。生徒の一人はナーラダという名前で、スワミは、その子はあの偉大な聖賢の本当の子孫であると仰いました。それからスワミは、手を動かしながら私たちに近づいて来られました。スワミは非常に美しく、若く見えました。スワミは私たちにパダナマスカル（神の蓮華の御足に触れること）を許してくださいました。それは非常に深い体験であったので、私は本当にそこにスワミがいらっしゃるように感じました。あまりにも現実感があったので、自分がスワミの肉体を体験したのだと誓うことさえできます。スワミは私に、スワミは本当に生きていて、肉体を残して去って行ったわけではないと仰いました。スワミが私に触れて抱いてくださったとき、私の両眼から喜びの涙が流れ落ちました。

次にスワミは私の手をお取りになって、インタビュー ルームへと私を連れて行かれました。中に入ると、スワミは、「君は準備が出来ているか？」とお尋ねになり、「時が来た。私は君を必要としている。喜んで私の言う通りにしなさい」と仰いました。私はそれまでに体験したことがない、いかなる言葉でも表現できないほどの非常に深い恍惚の中にいました。私はスワミに、「この身体はあなたの身体です。この心はあなたの心です。私はあなたに全託します」と言いました。私は両手を伸ばして、スワミに、これはあなたの腕です。この身体もあなたのものです。ですから、どうぞお好きにお使いくだ

¹ シュリ ハイロ ボルハスの許可を得てここに紹介しました。元のスペイン語による彼の話を、ハイロと著者の共通の友人であるシュリ アナ ディアス ヴィアナが英訳したものです。

と言いました。私はスワミに、どうか、私とスワミの区別が分からないこの意識状態から、決して私が離れることがないようにして下さいと懇願しました。私は、充足と至福の状態であるこの状態を永続的に意識できるようになるまでは眠りにつくたくないと思いました。スワミは私に、「愛しい息子よ、私のために、お前に幾つかのことをしてもらわなければならない」と仰いました。私は分かりましたと言って、スワミの御意志を明確にお示しくださいとだけお願いしました。するとスワミは、私に向かって微笑まれました。私は非常に明るい光で満たされ、その光は、私という存在のすべてに浸透して行きました。

それからスワミは、私の妹コロの祭壇のある部屋に私を連れて行かれました。そこにはコロが瞑想する絨毯が敷いてありました。そこに入ると、スワミはラーマ神の御姿になって、その場所は神の御名と神への愛に満ちていると仰いました。スワミは私に、コロは偉大な帰依者であって、絶えず神の御名を唱え、神を思っていると仰いました。祭壇の周りを動きながら、スワミは恍惚として一種のターンダヴァの踊りを踊り始めました。スワミの両眼からは喜びの涙が流れ落ちて、至福を振り撒きながら輝く光の中できらめいていました。そして私に「ここではラーマの御名があらゆるものに浸透している。コロは素晴らしい帰依者だ。私は彼女を非常に深く愛し大切にしている」と仰いました。ダンスの終わりに、歓喜の状態の中でスワミはババの御姿に戻られて、「私は神である。それだけではない。私はすべての名前であり、すべての形である」と仰いました。

それから私たちは再びインタビュー ルームに戻りました。ババは「清らかなハートを持った帰依者たちは、神の御名を唱えるときに、神の姿を出現させる。コロは神を中心として生きて神の御名を唱えている素晴らしい帰依者である」と説明されました。喜びの涙を両眼に浮かべて、スワミは「このような帰依は私を感動させる。すべての帰依者がこうあるべきだ」と仰いました。そしてスワミは非常に力強く、私たち人類は、人類史の中でも非常に特別な瞬間を目撃しようとしている、と仰いました。それはもう間もなく起きることであり、スワミの力と栄光が、私たちが見たことも想像したこともないようなやり方で明らかになると仰いました。その時が近づいているのです。

スワミは、私に次のように仰いました。「私の帰依者たちは夢から覚めなければならない。私は肉体ではない。また私は、いずれか一つの神の姿ではなく、すべての名前であり、すべての姿である。その永遠にして計り知れない神を、一つの姿に限定することがどうしてできるだろう？ 神である私が常に至福の中にあり、実際、私自身が至福そのものであるのに、どうして私が至福の状態に入ったとか、サマーディ（三昧）やマハーサマーディ（大いなる三昧）に入ったということが出来るだろうか？ もし私が、君がずっと探し続けてきたものならば、私こそが、全ての幸福と至福の根源そのものである」。

「おお、帰依者たちよ、目を覚ましなさい、目を覚ましなさい、目を覚ましなさい・・・偉大な賢者や聖人たちが長い長い間待ちわびていた時が、すぐそこまで近づ

いている。私が何者かを知るがいい。遍在の私の実態を、その偉大さと栄光を知るがいい。そして、もうすぐ展開しようとしている非常に特別な出来事に備えなさい。私はみんなが想像すらできないやり方で戻って来る。私を信頼しなさい。完全に信じて全託しなさい。もう間もなく、すべての人が私の栄光とその偉大さを知るだろう。

「さあ、君は世界中を回って私のメッセージを広く伝えなさい。みんなに準備を整えておくように言いなさい。これは偉大な時であり、偉大な機会である。人類史の中でも非常に特別なことが、今まさに起きようとしているのだ」。スワミは話を終えて、私に別れをお告げになりました。私は目にいっぱい涙をためながら聞いていましたが、スワミに、どうか行かないでください、私がこの幻影の世界に戻ることがないようにして下さい、とお願いしました。私はスワミに、「私の手は常にスワミに奉仕をすることに使われていますので、私の心を永遠なるものに留めて日常のものごとの面倒を見てください。おお、スワミ、行為者は常にあなたです。どうか私がいつまでもこの幸せと至福の中で生きることが出来るようにして下さい」と懇願しました。スワミと握手をしながら、私はスワミに別れを告げました。私は愛と喜びと恍惚の涙に浸っていました。おお、私の愛しいスワミ、私はどれほどあなたを愛していることでしょうか！

ハイロ ボルハスの夢は、素晴らしい出来事が起きようとしていることを明示しています。多くのサイの帰依者たちが、スワミが間もなく再び出現されることを明らかに示された、自分が見た夢について、私に詳しく語ってくれました。しかしそうした夢には、スワミと帰依者の間の個人的なことが入るので、その詳細は活字にしない方がいいでしょう。ただ要点を言えば、それらの夢は帰依者たちに、スワミが同じ身体で戻って来られることを明らかに示すものでした。何人かの帰依者は、スワミが様々な場所に同時に現れ、世界中の人々がそのビジョンを見たと言ったと主張するという、驚くほどよく似た夢を見えています。私はまた、一部の経典には、胸が躍るほどこれらの夢にそっくりな予言が書かれていることを知りました。それらの予言については、この後の章で詳しく紹介しています。

スワミが私たち全員に何を用意していらっしゃるのかは、時間がたてば明らかになるでしょう。しかし私は、様々な帰依者たちの夢や体験から、何か想像を超えた驚くべきことが私たちを待っていることを信じて疑いません。

第6章 驚くべきナーディの予言

ナーディとは、何千年も前にインドの聖者たちによって書かれた聖なる予言の言葉で、ヤシの葉に書かれています。ほとんどのナーディは、詩の形をとり、古代タミル語で表されています。いにしえの聖者たちは、これらの予言を、個人のため、人類の向上のため、またダルマを守るために書き記しました。彼らは、今述べた理由から、無数の個人について、その人の性格、家族の歴史、霊性面、職業などに関した多くの事柄を予言しました。タミル語で「ナーディ」とは「～を捜して」という意味ですが、これは、ナーディが特定の人物に関する独特の予言を含んでいて、それらの人たちが、人生の特定の時期に、いにしえの聖者たちの予言通りに、自分について書かれたナーディを捜してやって来るという理由からです。ナーディを口述したリシ（聖仙）たちは、未来を見通す驚異的能力を備えており、人類の未来の全貌を正確に予言しました。インドの各地には、ナーディ グランタス と呼ばれるヤシの葉の本を大事に保管している学者がいます。現在タミルナードゥ州（南インド）で手に入るナーディのいくつかは、約1000年前にチョーラ王国の時代に標準化され、整頓され、分類されたものです。現在入手できるナーディ（編纂したリシ〔聖仙〕の名前が付いています）には、アガスティア ナーディ、シュカ ナーディ、ブラフマ ナーディ、カウシカ ナーディ、などがあります。しかし、詩の形で書かれた言葉の意味を正確に現代語に訳すことができるナーディ リーダーはほんの少数しかいません。

サティヤ サイ アヴァターに関するナーディの予言

1961年発行のサナタナ サラティ誌の2月号に、「バガヴァン サティヤ サイババに関する500年前のホロスコープ」という記事が載りました。その記事は、ニューデリーのインド アストロ オカルト研究協会の著名な会員である E.V. サストリ博士が、バガヴァン シュリ サティヤ サイババとその人生に関して記したナーディを発見したことをかなりのページを割いて報じるものでした。何百年も前にヤシの葉に書かれた文書には、バガヴァン サティヤ サイババに関する、驚くべき内容と予言が詳細に記録されていました。また、シャクンタラ バルー女史は、彼女の著書 “Living Divinity” の中で、バンガロール在住の著名な占星家であるシュリ ガンジュール ナーラーヤナ シャーストリ氏の所有するシュカ ナーディに記されている内容を記しています。これらナーディの内容はどれも、シュリ サティヤ サイババの家系図、またババに関する多くの事実について、正確にかつ詳細に述べています。さらに、これらナーディに記されている、サイ アヴァターの光輝とババが行う様々な奇跡、ババが行うとされている想像を超える行為¹は、多くのサイの帰依者たちによって事実であることが確認され、

¹ナーディの予言についての参考文献

- a. “Living Divinity” シャクンタラ バルー 著
- b. “Sri Sathya Sai Avathar” V. アラヴィンド スブラマニアン 著
- c. “In Search of Sai Divinity” サティヤ パル ルヘラ 著

文章にも書かれています。

以下に、ナーディに書かれているサティヤ サイ アヴァターの特徴をいくつか紹介します。

ブラフマ ナーディ

- このアヴァターは、彼が人間であるかのような幻覚をつくりだす。彼は、パルティ（プッタパルティ）の住人、サティヤ サイ ナーラーヤナ（サイババの本名）、シャクティ＝シヴァの化身、シルディ ババ（サティヤ サイババの前身）の生まれ変わり、チトラヴァティ川の河岸のパルティの平和な地区に住む平和の具現者。
- シュリ クリシュナ、シュリ リンガ、シュリ ルッドラ、カーリ女神、シュリ シャクティ、シュリ ヴィシヌの化身。
- 人間の形を借りた実相（訳注：truth：仏教で言う、宇宙万象の生滅無常の相を離れた真実の相）の化身。シルディ ババとしてシルディのマハーラーシュトラ州にアヴァターとして住む。シルディ ババは、ぼろをまとい、貧者の身なりをし、質素な人生を送る。シルディ ババの次にはサティヤ ナーラーヤナとして転生し、大蛇をかたどる長椅子に座る。
- ダッタトレーヤ神と同様、このアヴァターは、三神（ブラフマ神、ヴィシヌ神、シヴァ神）が一体になったものである。
- シャクティ（エネルギー）の形として現れた至高の導師。サティヤ サイは、次の転生で、もう一人のアヴァターであるプレーマ サイの形を取る。
- 木曜日は、少年のサティヤ サイの聖別によって聖なる日となる。

アガ스티ア ナーディ

- 彼は、神の恩寵の化身であり、世界の父である。
- サティヤ サイ アヴァターは、たちどころに病を癒す力を備えているであろう。
- 彼は、多くの教育機関を創設し、正しい行いに関する書物を著し、生涯を通じて靈性について教え導くであろう。
- 彼は若いうちに家を離れ、彼の人生の目的として、ダルマを確立することに着手するであろう。彼の前世は、シルディのサイババである。

シュカ ナーディ

- 彼の恩寵と愛と英知により、彼はニッチャーナンダー 永遠に続く至福 — をこの世界に確立するであろう。
- 彼が生きた場所は、贖罪の聖所となるであろう。
- 彼は常に、人類への奉仕を彼の喜びと幸せとするであろう。
- 彼は、アヴァター中のアヴァターである。
- 彼は、偉大なる サンカルパ シッダ（意志を自由自在につかさどる師）であり、偉大な

神のひとりである。彼はしかし世俗的な財宝や栄華には無関心である。

- 彼は、イッチャマーラーナー プラブティ（自分の意志で死ぬことができる能力）を備えているであろう。彼は、ニルヴィカルパ サマーディの状態にあり、ダルマを育てるためにのみ生きる。
- 彼の使命は、苦悩しているものたちの救済だろう。
- 彼は、人間としての正しい道を伝え広めるために生まれるだろう。彼が生きる場所は、聖なる土地となるであろう。
- 彼は、様々な形を取ることが出来、複数の場所で同時に現れることが出来るだろう。彼はまた、危険を防ぐために、困難や障害になることを取り除くことが出来るだろう。
- 彼は、数多くの車輪を持つ乗り物がある場所（列車の駅。ホワイトフィールドのアシラムをさす）の近くにアシラムを造るだろう。また、霊性を重視する教育施設を再建するだろう。
- 彼は、帰依者に対して、様々な方法で、彼が全知であることを示すであろう。そして帰依者らは、彼を完全に信頼し全託するならば、その罪が払われ、安らぎと善を手に入れる機会を 与えられるであろう。
- 彼の栄光は遠くまで広がり、多くの人々が彼の元にやってくるだろう。しかし、過去に為した行為により、すべての人が彼の恩寵を受けられるわけではない。
- 彼は、偉大なるブラフマチャリ（独身）であり、他の者が正しい道を樹立するのを助けるだろう。彼は、男性と女性に対して平等な態度をとるだろう。女性の中にいる時、彼は母親であるだろう。
- 彼は、愛の化身（プレーマ スワルーパ）、至福の化身（アーナンダ スワルーパ）、英知の化身（グナーナ スワルーパ）であるだろう。ただし悟りに達した者だけが、彼を至福（アーナンダ）として体験できるであろう。
- 彼を体験することはできるが、誰も彼を表現することはできない。口をきけない者が、ものを食べることは出来ても、それを言い表すことが出来ないと同じである。彼は、完全な平静さの中にある。彼は世界を、一枚の葦の葉のように見なす。公衆の意見に左右されず、正しいことのみを行う。
- 彼は、シルディ サイババの代理人であり、シルディ サイババへの祈りの結果として誕生するであろう。
- 彼は、シルディ サイの帰依者に、サマーディ ダルシャンを与えるだろう。同様に、サティヤ サイは、肉体を去った後に、彼の帰依者らに、ホワイトフィールドに於いて、サマーディ ダルシャンを与えるだろう。ホワイトフィールドは、聖なる土地としてあがめられるだろう。
- 彼の一生は、クリシュナがバガヴァッド ギターで述べているとおり、人類のために捧げられるだろう。
- 彼はまた、バンガロールのブリンダヴァンに一本の木を植えるだろう。その場所は、シツディクシェトラ（エネルギーの高い土地）となり、その木は、カルパヴルーシャ（望みが叶う木）となるだろう。
- シュリ サティヤ サイババのみを見る者には誰でも、自然に良いことが増える。彼の恩寵は、人々が問題を乗り越え、困難を切り抜けることを可能にし、前進するように導く

であろう。

- 彼は、同時に、多くの場所に現れるだろう。だが、彼は実際には一カ所にいる。また、多くの神聖なる行為と物質化が行われるだろう。
- 彼は、寛容で慈悲深く、すべての人を平等に扱う。人の感情を傷付けることなく、無知による過ちに対して怒りを表すことは無い。
- 彼はしばしば冗談を口にするが、彼の言葉は真理である。彼が、自分自身について、どんな面であれ、どんな行為であれ、公表する時には — こうした場合は多くはないが — 彼は、特定の時を選んでそうする。そして、その目的は常に、正しい道を促すためである。例えば、生活に関する良いアイディアを教えて、喜んでそうしようとする良い雰囲気を作るなど。
- このアヴァターは、治癒力を持っているだろう。また自分に水を振りかけて自身を治癒する力を持っているだろう。彼は、この力を、この世界の者にだけでなく、異次元の世界の者たち、また高次元のものたち（デヴァや天上界のものたち）のためにも用いるだろう。
- 主サイは、彼の計画どおりにすべてのものごとを行う。
- 彼は、偉大な浄化力を持つ。彼を一目見るだけで、一言彼と言葉を交わしただけで、その人は浄化されうる。彼はまた、人の寿命を長くする力を備えている。
- サイナタ（主サイ）は、マハーヴィシュヌ スワルーパー、つまりグレイト ヴィシュヌそのものの形（フォーム）である。
- サティヤ サイババは、年齢を重ねても、常に若々しい。

ここに述べたナーディの内容はどれも、明らかに、すべての神の形が、一人の神、シュリ サティヤ サイとして化身したことを強調しています。そして、どのナーディにも、現在私たちが目撃し、また聞いていることがそのまま、詳細にかつ明確に述べられています。さらに、シュカ ナーディには大変興味深い予言がありました。それは、アヴァター サティヤ サイババは、ある吉兆の日に、帰依者たちが引く黄金の太陽をかたどった壮麗な凱旋車（シワルナ＝アーディティヤ ラータム）に乗るであろうというものでした。ナーディで述べられたその日というのは、エーシュクラ（インド暦で 60 年に一度めぐる年）の年、月曜日、バードゥラーパッダ月（インド暦の第六の月、9 月 15 日から 10 月 15 日にあたる）の、クリシュナ パクシャのサシュティ ティティ（月が細る 2 週間にあたるうちの 6 日目）でした。吉兆と予言された時間は朝の 7 時でした。

1997 年、パドゥーカ マホーツサグ（主から祝福を受けたサンダルを礼拝する祭り）が行われた時、シュリ サティヤ サイ パドゥーカ トラストの長であった、シュリ スブラマンニャン チェティアールの指揮のもと、マドゥライ（タミルナードゥ州）の帰依者らが、スワミの元に黄金の車を運んで来ました。黄金の玉座の上には、黄金の日傘がかかり、背にあたるところには、太陽神スーリヤを表す巨大な平円盤が輝きを放っていました。こうして、シヴァ神とその神妃パールヴァティーをかたどった黄金像が飾られた車に、シヴァ＝シャクティ アヴァターがお乗りになったのです。この壮麗な黄金の車を運転していたのは、四つの顔を持ったブラフマ神、創造者でした。1997 年 9 月 22 日、ナーディに記されていたまさにその日に、歴史的

な出来事が起きたのでした。バガヴァン ババは住居から出ておいでになり、帰依者、学生たち、ヴェーダ学者らに囲まれて、伝統的な音楽が奏でられ、ヴェーダが朗々と唱えられる中を、朝の7時5分に、黄金の車に乗り込まれました。そうしてまぶしいばかりの栄光に輝くスワミが乗った車は、朝の太陽が世界に黄金の矢を放つ中を、プラシャーンティの神殿に進んで行ったのです。

ナーディは、何千年も前に、サティヤ サイ アヴァターの栄光と光輝を予言しました。そして数あるナーディの中には、近い将来、栄光に満ちた素晴らしい時が来ることを指摘しているものがあります。以下に紹介するように、その時にはスワミの力が全世界に明らかになり、スワミは「偉大なる帝王」として崇拝されるであろう、と予言されています。

- カリユガの影響が、いつそう強くなる時、人々は彼の本当の力を見ることになるだろう。そうして、彼が至高の神であることを認めるだろう。その時人類は、偉大な皇帝として、彼を拝するだろう。
- 彼は、飛行機の燃料が無くなった後も、長時間、彼の意志だけで、飛行機を飛ばせることができるだろう。
- 彼は、ある重要な時に、正道（ダルマ）の旗を掲げるだろう。それ以降、明らかに正しいことが増えるだろう。
- 彼は現在、彼の本来の姿の十分の一しか表していない。まもなく、世界を救おうとする彼の努力は十倍になるだろう。彼は、彼のみが、自然の猛威を支配できることを示すだろう。
- 現在、アダルマ（正しい道ではないこと）が、世界の四分の三を覆ってしまった。残りの四分の一がアダルマに覆われる時、つまり全てが正しい道を取らなくなる時、シュリサティヤ サイババの持つ力の全貌が明らかになり、世界に知られることになるだろう。彼の神聖なる特性が十分に理解されるには、悪が最高潮に達しなければならない。
- 彼の偉大さは、短期間に遠方まで広がり、サティヤ サイは世界中で礼拝されるであろう。

私のナーディ体験

私個人の経験から言うと、ナーディ リーダー（ナーディを読んで現代語に翻訳する人）または占星術師が熟練した人である場合は、ナーディに書かれたことは正鵠を得ており、信頼することができます。私が自分のナーディを読んでもらったのは1997・98年で、場所は南インドのナーディ占星術センターでした。私のナーディは、名高いアガ스티ア ナーディで、七人のマハリシ（偉大な聖者）の一人である聖者アガ스티アによって書かれたナーディからのリーディングでした。私は、自分の両親の正確な名前、両親の職業、わたくしの子供の頃からの出来事の詳細な記述、そしてわたくしの当時の住所などに関するリーディングの情報があまりに正確である事実を前にして、驚嘆のあまり声も出ませんでした。リーディングはまた、私の人生に起きる様々な出来事を時系列で予言していました。その中で、ここでは特に、私のグルであるシュリ サティヤ サイババに関する予言を紹介したいと思います。

あなたはグルを持っている。そのグルは三回、神の化身として転生する。最初の化身は、マハーラーシュトラ州(シルディ)だった。現在彼は二回目の化身であり、アーネンドラプラデーシュ州にいる。彼は、現在の人生では、シヴァ＝シャクティ スワルーパム(シヴァ＝シャクティ原理の化身)である。名前はシュリ サティヤ サイババである。彼の三番目の化身は、カルナータカ州に生まれるだろう。その化身は、プレーマ サイ(中略)と名乗るだろう。あなたは夢の中で、グルからアドバイスを受けるだろう。

ことわっておきますが、わたしのナーディのリーディングを行った占星術師が、私がサイの帰依者であることを知る手だてはまったくありませんでした。このあとも、多くのサイの帰依者が、ここに行きましたが、だれもが、彼らのリーディングが正確であったことを私に報告してくれました。私に関して言えば、ナーディに書かれていた予言は、これまで、結婚、子供、職業、旅行、霊性面における生活などなど、すべてその通りに起こりました。

では、スワミが姿を隠されたことについて、また、さし迫ったスワミの帰還について、ナーディはどう言っているでしょう？

ナーディの予言－スワミはお戻りになる

スワミが肉体を去って一ヶ月経ったある日、サイの帰依者であるタミルナードゥ州(南インド)のマドゥライに住むシュリ ヴァサンタ サイは、スワミが予定より早く去ってしまわれたことについて、ナーディに何が書いてあるか調べることにしました。彼女は、多くのナーディが今も残されている、タミルナードゥ州の寺院都市ヴァイディーシュワランコイルに、彼女の知り合いを送りました。その結果分かったのは、まさにとほうもないことでした。以下は、シュリ ヴァサンタ サイ自身の言葉です。

SV (K.S. ヴェンカタラーマンを指す：シュリ ヴァサンタ サイの知人) は、すぐに出発して、いくつかのナーディを見たあと電話をかけて来ました。彼は、ナーディはどれも、スワミは再びやって来るだろう、と告げていると言いました。(中略) SV は多数のナーディを見たのですが、どれも、私が瞑想している時にスワミが私に告げた、「スワミは再び戻ってくるだろう」という言葉を確認するものでした。(中略) SV は 6 月の後半にもう一度ナーディを見に行き、さらに多くのスワミに関するナーディを読みました。どれもが、同じことを明らかにしていました。スワミは戻っておいでになるのです。

シュリ ヴァサンタ サイは大変高次の魂で、長年サイに帰依しています。彼女は、彼女の主、シュリ サティヤ サイババ神の恩寵に恵まれ、これまで数えきれない数のビジョン、夢、奇跡を体験しました。シュリ ヴァサンタ サイは、バガヴァン シュリ サティヤ サイババに対する並外れた深い愛と帰依心から、「ラーダー意識」の典型と呼ばれるまでに至りました。

シュリ ヴァサンタ サイは、これまでにスワミに関する本と、霊性に関する本を多数著しています。1997年には、彼女の最初の著書“*Liberation, Here Itself, Right Now*”が出版されました。ところで、すでに述べたように、ナーディに記された黄金の太陽の車に関する予言はその通りになりました。1997年9月、マドゥライ（タミルナードゥ州）の帰依者らは、シュリ サティヤ サイ パドゥーカ トラストの長、シュリ スブラマンニャン チェティアルの指揮の下、スワミの元に黄金の車を運んで来ました。バガヴァン シュリ サティヤ サイババは、これに先立つ同年5月7日にシュリ スブラマンニャン チェティアルの家を訪問されましたが、そこで、シュリ ヴァサンタ サイの本の原稿に著名して祝福されました。これを見れば、彼女の聖なるビジョンや体験が本物であることは、疑う余地がありません。彼女は現在、マドゥライ近くにある彼女のアシュラム「ムクティ ニラヤム」（悟りの根源の意味）に住んでいます。ここは霊的幸福の源となっており、助けが必要な人たちや貧しい人たちに、食料や住居、医薬品、教育を無料で提供しています。

ナーディに記されたスワミの再来に関するリーディングは、現代の言葉に翻訳されて、“*Sacred Nadi Readings*”という一冊の本にまとめられました。この本の中で、シュリ ヴァサンタ サイは次のように述べています。

バガヴァン シュリ サティヤ サイババは、ふつうのアヴァターではありません。今、だれもが彼は肉体を離れたと考えています。一般の人たちだけでなく、スワミの近くにいた人たちでさえそうです。確かにスワミが、「肉体を離れた」のは事実です。でも、彼が同じ姿で戻っておいでになるのも本当なのです。

“*Sacred Nadi Readings*”¹の中で紹介されているナーディのリーディングを、いくつかここに紹介します。

あなたがこのナーディを手取る時、彼の肉体はここには無い。しかしこの言い方は曖昧である。はっきり言えば、彼の身体はここに無いが、しかし彼の身体は在るのだ。彼は再び戻って来て、肉体に入るだろう。その肉体は、彼が肉体を去る前に用意しておいたものである。（ラージャ リシ ヴィシュワミトラ ナーディ、リーディングは2011年5月25日）－ 同書（“*Sacred Nadi Readings*”） p.8

これまで偉大な行為を行った肉体、これまで我々が見て来た肉体は、彼の本当の肉体ではない。それはマーヤー ボディ（神の力で作る幻影による姿）である。（中略）満月に土星が天秤座に入った後、主は、今の姿かたちで、自身をビジョンとして見せるだろう。それは彼の現実の姿の本物のビジョンだろう。それは多くの者に目撃され、見た者は驚異の念に満たされるであろう。（アガスティア ナーディ、リーディングは2011年5月27日）－ 同書 p.20

¹ “*Sacred Nadi Readings*”（邦題『聖なるナディの予言』日本サイババ研究会刊）シュリ ヴァサンタ サイ編集。シュリ ヴァサンタ サイ ブックス & パブリケーション トラスト、ムクティ ニラヤム 2011年出版。
[www.mukthinilayam.org]

彼のアートマは肉体を離れたが、同じアートマが戻って来て、同じ肉体をまとうであろう。これは天意である。(中略) その時彼は、年寄りの肉体でも若い肉体でもなく、中年の肉体をまとう。(ラージャ リシ ヴィシュワミットラ ナーディ、リーディングは2011年5月31日) - 同書 p.86

(中略) 現在、彼女の主はもはや肉体にはいない。彼は新しい肉体で再びやって来る。(ブリグ ナーディ、リーディングは2011年5月31日) - 同書 p.96

このナーディを手にとるとき、彼はアートマの状態である(中略) 彼はこの世の肉体を持っていない。だが彼は再び地上にやってくるだろう。(中略) これは彼の宿命である。(中略) 彼が88歳の時、地上の人々は、彼を、疑念なく、名声を傷つけることなく、完全に、受け入れるだろう。彼はそれから7年生きるであろう。(ゴラッカ ナーディ、リーディングは2011年6月14日) - 同書 p.26

彼はその後、58歳から60歳の間の肉体で、この世界に降臨するだろう。この年齢の肉体で、彼は地上に再び生まれるだろう。このとき初めて、彼は、世界に彼の正体を明らかにし、全世界がその真実を知ることになるだろう。(マッチャムニ ナーディ、リーディングは2011年8月5日) - 同書 p.102

これらのナーディには、“*Sacred Nadi Readings*”の予言で説明されているとおり、ここに紹介した他に多くの驚くべき予言が詳細に記されています。しかしながら、スワミが私たちから消えた意味に関しては、それぞれの聖仙がこの出来事を見る観点が異なっており、また、スワミが戻られる時期についても、意見は一致していません。ナーディによっては、異なる占星術上の合や天界の出来事に言及するものもあり、それによれば、その後で、スワミが「新しい」肉体をまとして自分を明らかにされると述べています。さらに、ナーディは神秘的な言語を用いることがあるので、スワミが戻られる時をピンポイントで知ることは難しいと思われます。シュカ ナーディとラージャ リシ ヴィシュワミットラ ナーディは、彼の再臨を86歳としており、ゴラッカ ナーディは、88歳としています。問題は、これらのナーディが、スワミが肉体を「離れている」年月を含めているのか否か、です。ただどちらにしても、86歳あるいは88歳という年齢が、「スワミが御自身の寿命について話されたこと」(第3章)で提案した時間的な枠(2012年7月から2014年4月の間)に入ることは間違いないようです。

ノストラダムスの興味深い予言

ノストラダムスの予言¹の中に、サティヤ サイ アヴァターに関するものがいくつもあること

¹一般的にノストラダムスと呼ばれているミシェル ド ノートルダムは、フランスの占星術師で16世紀の人です。未来に関する彼の予言は、歴史上最も名高いものの一つであり、現在に至るまで広く人気を得ています。彼の予言は100の四行詩を一つのグループとして扱う形を取っています。

は、サイの帰依者の間ではよく知られています。中でも、次の二つの予言は有名です。

三つの水が合う場所が一人の人を生む
彼は木曜日を彼の聖日に選ぶ
彼の言葉、支配、力は、
東の嵐のただ中を、陸と海を越えて広がるだろう

予言四行詩 1巻：第50

すべての人々が、木曜日の礼拝にやって来る時
大地と空は大量の水を凍らせるだろう
世界の隅々から人々が彼を崇拝するためにやって来るのは
かつて無かった美しい光景だろう

予言四行詩 10巻：第71

これら二つの予言は、明らかにシュリ サティヤ サイババのことを述べています。「三つの水が合う場所」とは、三つの海に囲まれた場所を指しており、インド、特に南インドは、ベンガル湾、アラビア海、インド洋に囲まれています。木曜日は、バガヴァンの聖なる日とされています。予言は、世界の全ての地域から、主を崇拝するために人々が集まる様子を述べています。

これらノストラダムスの四行詩は、「サイの到来」が話題になる時には常に、サイのことを書いたものとして取りあげられて来ました。ですから私は、これまで何度もこれらの四行詩を目にしました。しかし、この予言の中の一行に関しては、今も謎のままです。なぜなら、サイアヴァターが生きておいでの間起きたどの出来事とも関連づけることができないからです。それは、「すべての人々が木曜日の礼拝にやって来る時に、大地と空は大量の水を凍らせるだろう」、という一節です。ノストラダムスの予言は、同じ詩行の中に、予言の目的に関連する、多数の重大な出来事と検証事項が含まれているとされています。私はこの部分については将来起きる出来事だと思っています。何か明らかな理由から水が関係する自然現象のようなものではないかと思うのです。これまでわたしはこの謎にずっと興味を抱いていました。ただしその興味も、スワミの帰還を述べた次のようなナーディの予言を見るまでのことでした。

(略) その日、あなたが風を見るところには、どこにでも雨が降って来るだろう。それから、スワミがやって来る。以前のスワミの姿で、アーノードラ プラデーシュ州のブラシャーンティ ニラヤムに。(カガブジャンガール ナーディ、リーディングは 2011 年 5 月 24 日)

— “Sacred Nadi Readings” p.7

これを読んで驚きませんか？しかし、ある箇所を過ぎると、どの予言も推測もそれぞれ異なる意見になります。それは、ものごとがどういう道筋をたどるかは、スワミだけがご存知だからです。分かっていることは、どのナーディも、スワミが、シュリ サティヤ サイババのお姿で戻って来られるということと一致していることです。ナーディによっては、新しいスワミの身体は、スワミが肉体を去られた時より若く、中年だろうと予言しています。私たちは共に、

その驚くべき時、人類の歴史における最大の奇跡の瞬間が来ることを祈り、待ち望もうではありませんか。私たちが今見ている世界を、永遠に変える力を持つ方の御帰還を！

補足：読者の皆さんに、私自身のアガ스티ア ナーディのリーディング（1997年－98年）の中に出て来た、ある予言を紹介したいと思います。以下、興味のある方はご一読ください。それは、「あなたはあなたのグル（シュリ サティヤ サイババ）に関する本を書くだらう。そしてそれを（インドの）外に配布するだらう」というものでした。本書は確かに私が初めて書いた本です。自分の書く才能の有無を考えれば、いったんは信じがたいと考えたことが、この本によって実現したのです。さらに驚くのは、もう一つのナーディ リーディングでは、ナーディの偉大さについて書くだらうとするされていたことです。その予言もこの本で現実となりました。素晴らしいナーディの予言よ、万歳！

第7章 消えたマフディー

マフディーとは誰か

マフディー (Mahdi / Mehdi) とは、イスラム教の言い伝えにある人物で、予言されている「審判の日」の前にこの世に現れると信じられている、救世主のような存在です。多くのイスラム教徒は、アラーが、人類の歴史上非常に困難な時代に、信仰を復活させ、平和を確立するために、彼のみ使いであるマフディーをこの世につかわされると考えています。マフディーという言葉にはこれまで、いろいろな意味付けがされてきました。「(神に) 導かれる者」「救済者」「(神が) 約束した教師」などがそうです。また彼は、イスラム教シーア派の伝承にある、カイム、またはアル＝カイム（「真理を守るために生まれる者」の意味）だと言われることもあります。他にマフディーは、「アル＝マフディー」「ハズラト マフディー」「マフディー ムード」などとも呼ばれます。

マフディーを見分けるためのしるし

1991 年 11 月号のサナタナ サラティ誌に、「ハズラト マフディーとババ：予言の真実 (Hazrat Mehdi and Baba : Truth of a Prophecy)」と題した大変興味を引く記事が掲載されています。この記事は、シュリ サティヤ サイババの熱烈な帰依者であり、シュリ サティヤ サイ大学で教鞭をとるゼバ バシルッディン教授の筆によるものです。この記事の中で教授は、ハズラト マフディーに関する予言がシュリ サティヤ サイババに完全に当てはまることを示唆しています。バシルッディン教授によれば：

全世界のイスラム教徒が、偉大なる師、導き手の到来を信じています。だれもが、その方はマフディー (マスター) であることを知っています。予言者ハズラト ムハンマドによれば、ハズラト マフディー は、ヒジラ 14 世紀 (イスラム暦：この世紀は現在終わったばかり) の終わりに、イスラム教徒の繁栄のために現れるとされています。この時期は、苦難と物質崇拝の時代とされており、コーランが教える価値と行いは無視され、人は、コーランの言葉で「他の神々」と呼ばれる、俗世とその魅力を崇拝するだろうと言われています。そして予言はさらに、ハズラト マフディーは、真理を復活させ、「イスラム教」¹ が全世界の宗教になるだろうと述べているのです。

イスラム教の言い伝えには様々な「ハディース」(Hadith : イスラム教の言葉で、ムハンマドの宣言や行為に関する記録を指す)があり、その中で予言者ムハンマドは、マフディーにつ

¹ 「イスラム」の文字通りの意味は、平和な状態を意味します。ここではしたがって、全世界に平和が行き渡ることを意味する可能性もあります

いて説明しています。マフディーのしるしとなるものは、時間や人柄に関して 150 以上ありますが、カリフ 4 世でスーフィー主義の秘密保持者であるハズラト アリに、聖なる予言によって語られました。その後、これらのしるしは、ハズラト アリの子孫であるイスラム僧たちに守られる至宝となり、シーア教の予言的な伝承（主にイランの）の一部となりました。西暦 17 世紀に入ると、著名な学者であったムハマンド バキール ビン Md. タキ＝アル マジリシ＝アル イスファハニ（Md. Baqir bin Md. Taqi-Al majlisi-Al Isfahani : 1627-1698）がこれらの予言を集め、『ビハール アル＝アンワル』（訳注；光の海 の意）というアラビア語の大著にまとめました。

ここでは、『ビハール アル＝アンワル』のペルシア語（イランの言語）訳をさらに英訳したものから、イスラム教予言者の言葉をいくつか紹介したいと思います。：多くのイスラム教徒は彼の誕生を長い間知らないだろう。その聖なる霊は、内側と外側の二つの衣を身に着けている（p.239）。外衣の色はオレンジで、後ろ姿の輪郭がはっきり分かる形をしている（p.292,777）。彼はオレンジ色の衣をまとい、人々にまばゆい光を放つ（p.245）。彼の髪は、厚く黒く、肩まで届いている（p.25）。彼の眉毛は中央で接している（p.242）。彼の他の特徴は次のとおり：広くてはっきり見える額（p.263）。鼻筋は通り、鼻の付け根がすこしくぼんでいる。頬のほくろ。ハズラット モーザを思い出させる、星のような輝き、前歯の中央が少し離れている（p.243）、黒い目（p.777）、ユダヤ人と比較すると中背（p.239）、顔の色はゴールドブロンズ貨幣のように様々な色に輝く；非常に強い輝きを放っているため、本当の色を見分けることは困難である（p.263～293）。一般的印象：非常に慈悲深い。威厳がある。崇高（p.239）。

彼はどんな人に対しても兄弟のような態度をとり、その人を良く知っているかのように（p.314）。彼は、すべての予言者と聖人を愛し、彼の意図することはどんなことでも実現するだろう。彼は、彼に反対するもの全てに打ち勝つだろう（p.242）。彼の帰依者は彼に守られるだろう（p.342）。人々は彼を天国の至福が具現した人と見なすだろう（p.341）。彼は無力な者、打ち捨てられた者の避難所であるだろう（p.235）。彼は、朝と夕に、人々に A'be-e-Tuhur Kausr(霊性)を配るだろう（ババの毎日のダルシャンを示唆するもの）（p.343）。彼から、聖なる光が放射されるだろう（p.252）。彼は新しい宗教を運ばない（ババは、彼は新しい宗教を広めないと何度も強調している）（p.6）。すべての知識と全宗教の真髄が、まるで新しい花園ができたように、彼のハートの中で花を咲かせるだろう（p.238）。彼は、地上を平和で満たすだろう。彼は友人であり、アドバイザーであるだろう（p.287）。彼はまっすぐな道を示すだろう（p.352）。おお、イスラム教徒よ、その誕生があなた方から隠された、その方こそ、あなたの主、マフディー（MEIDI）、その人である（p.292）。¹

『ビハール アル＝アンワル』に書かれている他のしるし：彼は、軽いギフトを与える。彼は

¹参考文献

- a. "In Search of Sai Divine" by Satya Pal Ruhela, M.D. Publications Pvt.Ltd. 1996
- b. "God Descends on Earth" by Sanjay Kand, Sathya Sai Towers Pvt.Ltd.

帰依者の間を歩き、その手で彼らの頭に触れる。彼を見る目はすべて、人間だけではなく、肉体から離脱した靈魂も、幸福に満たされるだろう。彼は **95 歳まで生きる**だろう。彼の一生の最後の 20 年間に、彼は「全世界の王」となるだろう。しかしその時でも、彼を信じるのは世界の三分の二でしかないだろう。イスラム教徒は、**彼が世界から去る 9 年前**にようやく彼を理解するだろう。彼は世界を、光と平和で満たすだろう。次のことを、偽物を見分けるために知らせる。世界の主は、その肉体から、口を通して、ものを取り出す〔シヴァラトリの期間にスワミが口から出現させるシヴァ リンガムを示唆するものか?〕。

R. ローウェンバーグの著書、“The Heart of Sai”には、彼がアシュラムで出会ったイラン人の女性について、こんな記述があります。それによれば、その婦人は、サイの帰依者の中では、「イラニ マ（イランから来たお母さん）」として知られていたそうです。彼女は、『ビハール アル＝アンワル』の中の 予言者ムハンマドの、偉大な教師の到来に関する予言を発見し、ローウェンバーグに、その方であると知らせるしるしの多くが、シュリ サティヤ サイババに一致することを説明しました。しかし、“Sai Baba and Nara Narayana Gufa Ashram”の著者 スワミ マヘーシュワラナンドは、この本の中で、イラニ マが、予言者ムハンマドのこれらの予言を本の形で出版したいと、スワミに許可を願ったところ、お許しが出なかったと書いています。

ところで現在、イラン人帰依者がプラシャーンティ ニラヤムに大勢集まって来ている様を見れば、それ自体が、『ビハール アル＝アンワル』に書かれた予言の信憑性を裏付けるものであり、予言に書かれているマフディーの人格、性質、目的が、サティヤ サイ アヴァターに集約されている証拠と考えられます。予言者ムハンマドがマフディーを見分けるしるしとしてあげたことは、どれも、スワミの身体的特徴とスワミの性格に一致しています。ナーディが、「人類は、偉大な帝王として彼に頭を下げるだろう」と予言しているのと同様、マフディーに関する予言は、彼が「全世界の王」となるだろうと述べているのです。

地上におけるマフディーの統治期間

『ビハール アル＝アンワル』に書かれている予言の中で、特に二つの予言は、地上におけるマフディーの統治期間に言及している点で際立っています。一つは、**マフディーは 95 歳まで生きる**というもので、もう一つは、イスラム教徒が彼を知るのは、**彼がこの世を去る前のたった 9 年前**であるというものです。95 年という数字がイスラム暦¹であるとする、一般に使われているカレンダーでは 93 年から 94 年の間を指すことになります。この数字は、スワミご自身が講話（第 3 章 スワミが御自身の寿命について話されたこと）で述べられた寿命と一致します。また二番目の予言は、マフディーが最終的にこの世を去る 9 年前に、人々にマフディーを信じさせるような、相当大きな出来事が起きることを示唆しています。スワミが

¹イスラム暦は、12 の月からなり、一年は 354 または 355 日です。95 歳とは、95 歳から 96 歳の間を指しますので、355 日で計算すると、一般のカレンダーでは 93 歳から 94 歳となります。

ワミが逝かれたのは 85 歳でした。これに 9 年間を加えれば（イスラム暦の 9 年は、一般のカレンダーでは 8.75 年となります）94 歳になります。第 3 章「スワミが御自身の寿命について話されたこと」の章ですでに指摘したように、スワミはその時々で、ご自分の寿命について、94 歳ある時は 96 歳までと異なる歳を述べられています、この二年間の食い違いは、スワミの「体外離脱」の期間を意味するのではないかと考えられます。

これらの事実を考察すると、自然に、スワミが再び出現されることが、多くの人がスワミを信じるようになる理由であろうと推察されます。そして、その後スワミは地上に 9 年間とどまると考えられます。さらに、複数のハディースに、マフディーが（甦った後に）7 年または 8 年（9 年ではなく）の間この世を治めるだろうという興味深い記述があることも述べておきます。

わたしたちのマフディーは、広い額と高い鼻を持っている。彼は、不正と暴虐で満ちた地上に正義を行き渡らせるだろう。彼は 7 年間この地上を治める。

－『ビハール アル＝アンワル』 13 巻 第 1 部
英訳本 p.143

（中略）彼が治める期間は 7 年間か 8 年間、あるいは 9 年間だろう。

－『ビハール アル＝アンワル』 13 巻 第 1 部
英訳本 p.143

（マフディー）は、不正と暴虐に覆われた地上を、公正と正義で満たすだろう。天国と地上に住むものは、彼が治める時から幸せになるだろう。天国はその祝福を残さず惜しみなく降り注ぎ、地は惜しみなく植物を茂らせるだろう。その有様を見て、生きているものは、死んだ者が生き返ればいいのと思うだろう。彼は、7 年か 8 年、あるいは 9 年の間生きるだろう。

－『ビハール アル＝アンワル』 13 巻 第 1 部
英訳本 p.91

これらの予言は、スワミの復活について述べているナーディの予言に、酷似しています。

彼が 88 歳の時、地上の人々は、彼を、疑念なく、名声を傷つけることなく、完全に、受け入れるだろう。彼はそれから 7 年の間生きるであろう。〔ゴラッカ ナーディ、リーディングは 2011 年 6 月 14 日に行われた〕

“Sacred Nadi Readings” シュリ ヴァサンタ サイ著、p.26

彼は再びやって来て、7 年間だけ地上にとどまるだろう。この 7 年の間、地上で多くの変化が起きるだろう。〔ボガール ナーディ、リーディングは 2011 年 5 月 25 日に行われた〕

“Sacred Nadi Readings” シュリ ヴァサンタ サイ著、p.18

キリスト教でも、7年間の「携挙」（訳者注；Rapture：喜び、愛に心を奪われた状態を意味する）と呼ばれる、喜びと至福の時期が来ると信じている人たちがたくさんいます。イエスキリストの再臨がこの期間の幕開けとなり、その後1000年間、地上に平和な時代が訪れると信じられています。（詳細は、第9章：「サティヤサイの黄金時代の幕開け」をお読みください）

消えたマフディー

私は、まだサイに帰依したばかりの頃から、マフディーの予言について言及しているスワミ関連の本をいろいろ読んで来ました。ですから、私はずっと、これらの予言は明らかにサティヤサイババのことであると信じて来ました。本書を書きはじめてまもなく、私の頭の中に、これらの予言が本当にスワミを指しているなら、スワミの「時期尚早」のお隠れについても、予言は言及しているに違いないという考えが浮かびました。それで様々なハディースに当たり、調べてみることにしました。『ビハール アル＝アンワル』の英訳を何巻か取り寄せて、読みはじめたのです。

それは驚くべき内容でした。自分の目さえ疑いました。ハディースには明確に、マフディーがこの世から消えること、そして戻ってくる！ことが書かれていたのです。ハディースは、マフディーが二度この世から消えると言っています。最初は長い間、そして二度目は彼が実際に消える（死）と述べられているのです。

ハズラト マフディーは、ある時期、視界から消えるだろう。

－『ビハール アル＝アンワル』 13巻 第1部
英訳本 p.133

彼は二度、地上から消えるだろう。一度目は長期にわたり、彼は死んでしまったという者もいるだろう。また、地上から去ってしまったという者もいるだろう。彼を愛するものたちも、他の誰も、彼がどこにいるかを知らないだろう（中略）

“Al-Muttaqi al-Hindi, Al-Burhan fi Alamat al-Mahdi”

アラーに誓って、彼（マフディー）は何年間も消えるだろう。彼は忘れられてこう言われるだろう：彼は死んだ、消滅した、どこかの谷に去った、と。信じている者たちの目は彼を思って涙を流すだろう、そして、船が海の波で転覆するように、彼らも裏返しになる（⇒深い痛手を被る：訳注）だろう（略）。

－『ビハール アル＝アンワル』 13巻 第1部
英訳本 p.180

カイク（Qaim カイク または Al-Qaim アル＝カイク）という名前は、多くの詩の中でマフディーを指すのに使われて来ました。この言葉は、アラビア語で「真理のためによみがえる

(Rising for Truth)」という意味ですが、注目すべきことが二点あります。まず、「上がる／よみがえる」(rising) という意味で、これは明らかに「昇天」を指しています。次は、「真理」(truth) という意味で、これはスワミの名前であるサティヤ (真実／真理) サイババという名前に在る、サティヤの元々の意味です。さらに、『ビハール アル＝アンワル』は、マフディーが消えたことについて、「掩蔽 (えんぺい)」という呼びかたをしています。掩蔽とは通常、惑星などの天体が他の天体に遮られて見えなくなることを意味しますが、ここでは、同じ言い方で、マフディーが未知の領域に一時的に隠れることを指しているのです。そして、この掩蔽期間については、様々な学者がいろいろな説を主張しています。学者によっては、マフディーは、何百年もの間、人類から姿を消し、「時の終わり」の直前に姿を現すだろうと言う人もいます。しかし『ビハール アル＝アンワル』の詩文から推測すると、それとは異なるようです。『ビハール アル＝アンワル』の中でもっとも興味深い予言のひとつは、カイムが甦ったとき、人々は、彼の身体はすでに腐敗してしまったはずなのに、どうしてこんなことが可能なのかと考えて、驚異の念に打たれるだろうというものです。この部分からは、掩蔽という現象が、カイムの肉体が死によって消える時から始まるのだろうと推測できます。

〔この章におけるこれ以降の引用は、注釈があるものを除けば、すべて、『ビハール アル＝アンワル』 13巻 第1部の英訳から引用しました〕

カイムがよみがえる時、人々は言うだろう、どうしてこんなことが可能なのだろう？
彼の骨さえ朽ち果てたはずなのに。(p.181)

私は彼に言った。「おお、アラーの使者の息子よ、どうして彼はカイムと呼ばれているのですか？」彼はこう答えた：「なぜなら彼は、彼は死んで追悼された後によみがえるであろうから (略)」(p.193)

見よ、彼は掩蔽を行うであろう。その間、愚かな者らは当惑し、無価値な者らは朽ち、
時間を割り振る者らは嘘を言うであろう。その後に彼は、よみがえるだろう。(p.193)

私は言った：「どうして彼は待たれていた者と呼ばれるのですか」と。彼は答えた：「彼は掩蔽を行う。それらの日は多く、その期間は長い。誠実な者たちは彼が起き上がるのを待つだろう。そして疑う者たちは彼を拒絶し、拒絶する者たちは彼をあざけるだろう」。(p.193)

上に述べた部分のはっきりと掩蔽の期間が長く、何十日間も続くことを示唆しています。しかしながら、ある学者たちの主張のように、何百年も彼が消えてしまうとは言っていない。もしそれほど長い間を指すのであれば、詩文には「年」が使われたでしょう。また、「拒絶する者たちは彼をあざけるだろう」という言葉にも注目してください。スワミが、私たちが考えていたよりも早く身体を去られた時、スワミを信じてない者たちが、予言通りにならなかったことを大いに嘲笑したことは、今や事実となりました。

マフディーはいつ戻って来るのか？

マフディーの再来は、スワミが御講話の中で述べられている「黄金の時代」に似た、愛と平和の新しい時代が来る前触れと考えられています。その日は、イスラム教の聖典では、アラビア語で文字通り「復活の日」を意味する、“*yawm al-qiyamah*”という言葉で表されます。しかし、その日がいつ来るのかは神のみがご存知であるとされており、誰にも知られていません。

おお、アラーの使者よ、あなたの子孫であるカイムはいつよみがえるのですか？」彼は答えた。「彼を例えることは、**時間を例えるようなものだ**：「(中略) 彼だけが、その時に、それを為すだろう；それは**天と地に於ける一瞬のうちの出来事**だろう；それはあなたの元に来るのではなく、**突然起きるのだ**」(p.189)

教典は、マフディーの再来は「突然」であり、誰も予期しない一瞬の出来事で、彼だけがその時を知っている、と述べています。これは、新約聖書で神の子の再来を述べた次の部分〔イエス・キリストの再来を述べていると信じられている〕に良く似ています。

だから、目をさましていなさい。その日、その時が、あなたがたにはわからないからである。

－『新約聖書：マタイによる福音書』25章13節

その日、その時は、だれも知らない。天の御使いたちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

－『新約聖書：マルコによる福音書』13章32節

マフディーは若い肉体で戻るのだろうか？

第6章「驚くべきナーディの予言」で、私たちはスワミがお戻りになるだろうという予言を読みました。予言の中には、スワミが、お隠れになった時よりも、若いか中年の身体をまわって戻られるだろう、と述べたものもありました。

彼は、外に出て来た後、平和を手にするだろう。彼は85年間彼がしてきた仕事を続けるだろう。彼の肉体は以前より若い**が、彼の身体は成熟し、85年間の経験を積んでいる**だろう。彼は再来し、たった7年間だけしかこの地上に留まらないだろう。〔ボガールナーディ、リーディングは2011年5月25日に行われた〕

－‘Sacred Nadi Reading’ シュリ ヴァサンタ サイ 著 p.18

上のリーディングに酷似した予言が、『ビハール・アル＝アンワル』にもあります。

彼が再び現れる時、あなたのカイムだという証拠は何でしょう？ **彼は答えた：彼は年を取っているが、若者のように見える**だろう。彼を見る者は誰でも、彼が40歳かそれ

より若いと言うだろう。彼の最後の時まで、昼と夜が何度巡っても、それは彼にまったく影響を与えない。

(13 巻 第2部 p.178)

ジョン ヒスロップ博士は、彼の著書の中で、スワミとの会話を記録しています。その中にこういうスワミの言葉があります。「この身体は 96 歳まで生きますが、若さを維持するでしょう」¹ また、シャクンタラ バルー著 “Living Divinity” には、「この身体では、わたしは、古い（シルディの）身体のように、年を取ったり、よぼよぼになったりはしません」² というスワミの言葉が収録されています。

これらの予言は、スワミがお戻りになった時、実際の年より若く見えることを示唆しているのでしょうか？

すでに私たちは、マフディーは再来した後、最低7年間は地上で生きると述べているビハール アル＝アンワルの言葉について、検討しました。最後にもう一つ、マフディーの最終的な地上からの消失を述べた予言を紹介します。

彼は（彼の再出現の後）7年の間地上に留まるだろう。その後、彼は亡くなり、イスラム教徒たちは彼に祈るだろう。（p.91）

マフディーの黄金時代

マフディーの到来は、地上に平和と公正が行き渡る黄金時代の先駆けとなるでしょう。そのまばゆい光景は、『ビハール アル＝アンワル』に美しく表現されています。

アラーに誓って、（中略）彼は、世界に現れ、地を公正と正義で満たすまでは、どこにも行かない。そうでなければ、地上は不正と暴虐で覆い尽くされるであろう。（p.197）

彼の時代を見ることが出来るならあなたがたはなんと祝福されていることか！ 彼の時代を見る人はなんと祝福された人たちか！（p.170）

そして地は主の輝きによって明るく照らされるだろう、そして彼の統治は東から西へと拡大するだろう。（p.113）

彼はあなたたちから邪悪な裁判官を引きはがし、あなたたちの危険を切り離し、不正な

¹ “Conversation with Sathya Sai Baba” (『サティヤ サイババとの対話』) J.S. ヒスロップ著 Birth Day Publishing Co., San Diego, Ca, 1978 年刊 p.83 (該当する会話は、1978 年版だけに掲載されています)。

² “Living Divinity,” シャクンタラ バルー著, London Sawbidge, 1984, p.40

支配者を追放して、地上から不正を一掃するだろう。彼は公明正大に物事を行い、あなたがたの中に正義の公平な秤を確立するだろう。すでに亡くなったあなたがたの知人たちは、近いうちにもう一度地上に戻って、もう一度生きたいと願うだろう。そしてそのようになるだろう。アラーに誓って、あなたたちは今あなたたちの夢の中にいるのだ！言葉を慎み、暮らしを立てることを求めなさい、そうでないとあなたたちを腐敗が襲うだろう。しかしこのようにして待つなら、あなたたちは報われるだろう、そして彼があなたたちの仇を討ち、あなたたちの権利を取り戻してくれる者であることがはっきりと分かるだろう。わたしはアラーの名において誓う、アラーは真に、敬けん人々、善行を行う人々と共においでになる。(p.155-156)

その時、地はその財宝を明らかにし、祝福を表すだろう。人はもはや施しを与える場も、気前よくする場も見つけることが出来ないだろう、なぜなら豊潤が信じるもの全てを包むからである。(第二部 p.233)

これらの詩文は、予言された黄金時代の美しさを説明しています。それは、現在の世界の状況を考えると想像もできません。しかし、あらゆる神聖原理を内包された方であるスワミと、全ての終末に関する予言を成就するマフディーあるいはメシアが、黄金時代が来ることを約束されているのです。その時代が到来した時、その美しさはどんな夢も想像もはるかに超えたものであることでしょう。

すべての人類が調和のうちに生きる時が近づいています。その時は、みなさんが思っているよりも早くやってくるでしょう。(中略)それは今生きている者が想像できるようなものではありません。それはまったく理解を超えています。わたしが言えるのは、その美しさはすべての夢を超える壮麗な美しさであるということです。

—『シュリ サティヤ サイ バルヴィカス』誌 第15巻、No 9、1996年9月号

なぜマフディーは戻って来るのか？

(略) なぜなら、(中略) 彼は、これまで予言で述べられて来たように、地上を正義と公平で満たすことをしなかった。だから、時の最後の期間にこのことが起きなければならない。これらのすべての理由が結合した結果、宣言されてきた天意が成就される。(p.141)

上記の詩文は、本書にとって非常に重要な部分です。詩文は、マフディーが、地上を正義と公正で満たすという、予言された彼の使命をまだ成就していないため、それを成就するためにこの世に戻ってくることを運命づけられている、と述べているのです。これは、本書が言おうとしていることと、完全に一致するものです：つまり、スワミが宣言されたことでまだ起きていないことが沢山あり、教典にある予言で成就していないことがまだ沢山あるため、スワミは必ずこの世に戻って来られるのです！

(略) わたしは、この地上に住んでいる人たちの安全を保障する存在です。ちょうど星たちが天国の住人たちを保障している存在であるように…私が一刻も早く再び現れるようにもっともっと祈りなさい、あなたがそれに成功するかどうかは祈りにかかっているのですから。(p.498)

第8章 空にビジョンが現れる？

世界の多くの教典は、主が地上に降臨することを告げる出来事を予告しています。中でも最も有名かつ議論されている予言のひとつは、新約聖書の中の「人の子がやってくる」という部分です。聖書には、主が思いもかけない時間に空に現れたので、人々は茫然自失となり心身ともに服従してしまったと述べている箇所があちこちに見られます。

そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを見るであろう。また、彼は大いなるラッパの音と共に御使いたちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。

－『新約聖書：マタイによる福音書』 24章 30-31節

すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。

－『新約聖書：テサロニケ人への第一の手紙』 4章 16節

これら聖書の文言は、空に現れた光景が人類に目撃され、それはすなわち、「人の子」としての神の降臨を告げるものであることを示しています。多くのキリスト教徒が、これをイエスキリストの「再臨」と信じています。しかしスワミは、イエスは彼自身が戻ってくるとは言っていないとおっしゃっています。イエスが言及したのは、ババ自身がやって来るということなのです。

(略) キリストが言ったのは単純なことです：「私をあなたがたに送った方が再び来られるだろう！」そう言って、彼は子羊を指指したのです。子羊は単なるシンボルでしかありません。それはバーバーという音声を表しています；つまり、ババの生誕を宣言しているのです**(中略) キリストは、彼自身が再び来るとは言いませんでした。彼は、「自分をつくった方が再び来るだろう」と述べたのです。そのババが、このババです (略)**

－『サティヤ サイスピークス (第11巻)』 54章

聖書に述べられている「人の子」の「再臨」は、シュリ サティヤ サイババの再来を意味するものでしょうか？ 世界は、まもなく、サティヤ サイの御姿を見ることが出来るというのでしょうか？

見よ、彼は、雲にのってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかり、アーメン。

－『新約聖書：ヨハネの黙示録』 1章 7節

聖書は、すべての人の目がそのビジョンを見るであろうと述べており、出来事が世界的規模で起きることを述べています。“Sacred Nadi Readings”に出てくる、アガスティアの予言にも、スワミの再臨について述べた以下のような記述があります。

(略) 主は、現在の姿かたちで、自身をビジョンとしてお見せになるだろう。それは彼の現実の身体の、本物のビジョンだろう。それは多くの者に目撃され、見た者は驚異の念に満たされるであろう (中略) シヴァ神は言われる、ビジョンはインドだけではなく、全世界で目撃されると。それは同じ形で、色々な場所で目撃される。多くの人は驚きに満たされ、あそこで、ここで、彼を見たと言うだろう。事実彼は、同じ時間に多くの場所で多くの人たちに目撃されるだろう。

— “Sacred Nadi Readings” (『神聖ナディの記録』) シュリ ヴァシヤンタ サイ著 (p.18)

アガスティア ナーディのリーディングは、確かに、前述した聖書の予言の要点と呼応していると思います。聖書はまた、「再臨」の 때가、人々が知らない、思わぬ時間であろうと述べています。

だから目を覚ましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたにはわからないからである。

— 『新約聖書：マタイによる福音書』 24章44節

その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使いたちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

— 『新約聖書：マルコによる福音書』 13章32節

私たちはすでに、『ビハール アル＝アンワル』に書かれているマフディーまたはカイムの到来が、聖書に書かれている「人の子」の到来と似ていることについて検討しました。『ビハール アル＝アンワル』にはまた、カイムが一度消えて再び現れるのは、思いもしない時であるとあります。他にも、『ビハール アル＝アンワル』の中には、聖書によく似た内容が書かれている詩文が多数見つかります。

見よ、アラーに誓って、あなたがたのマフディーは、あなたがたの前から消えるであろう (中略) そして、彼は、燃えるまばゆい流星のように現れるだろう。彼は正義と公正で地を満たすだろう。そうでないと地上は不正と暴虐に覆われるからだ。

『ビハール アル＝アンワル』 13巻 第1部
英訳本 p.178

ここで、前述の引用と、以下の二つの聖書からの引用 — 雲にのって人の子が来る時のことを述べた部分、およびいなずまが東から西にひらめき渡るといふ部分 — について、比較したいと思います。

ちょうど、いなづまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。

－『新約聖書：マタイによる福音書』 24章 27節

そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見ると
あろう。

－『新約聖書：マルコによる福音書』 13章 26節

新約聖書および『ビハール アル＝アンワル』に書かれたこれらの詩文を読んで、私は、世界の人々が、様々な場所で、空に現れるサティヤ サイのビジョンを目撃するのだらうという思いを強くしました。読者のみなさんも、第5章「間近いワミの再臨を示す糸口」で、サイの帰依者の中に、スワミが世界の複数の場所に現れて、多くの場所で多くの人がスワミを見たと言っている、という夢を見た人たちが何人もいたことを思い出されたことでしょうか。同章では、スワミが肉体を去る前の最期の日々に、シーマ デーワンがスワミからいただいたメッセージについても検討しましたが、ここではさらに、前述の予言に照らして、「空に現れるビジョン」とは何を意味するのか、シーマ デーワンが受け取ったメッセージ「わたしはどこにも行っていません」(I Have Gone Nowhere) (以下に一部のみ引用します)を検討してみたいと思います。

清らかな心と愛に満ちたハートを持つ献身的な人々は、折に触れて何度も私を呼ぶでしょう。そうした人々のみが、清らかさの力によって、私を再びこの世に見えるようにし、私は再び、両手に一杯贈り物を持ってやって来るでしょう。皆さんは私の言葉を信じなければなりません。というのも、何であれ、私の言ったことは決して無駄にはならないからです。何であれ、私の言ったことは真実になるからです。常に私を思い出さない。私があなたの目の前にいることを知りなさい。感情から自己を解き放って、私が戻って来るのを待ちなさい。

スワミはこの中で、再びわたしたちの目に「見えるようになります (visible/ビジブル)」とおっしゃっています。「ビジブル」は「ビジョン」から来た言葉です。デーワンのメッセージは果たして、世界が目撃するであろう輝かしいビジョンに関する、スワミからのヒントなのでしょうか？ 空に出現する驚愕のビジョンと共に彼が再来する日とは、スワミが、「目覚めの日」となるでしょう、と述べられたその時を指しているのでしょうか？

目覚めの日は遠くありません、その日が来た時には、神の本当の力が明らかになるでしょう、主がすべての場所に現れるのです。

“Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind”

Satya Pal Ruhela 著 p.223

延期されたヴィシュワルーパ ダルシャン

私は決して意味が無い言葉は発しません、また人々の利益になる結果をもたらさない行いはしません。

“The Life of Bhagavan Sri Sathya Sai Baba”

N. カストゥーリ 著 p.196

2007年10月4日の木曜日、(スワミのご指示によって) プラシャーンティ ニラヤムにおいて、スワミがヴィシュワルーパ ダルシャン（コスミックな姿のビジョンをお見せになること）を与えるとアナウンスがありました。時と場所は、プッタパルティ空港の北東方角、午後の7時でした。これを聞いた帰依者たちは、スワミの御名を唱えながら、空港めがけて走り出しました。テレビでもこのニュースが流れたので、プッタパルティではどの家も鍵を閉めて、空港に急ぎました。周囲の村々からも何千人もの人たちがやって来ました。帰依者たちは皆、北東の空に何が起こるか目を凝らしました。中には、スワミに対する熱い帰依心から、スワミのお車を取り囲む者たちがいて、そのためスワミは車から降りることが出来なくなりました。サティヤ サイ トラストの係の者たちが、彼らに座るように指示しても、帰依者たちの興奮はおさまる様子がありませんでした。それどころか、スワミの車を走って追いかける有様でした。

車の前方には、ヴィシュワルーパ ダルシャンのために、小さなステージが準備されていたのですが、帰依者たちがスワミの車の前にひれ付すので、スワミはステージに近づくことも出来ないままです。スワミはおよそ1時間も、こうして車の中に座ったままでいらっしゃいました。それから少し経って、サティヤ サイ トラストの要職の方から、ヴィシュワルーパ ダルシャンは、帰依者たちが協力的でないことと、天候が曇りだという理由で、延期されたことがアナウンスされました。こうしてスワミはアシュラムにお戻りになったのでした。¹

この出来事は、サティヤ サイ アヴァターの歴史の中で、大変スワミらしからぬ出来事として、非常に興味を引くエピソードです。というのは、スワミがいったん公的にビジョンを見せると断言された後、どんな理由であっても、それを延期するというドラマをお作りになったこと、これは実に、「スワミらしからぬ」ことなのです。スワミは、人々が肝をつぶすような光景を見せるためにその場においでになりました。実現したなら巨大な奇跡であったことでしょう。こう考えると、小さな奇跡を起こしてスワミが車から出られないという理由を作り、それを延期されたことは、まったく理にかないません。しかし、スワミが明確な理由無しに何事もされないことも、私たちは重々分かっていることです。

スワミは過去に、何人もの帰依者に神聖なビジョンをお見せになりました。しかしそれらは、個人か少人数のグループに対してだけでした。“Anyatha Sharanam Nasthi—Other Than You Refuge there is None（あなたの他に頼みになる方は無い）”（シュリ ヴィジャヤクマリ 著）

¹ www.sssso.net を参照

には、著者の神聖な体験が書かれています。それは、スワミが彼女を含めた多少の帰依者に見せてくださった、驚くべき天界のビジョンについての回想です。

ある日、わたしたちが皆でチトラヴァティ川に向かって歩いていた時、スワミのお姿が突然消えてしまいました。わたしたちがスワミを探していると、手を打つ音が聞こえました。上を見上げると、スワミが、「わたしは丘の上にいるよ」と言って、私たちを呼んでいました。夕方の6時頃だったと思います。日差しはすでに弱くなって、太陽は西の空に沈んで行くところでした。空には黒い雲が広がって、まるで厚い毛布に覆われていくように見えました。「みんな、わたしをみてごらんなさい。太陽を見せてあげるから」とスワミがおっしゃいました。

私たちが、「もう日は沈んでしまったんだから、戻ってくるわけがないのに」と考える暇もなく、スワミの頭の後ろから、新しい光が昇って来ました。空の雲は青くなり空っぽに広がりました。スワミの光線は赤みを帯びだして、ついには火のようになり、ものすごい熱を発したので、私たちは皆、すごく汗をかいてしまいました。光線はとても熱くて、真昼のじりじりと焼けるような日差しのように感じました。

あまりに熱くて、とても耐えられなくなったので、私たちは皆で、「スワミ、熱すぎます」と大声で訴えました。すると熱は下がって穏やかになりました。私たちがその場に座ったその時、「みなさんに月を見せてあげます」というスワミの声が丘の上から聞こえて来ました。するとスワミの頭の後ろに、半月の、蜂蜜色に光っている月が見えました。それはすぐに白くなって—どんどん白くなって行きました。それでおしまいでした。それから私たちは寒さで震えはじめました。身体が硬くなりはじめました。歯の根が合わなくなっていく感じがしました。「スワミ、寒いです！すごく寒いです、スワミ」と私たちがお願いすると、寒さは徐々に和らいで行きました。

それから私たちが、次はどんな奇跡を見せて下さるのだろうと思っていると、スワミが、「第三の目を見せてあげましょう。注意深く、よく見ていなさい」とおっしゃいました。私たちは、「第三の目だって！どんな目なんだろう？」と驚いていました。スワミの姿は見えませんでした。すると巨大なスワミの頭部が空に現れました。それは空全体を覆うかのようなものすごい大きさでした。私たちは頭が麻痺したようになり、心は驚きで満たされて、空を凝視していました。それから、スワミの額の、眉と眉の間にひとつの孔が現れました。そこから、炎のような火花が噴出しはじめたのです。私たちは、その閃光のまばゆさで目がくらんでしまいました。そして怖くなりました。自分たちに何が起きるかというよりも、スワミに何が起きるのだろうと心配になりました。火花は噴き出し続けました。後ろを振り向くと、何人も倒れて気を失っていました。どうして彼らが気を失ったのか分からなかったもので、私たちはますます怖くなりました。上を見上げましたが、スワミの姿を見つけることはできませんでした。私たちは、途方にくれて、どうしたらいいか分からなくなって、泣き始めました。その時突然、私たちの真ん中にスワミが立っていらっしゃるのを見つけました。

「どうしたのですか？」スワミは私たちの肩を叩いて、訊ねました。「なぜ泣いているのですか？どうしてこの子たちは気絶してしまったのですか？」スワミの質問にどう答えたらいいかわからなくて、私たちはただスワミを抱きしめて、泣き続けたのでした（略）

ひとりまたひとりと、意識を失っていた者たちが起き上がり始めました。それは今までにない体験でした。私たちは、身体があちこちに不安定に動いているように感じました。まるで空中に浮かんでいるような感覚でした。何か、口では表現できない歓喜が私たちの全身全霊を浸しているようでした（略）

私たちはその夜、上手に歌うことが出来ませんでした。めまいがしました。その夜はずっとそんな状態でした。次の日も同じような状態だったので、私たちはスワミにそのことについてうかがいました。するとスワミはにっこり笑って、こう言われたのです。

「みなさんは、過去何生にもわたって、第三の目を一瞬でもいいから見せてください、と祈って来ました。ですからみなさんの祈りに応えて、今日、第三の目のダルシャンを与えたのです。でもみなさんが見たのは、その輝きの千分の一にも満たないものでした。それでも、みなさんは耐えられませんでしたね。みなさんの今の状態は、あの光景を見た結果です」。この言葉を聞いて、わたしたちは皆崩れ落ちて泣いてしまいました。スワミの蓮華の御足を涙で洗ったのでした（略）

“Anyatha Sharanam Nasthi”シュリ ヴィジャヤクマリ著

このエピソードの中で、スワミは帰依者たちに、その光輝の千分の一も見せていないとおっしゃっています。それでも帰依者たちはそのビジョンに耐えることが出来ずに気を失ったのです。スワミの輝きは、私たちの想像を完全に絶するものだと言えます。こうしたことを知ると、スワミが「ヴィシュワルーパ ダルシャン」を与えるとおっしゃったことと、その後に延期されたというエピソードが、以前にも増して非常に興味深いものに思われます。まことに、スワミのなさり方は、誰にもうかがい知ることが出来ません。ただし、アヴァターに関して、確実なことがあります。それは、正当な理由無しには何ごともなされないということです。どんなことをされるにしても、スワミは人類の利益のためにそうされるのです。またスワミは何ものにも縛られていません。私たちは、これらの「知られている」情報を使って、スワミの特定の行為の意味を想像してみることが出来ます。もしスワミがあることをすると言われたら、私たちが、どうそれが起きるのか考えることが出来ないようなことでも、それは現実になります。ですからスワミはこう私たちにおっしゃるのです：「忍耐していなさい、時間が来れば、みなさんにすべてが与えられるでしょう。」¹「ヴィシュワルーパ ダルシャン」の時に現場にいたサイの兄弟は、これと同じ理由から、この全ドラマが、将来到来するコスミック ビジョンを暗示するものとして上演されたと信じている、と私に言いました。さらに、サティヤ サイ トラストが（スワミのご指示によって）「ヴィシュワルーパ ダルシャン」は、「キャンセル」されたのではなく「延期」されたとアナウンスした点についても注意を払うべきでしょう。

静けさの前の嵐なのか？

“Sacred Nadi Readings”に述べられたアガスティア ナーディのリーディングに、大きな嵐が主のビジョンに先立って起きるといふ、奇妙な予言があります。

主の到来は、雷をともなった大きな嵐を前触れにして起きるだろう。それは非常に恐ろしく見えるが、嵐は突然止み、主のお姿が現れるだろう。この日以降、偉大な出来事が増していくだろう。

－“Sacred Nadi Readings” シュリ ヴァサンタ サイ著 p.21-22

サイの帰依者であるルーカス ラーリは、彼の著書“Sai Messages for You and Me（あなたと私へのサイメッセージ）”の中で、嵐²に関するスワミのメッセージに触れています。それは、嵐の後には完全に新しい大気となり、それが全世界に平和をもたらす、というものです。

嵐の後には新しい始まりが来て、大気は完全に異なるものになるだろう。新しい時代が来たかのように、愛と調和と協調の時代が、戦争、戦い、憎しみ、嫉妬、どん欲など、すべてのネガティブなものが世界を覆っている時代と交替するだろう。

“Sai Messages for You and Me” 第1巻
ルーカス ラーリ著 1985年出版

理論的に言えば、主の到来は、人類を、何らかの災難や破局から守るために、最も時宜にかなった瞬間に起きるといふことでしょう。つまり、そうした前触れ無しには、スワミの再臨あるいはビジョンの出現は起きないだろうと思われまふ。第6章「ナーディに示された驚くべき予言」で検討したように、ノストラダムスの四行詩はそうした自然現象を指しています。

以上のことから、私は、奇跡が起きる前に、人類が一つになって、主に、守ってくださいと乞い願わなければならないような時が、短期間来るのではないかと推測します。しかし、すでに述べたナーディの予言のように、災難がいかに恐ろしく見えてとしても、それは、究極の救い主である、愛と慈悲にあふれた私たちの主、サイの介入によって、突然止むと考えていいでしょう。

空を横切って渡る

スワミは、身近な帰依者たちに、いつかスワミが空を歩いて渡る時が来るとお話しになっています。そしてその時が来たら、人々は彼の栄光を理解するだろう、とも。スワミは、御講話の中でもこのことを一度お話しになりました。

¹ サナタナ サラティ 1996年10月号 裏表紙より

² 比喩的表現の可能性がある。

私はいつか、空を横切って歩かなくてはならないでしょう；そうです、それもまた起きるでしょう、私を信じなさい。

—『サティヤ サイ スピークス（第2巻）』 第18章

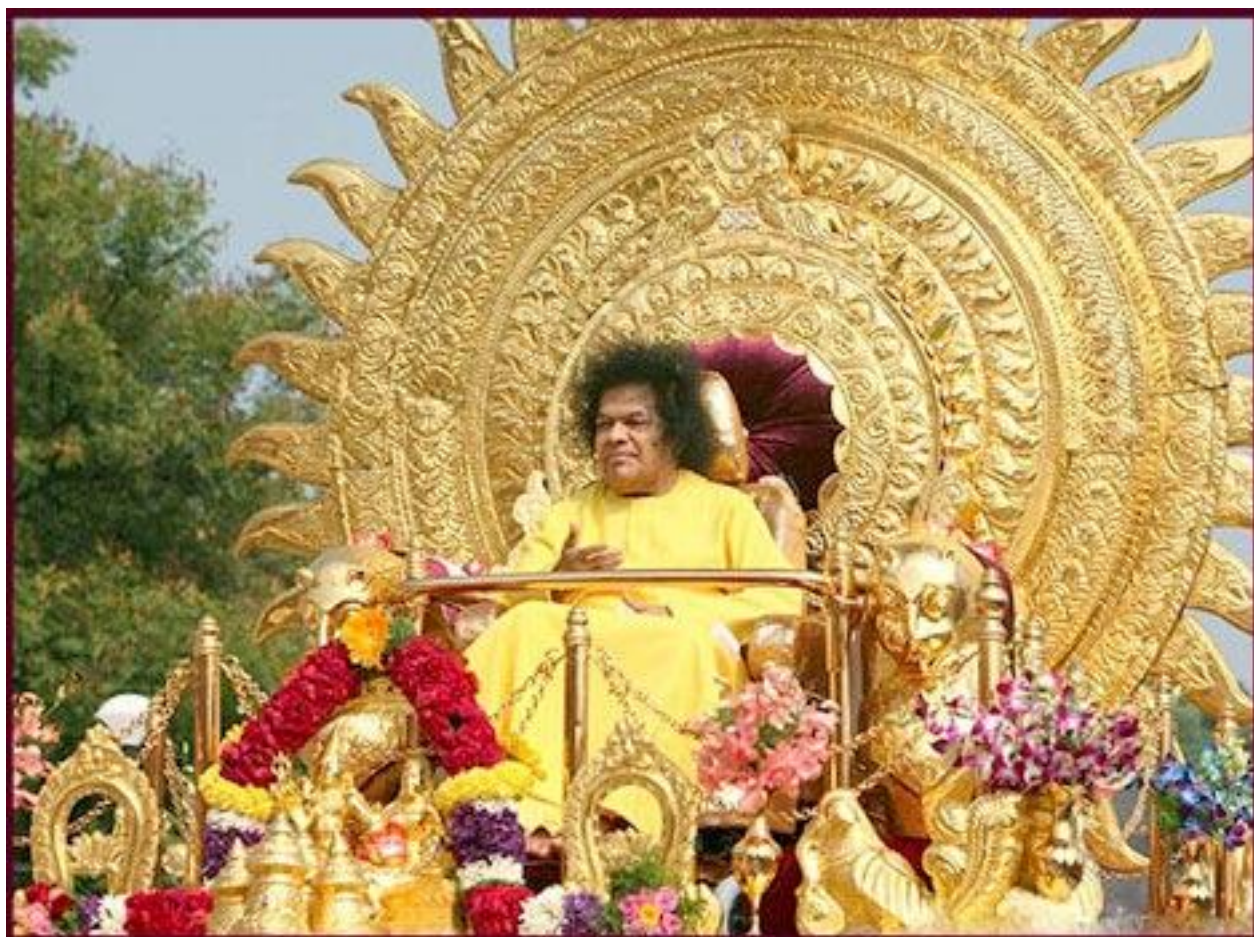
みなさんは、わたしが空の端から端まで、歩いて渡る時に、スワミの栄光を理解するでしょう。

—“Thapovanam Sri Sathya Sai Sathcharithra”
(タポーヴァナム シュリ サティヤ サイ サッチャリータ) 第11章

今まで述べたことから、「空のビジョン」はスワミが常に考えておられたことだと言うことができると思います。それが起こった時には、それはどんなに美しい光景でしょうか！それを目撃する幸運な人は、なんという祝福された人たちでしょうか！

第 3 部

あなたの御国が来ますように



第9章 サティヤ サイの黄金時代の幕開け

皆さんは知りませんが、実に多くの素晴らしいことが起きようとしています。見るもの聞くもの触れるもののすべてが神聖なものに変わります。こうしたことがまもなくすべて起きようとしています。この聖なる機会を逃したり、無駄にしたりしてはいけません。いったんそれが失われれば、あなたは二度とそれを手に入れることはできません。いったんそれを手に入れば、あなたは二度とそれを失うことはありません。

— プラシャーンティ ニラヤムでの御講話

1999年10月14日

スワミはしばしば、自分は人類史に黄金の章を書くために、またそれによって新しい愛と平和と正義と真理の時代である「黄金時代」を導くためにやって来た、と仰っていました。人類は、サティヤ サイ アヴァターが広く受け入れられ、その御名と御姿が世界中で拝される、平安と繁栄の新時代の入り口にさしかかっています。

スワミがこれからやって来るこの素晴らしい時代について触れられた言葉は、数々の御講話の中に散りばめられています。幾つかの出来事は、すでに部分的に起きているかもしれません。プレーマ サイ アヴァターの時代に起きる出来事もあるかもしれない、と疑う人もいるでしょう。しかし、一般的なスワミの話し方から判断すれば、スワミが「この姿」とか「この身体」と仰る場合は、サティヤ サイババとしての現在の化身を指していらっしゃることは明らかです。その上スワミは、プレーマ サイが登場する時は、世界はすでに平和に満ちているであろうと、直接、間接に仰っています。以下は、あるときのインタビューで、ジョン ヒスロップ (JH) 博士がスワミと交わした会話です。

JH: 多くの人々が、私たちは間もなく、大変な災難の時期に入っていくと言っています。

サイ: 私が言ったように、いくつか波の頂は来るでしょうが、世界は幸せで、平和に満ち、繁栄するでしょう。

ゲスト: 世界大戦はないのですか?

サイ: 世界大戦はありません。

JH: 私たちは生きていて幸運ですね。その平和な世界を見ることが出来るかもしれませんから。

サイ: 皆さんは誰でもそれを見るでしょう。年老いた人々でさえ、生きている内にそれを見ることでしょう。

ゲスト: それでは、プレーマ サイがすべき仕事は、それほどありませんね! すでにスワミが世界を平和な状態にされた後になりますから。

サイ: それは40年ほど先のことです。その頃には、世界は平和になっているでしょう。プレーマ サイ、それが名前です。すべてが愛になるでしょう。…愛、愛、いたるところ

る愛になります。

— “My Baba and I” J.S.ヒスロップ著 p.189
1978年12月のインタビューから

スワミは、著名なジャーナリストであった R.K.カランジア氏に授けたインタビューの中で、プレーマ サイ アヴァターの任務は、人々に、自分たち自身が神であることに気づかせることであると説明されました。

「現在のアヴァターの使命は、同じ神もしくは神性が万人の内に住んでいることを、すべての人に気づかせることです。人々は、肌の色や教条が異なっても、お互いを敬い、愛し、助け合うべきです。そうなれば、すべての仕事を礼拝の道とすることが出来ます。最後に、三番目のアヴァターであるプレーマ サイは、神が万人の内に住んでいるだけでなく、万人が神であるという良き知らせを広めます。それこそが、すべての男女が神に到達することを可能にする最後の英知です」。

— ブリッツ誌のインタビュー 1976年9月

プレーマ サイ アヴァターが、スワミが「最後の英知」と呼ぶほどに高度な理解を必要とする知識を、人類に伝えるというなら、その時までには人類がかなりの霊的レベルに到達していると考えていいのではないのでしょうか？ サティヤ サイ アヴァター御自身以外に、いったい誰が、人類にそのような覚醒をもたらすことができるのでしょうか？

再び巡り来る黄金時代

神の意志は止めることが出来ません。神が定めた出来事は必ず起きなければなりません。
喜びに満ちた黄金時代が再び巡り来るのです。

— “An Eastern View of Jesus Christ” p.12
(邦題：『サイババ イエスを語る』)

多くの人は、「今の事態が改善される、すべての人にとって人生は幸せで喜びに満ちたものになる、そして、**黄金時代が再び巡り来る**」と信じようとしません。このダルマの化身は、この神の身体は、無駄に降臨したのではないことを皆さんに約束します。この身体は、人類に訪れた危機を回避することに成功するでしょう。

— “Sai Baba, The Holy Man and the Psychiatrist” (『サイババ、聖者と精神科医』) p. 91

それは人々の予想より早く訪れる

恐れることはありません、私の子供たちよ。すべてはうまくいくでしょう。**愛と光が闇にとって替わり、間もなく新しい時代が訪れるでしょう。**

— “Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind” p. 110

全人類が調和のうちに生きる時が近づいています。その時は、人が予想するよりも早く地上に訪れます。その時が来る前に、すべての生きとし生けるものに存在の真の目的を明らかにするために必要とされること—それがどんなことでも—それをするための準備をなさい。その時は、今生きている者が想像できるようなものではありません。それはあらゆる理解を超えています。その美しさは、いかなる夢をも超えた素晴らしいものとなるでしょう。皆さん方一人ひとりが黙って静かに仕事を果たす時、私は皆さんを私のハートに抱きしめることでしょう。すると、皆さんの魂は高められ、皆さんの目は、皆さんの中に私がいることを明らかに示すようになるでしょう。

—『シュリ サティヤサイ バルヴィカス (第 XV 巻)』No. 9, 1996 年 9 月号

(…) 人類全体が兄弟姉妹となり神が私たちの父親になる、明るく美しい時代が明けようとしており、その時が近づいています。

—『サティヤサイ スピークス (第 13 巻)』第 18 章

(…) 今日、全世界が不安と恐れに苦しんでいます。しかし私は皆さんに、もうすぐ世界中から暗雲が吹き払われて、幸せな時代を目撃する日が来ることを約束しましょう。

—『サティヤサイ スピークス (第 11 巻)』第 28 章

世界が今にも混沌に呑み込まれようとするとき、アヴァターが到来して人々のハートの荒れ狂っている嵐を鎮めます。間もなくプラシャーンティ（至高の平安。動揺の鎮静）が確立されるでしょう。真っ直ぐな神の道から逸れてしまった悪の道はまっすぐに直されるでしょう。どこの社会でもダルマが復興されて、活気を取り戻すでしょう。

—『サティヤサイ スピークス (第 11 巻)』第 31 章

黄金時代の特質

黄金時代が幕を開けると、世界中が調和するようになり、あらゆる場所に愛が流れるでしょう。あらゆる憎しみの思いが消えてしまうでしょう。今日、皆さんはそのような状態を思い描くことができません。なぜなら、いたるところに混沌や闘争や、策略、憎しみ、悪があつて、すべての否定的な感情が支配しているからです。しかし、最終的には変化が起きるのです。

—“Sai Messages for You and Me Vol. II” (『あなたと私へのサイメッセージ』) p.70

変化が起きるとき、それは部分的ではなく普遍的な変化となるでしょう。それはあらゆる場所で起きます。

—“My Baba and I” p.189

[...] その日 [...], 人類全体が真実、正義、愛、平安、非暴力を厳格に守りながら、一つの大きな家族として統合される日 [...], それは、サイの国土（サイラーシュトラ）の確立を示します。その地上天国を体験できる人々は本当に恵まれた人々です。

— “Sai Vandana” #25, 1990 年

それは新しい時代のようなものでしょう。愛と調和と協力の時代が、戦争、闘い、憎しみ、妬み、貪りなど、人間のあらゆる否定的側面が支配する時代にとって代わるのです。

— “Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind” p.223

愛と平和が […]、今日大気そのものを汚染している、暗黒時代の恐怖と過剰さをきれいにぬぐい去ってくれることでしょう。

— “Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind” p.10

人生は変わります。人生は改善されて、皆さんは、過去には手に入らなかった生活の質の豊かさを体験することでしょう。

— “Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind” p.221

今日、あらゆる場所で暴力行為を見かけます。しかし、何が起きていようとも、ある意味でそれは、皆さん方自身のためなのです。すべての人がまもなく神聖な感情を感じるようになるでしょう。誰もが神聖な至福を楽しむでしょう。もうすぐ国全体が平和と幸福を享受するでしょう。いかなる困難も苦しみも無くなるでしょう。

— ブリンダヴァンでの御講話 2003 年 3 月 16 日

アヴァターたちは成功したり失敗したりすることはありません。彼らが意志することは必ず起きるのです。彼らが計画したことは現実のものとならなければなりません。…私は人類史における黄金の章を書くために降臨しました。そこでは偽りは敗れ、真実が勝利をおさめ、美徳が支配します。そこでは、知識や発明の才能や富ではなく、人格が力を持ちます。英知が、国々の会議において最高のものとして大切にされるようになるでしょう。

— “Sathya Sai Baba, Embodiment of Love” (『サイババは世界の危機を救う』) p.174

サティヤ サイ アヴァターが全世界で受け入れられる

まもなく、私の名前と姿がいたるところで見られるようになるでしょう。地上のすべての場所をそれらが覆うでしょう。

— “God Descends of Earth” p. 37

あなたは将来スワミの栄光を目撃するでしょう。スワミは全世界を引きつけます。会場には立錫の余地さえ無くなることでしょう。

— ブリンダヴァンでの御講話 2003 年 3 月 16 日

サイババを、単なる身長 1 メートル 60 センチの姿と見てはいけません。ババの存在は全世界で感じられるようになるでしょう。待っていてごらんください。まもなく全世界

がここにやって来るでしょう。

—『サティヤ サイ スピークス (第28巻)』第19章

アメリカは言うまでもなく、日本、ドイツ、イタリア、フランス等々主要な先進国において、ブッタパルティは無視できない場所と見なされることでしょう。どこに行っても、ブッタパルティは世界地図に重要な場所として示されることでしょう。

—プラシャーンティ ニラヤムでの御講話

1999年10月19日

黄金時代が始まるしるしとして、スワミはどのようなものを見せてくださいますか？という質問には、スワミは、サイの栄光が世界の隅々にまで広がるでしょうと答えます。それは千倍にもなるでしょう。

—『サナタナ サラティ』誌 1993年12月

まもなく皆さんにも分かるでしょう。神の栄光が日を追って高まり、皆さんに喜びと至福を与えることでしょう。あらゆる騒乱は地上から一掃されるでしょう。

—ブリンダヴァンでの御講話 2003年3月16日

(…) アヴァターから恩恵を受けようとして何百万人もの人々が集まって来る日が急速に近づいています。私は皆さんに、あらゆる恩寵とあらゆる至福をできるうちに手に入れておくようにと助言します。

—『サティヤ サイ スピークス (第11巻)』第41章

サイ オーガニゼーションの重要性

サイ オーガニゼーションは、今は規模が限られているかもしれませんが、時が経つにつれて、多くの人を引き付けるようになり、一般の人々を会合に収容できなくなるでしょう。利用できる空間はすべてサイ オーガニゼーションの人々に割り当てられるようになるでしょう。ですから、サイ オーガニゼーションのメンバーであればチャンスが手に入ります。

—“My Baba and I” J.S.ヒスロップ著 p.209

1982年12月のインタビューから

スワミは、それ以上のことも仰っています。

全世界がサティヤ サイ オーガニゼーションになって、サティヤ サイは、すべての人のハートの中に祀られることでしょう。

—『サナタナ サラティ』誌 1999年1月号 p. 16

バーラタ(インド)の栄光

また、皆さんは実に幸運なことに、世界中の国々がインド（バーラタ）に敬意を表すのを見ることが出来るでしょう。皆さんは、この肉体が存在している間にも… 遠い未来においてではなく、この肉体が皆さんと共に、皆さんの目の前にある間に、サティヤサイの名前を称賛する声が世界中に鳴り響くのを聞くでしょう。また皆さんは、間もなく、太古の永遠の宗教（サナタナ ダルマ）—世界中のすべての人々の幸せのためにヴェーダの中に定められた法（ダルマ）—が、本来の純粋で自然な形に復興するのを見るでしょう。シャクティ（力）やサマルティヤ（能力）を表して人々を引き付けるだけがサイのサンカルパ（サイの決意）ではなく、ヴェーダのダルマの復興こそがサイのサンカルパです。

—1968年5月17日の御講話

インドは、霊的にも、文化的にも、社会的にも、政治的にも、経済的にも、あらゆる意味において世界のリーダーとなるでしょう。インドの過去の栄光、文化、伝統のすべてが蘇り、インドは世界をリードする国として輝きを発することでしょう。これが幾つか前の時代（ユガ）のインドの状態であり、再び昔日のようなインドが戻って来るでしょう。

— “Sathya Sai Amrita Varshini” p. 34

今日はクリシュナ ジャンマシュタミ、すなわちクリシュナ神の誕生日です。私は今日、皆さんに約束をしましょう。すべての国々の人々、すなわち、パキスタン、中国、ドイツ、ロシアの人々が調和して一つになります。[...] バーラタの善良さが、この調和へと導きます。

—『サナタナ サラティ』誌 2002年9月号

私たちには、スワミの仰る「いかなる夢も届かないほど荘厳なもの」となる「黄金時代」の美しさを、想像したり概念として把握したりすることしか出来ません。スワミは、私たちがそのような美しい時代が再び巡り来ることを理解できないのは、私たちの社会があまりにひどい状況にあるせいだと仰っています。それでもスワミはそれが来ることを約束されています。

〔カストゥーリ教授の話：〕 皆さんと一緒に新しい世界秩序を、完全なるサイの秩序が打ち立てられる日を待ちましょう。それは遠い将来ではなく、非常に近いうちに訪れます。現在の世界状況を見るかぎりとうてい理解できないほど早く、その日は訪れるでしょう。

—『サナタナ サラティ』誌 1991年8月号

2012年の意義

世界中で、2012年に世界が終わるという、終末論的な話が飛び交っています。マスコミの多

くも、様々な憶測やこの世の終わりを告げる予言を利用して一儲けしようと、大衆の恐怖の炎を煽っています。2012年に起きるとされている神秘的な現象をめぐる騒ぎは、2012年の12月21日の冬至の日で終わっている太古のマヤ暦が話題の中心です。また一部の天文学者たちは、2012年末に銀河系の赤道を私たちの太陽系が横切る時、(地球と太陽と銀河の中心が一系列に並ぶ)「銀河系直列」という現象が起きると予告しています。一部の人々は、これらの兆候を、「時の終わり」の前兆だとして騒いでいるのです。

私は「時の終わり」説を信じてはいませんが、刺激的な宣伝そのものに、ある程度の意義があると考えています。何が我々を待っているのか、もしくは我々が何を期待すればいいのかを知っている人は誰もいないにかかわらず、世界中の多くの人々が2012年に、もしくはその近くに、何かが起きると考えています。それがよいことか悪いことか、意見の一致は見られないようです。しかし私たちは、スワミ御自身が以下のように保証してくださっているので、極端な大惨事は起きないと知っています。

世界に迫っている大惨事というようなものではありません。広大な地球の上で、時おりあちこちで、何らかの災難は起きるでしょうが。

—『サティヤサイスピークス (第24巻)』第4章

一方、2012年を、「時の終わり」ではなく、惑星地球にとって霊的な再建が始まる年になるかもしれないと考えている人々も沢山います。彼らは、様々な兆候を、世界的なレベルで、集合意識が大規模な変化をとげる前兆だろうと受け止めています。いずれにせよ、世界的にそのような期待があることを肯定する何か、その根拠になっているものを無意味だと言えない何かがあるに違いありません。現在バンガロールのホワイトフィールドのシュリ サティヤサイ特別専門病院に勤務している、世界的に有名な心臓専門医であるスリカント ソウラ博士が、ラジオサイのインタビューで次のような興味深い発言をされています。

2007年にスワミがコダイカナルに滞在されていたとき、私も何人かのスワミの学生たちと共に、そこに行っていました。スワミは、何気ない調子で、「サティヤ ユガは2012年に始まる」と仰いました。スワミはそれを、モンスーンの季節には雨が降るよ、というようなことを仰るときと同じように、こともなげに仰いました。私たちはこの時に聞いたスワミの言葉から、今は一つの時代の終わりであって、次の時代が始まろうとしていることを知っているのです¹。

上の言葉は2012年という年の重要性を明確に暗示しています。最も重要なのは、こうした「不確実な」時代に起きるスワミの奇跡は、それがどのようなものでも、すでに人類の多くが相当な出来事を期待している状況下では、間違いなく世界中の注目を集めるだろうということです。そうした視点から見て、私は、このいわゆる「2012年の妄想症」もまた、神の計画か

¹2012年5月28日に media.radiosai.org に出版されたインタビュー

もしれないと思います。結局 2012 年は、一つの終わりを意味することになるのかもしれませんが。今日私たちが知っているすべての悪と不公平が終わりを告げ、多くの経典で予言されている美しい黄金時代の始まりを告げる年であるかもしれません。

経典に書かれた黄金時代

ブラムハ=ヴァイヴァルタ プラーナの第 4 部クリシュナ=ジャンマ=カンダの第 129 章は「ゴーローカローハナム」と呼ばれています。この章には（ドワパラ ユガの終わりに）クリシュナ神が御自身の天の住居であるゴーローカ、すなわちヴァイクンタにお戻りになる様子が描写されているからです。その中に、クリシュナ神とガンガー（ガンジス）女神の詳しい対話があります。第 49 節はガンガー女神からの質問で、第 50 節～60 節は、クリシュナ神の答えです。下にこれらの詩節の一部を紹介します：

第 49 節： ガンジス女神が言いました：おお、守護してくださる御方、至高の享樂者よ！ あなたが完全なる御住居であるゴーローカに向けて旅立たれた後、このカリ（暗黒）の時代に、私の状況はどのようなになるのでしょうか？

第 50 節： 神の至高の人格者（クリシュナ神）は言いました：地球の上では、カリの時代の 5,000 年は罪に満ちており、罪人たちが水浴することによって、彼らの罪があなたの中に溜まって行くでしょう。

クリシュナ神は、母なるガンガーに、カリユガの最初の 5,000 年間は多くの罪人がいて、たくさんの苦しみがあるだろうと言いました。母なるガンガーは、その 5,000 年の後には何が起きるのでしょうかと、主に尋ねます。すると主は次のように答えます。

第 55 節： おおガンジスよ、ヴィシュヌの信者たちの存在によって、それまで罪に満ちていた惑星全体が巡礼の地となるであろう。

第 56 節： 私の帰依者たちの身体の中には、（清める存在が）永遠に残る。母なる地球は、わたしの帰依者らの足の埃によって清められる。

第 57 節： 各地の巡礼地にも、全世界にも同じことが起きるだろう。私のマントラを崇める賢い礼拝者たちは、私の名残を帯びており、あらゆるものを浄化するであろう。

クリシュナ神は、カリユガが始まって約 5,000 年経った時に、世界中にいる神の帰依者たち（ヴァイシュナヴァスという言葉は、文字通りに解釈すると、「ヴィシュヌ神の帰依者」となりますが、この文脈では、「神の帰依者たち」もしくは「霊的な求道者たち」という意味になります）のお蔭で惑星全体が巡礼の地に変容すると仰っています。続いてクリシュナ神は、この時期は何千年も続くだろうと述べています。

スワミによれば、「カリユガ全体の長さは 11,000 年であり、(…中略…) カリユガが終わるまでには、あと 5,320 年残っている¹」そうです。今はカリユガに入って 5,000 年以上経っています。これはつまり、クリシュナ神が話していた栄光に満ちた時期に入っているということです。ハワード マーフエットは、『サイババ アヴァター』という自著で、偉大な叙事詩『マハーバーラタ』の一節に触れ、マルカンデーヤという賢者が森の中で追放の生活を送っているパーンダヴァ兄弟に出会うくだりについて書いています。賢者マルカンデーヤは、カリユガの中でも最も暗く、人間の徳が失われ、暴力と不正がはびこり、偽りが真実を覆い、圧政と犯罪が蔓延する時代について、ヴィシュヌ神との間で交わされた会話を語っています。ヴィシュヌ神は賢者マルカンデーヤに、ヴィシュヌ神自らが人間の姿を取ってこのカリユガの時代に生まれ、世界を新しい軌道に乗せて、「サッティヤ ユガ」すなわち「真実の時代」を確立すると話すのです。

「悪がこの地球上にはびこるとき、私は徳の高い人物の家庭に生まれ、人間の身体をまとい、すべての悪を根絶して、平穩を回復させるであろう。正しさと道徳を保護するために、行動する時節が到来すれば、私は人には想像できない人間の姿を取る。罪の時代であるカリユガにおいて、私は肌の色の濃いアヴァターの姿を取って、南インドの家庭に生まれるだろう。このアヴァターは大いなるエネルギーと、素晴らしい知性と、偉大な力を備えているだろう。このアヴァターは、使命遂行に必要な物は、彼が思うとたちまち、意のままに手にするであろう。彼は美徳の力によって勝利を収めるであろう。彼は世界に秩序と平和を取り戻す。このアヴァターは真実の時代の新しい扉を開け、スピリチュアルな人々に取り囲まれることだろう。彼はスピリチュアルな人々から賛美を受けながら、地球の上を歩き回るであろう。」

「地球の人々がこのアヴァターの振る舞いを見習うので、繁栄と平和が訪れるだろう。人々は再び宗教的儀式の実践に専念するであろう。僧侶階級の伝承を培うための教育施設や、寺院が再びいたるところに出現するだろう。アシュラムは真実を生きる人々に満ち溢れることだろう。地球の支配者たちは、自分たちの王国を道徳にかなった方法で治めるであろう。このアヴァターは輝かしい名声を博するであろう。」

— “Sai Baba Avatar” p. 71

賢者マルカンデーヤが想起した、このヴィシュヌ神の言葉は、明らかにサティヤ サイ アヴァターの特徴を描写しています。また、このアヴァターが、世界に秩序と平和を取り戻し、霊的な教育施設や礼拝所があらゆる場所に建てられて、すべての国々に有徳の支配者が君臨するようになることも述べています。

すでに見たとおり、クリシュナ神はブラムハ=ヴァイヴァルタ プラーナの中で、世界はクリシュナ神の帰依者で一杯になって、その帰依者たちの存在そのものが地球を巡礼の地に変える

¹ 『バガヴァン シュリ サティヤ サイババとの対話』 英語版 p.27-28

と言っています。このことは、ますます多くの人々が神の方を向くことによって、世界の霊的意識を構成する「臨界量」が大幅に増大することを暗示しています。黄金時代は、サイ クリシュナ御自身が、自らの愛と力と神の恩寵によって、全世界を一つの大きなサイ オーガニゼーションへと変容させることで到来すると考えてもいいのではないのでしょうか。

全世界がサティヤ サイ オーガニゼーションへと変わって、サティヤ サイは、すべての人のハートの中に祀られることになるでしょう。

—『サナタナ サラティ』誌 1999年1月号 p. 16

人の子の到来

次にイエスが弟子たちに語った次の言葉を調べてみたいと思います：

わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今それに堪えられない。けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。

—『新約聖書：ヨハネによる福音書』日本聖書協会編 16章:12-13節。

「真理の御霊」とは？ イエスが言及したのは、シュリ サティヤ サイババ以外の誰だというのでしょうか？ 1972年のクリスマスイブにスワミは、驚くべきことを明らかにされました。イエス＝キリストをこの地球に送ったのはスワミ御自身であったと宣言されて、キリスト教世界に衝撃をお与えになったのです。

今日の講話で、ひとつだけ、皆さんに特別にお話ししておくことがあります。イエスは、神の至高原理に融合しようとした時、弟子たちにあることを伝えました。その内容は、様々に解説され、様々に書き重ねられて、言葉に言葉を加えられた結果、今では混沌とした巨大な塊になってしまいました。

宣言自体が変えられ、解説が絡み合って、謎ようになってしまいました。キリストの言葉は、「あなたがたの間に私を遣わされた方が再び来られる！」という単純なものでした。それからイエスは子羊を指差しました。子羊は単なるシンボル、一つのサインでした。それは、バーバーという音を表していました。それはババの降臨の予告だったのです。「彼は真理という名前を持つだろう」と、キリストは宣言しました。サティヤは真理/真実を意味します。「彼は赤いローブを、血のように赤いローブを着るだろう。」（ここでババは彼が着ていたローブを指差しました。）「彼は背が低く、王冠（のような髪）を持つだろう。子羊はサインであり、愛の象徴です」。

キリストは自分が再びやって来るとは宣言しませんでした。彼は、「私をお創りになった方が再びやって来る」と言ったのです。そのバーバーはこのババであり、そして今、背の低い巻き毛の王冠を戴いた赤いローブを着たババが降臨しているのです。ババは

この姿だけでなく、ハートの中に住むものとして、皆さん方一人ひとりすべての人の中にいます。彼は皆さんのハートの中にいる、背の低い、ハートを満たす血液の色をしたローブを着た存在なのです。

—『サティヤサイ スピークス (第11巻)』第54章

上記のスワミの御言葉は、『新約聖書』の中の『ヨハネの黙示録』の中で説明されている、聖ヨハネの見たビジョンと完全に一致しています。

またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、「忠実で真実な者」と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。また彼以外にはだれも知らない名がその身にしるされていた。彼は血染めの衣をまとい、その名は「神の言」と呼ばれた。そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に従った。その口からは、諸国民を打つために、鋭いつるぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸国民を治め、また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた。

—『新約聖書：ヨハネの黙示録』日本聖書協会編 19章:11-16節

聖ヨハネは象徴的な白馬（白は平和の象徴であり、馬は力と広範囲にわたる命令の象徴）に跨っている方を「忠実で真実な者」と呼びました。これはスワミのお名前の一部である「真理／真実」を意味する「サッティヤ」と一致します。燃えるような眼はスワミの際立った特徴の一つであり、スワミの髪の毛は、本当に王冠に見えます。血染めの衣は、スワミがお召しになる赤やオレンジのローブを指しています。ついでに言えば、「その名は[神の言]と呼ばれた。」とは、「バガヴァン」という言葉の意味を指しています。口から出て来る鋭い剣は、スワミの御講話の力を象徴しています。スワミの意志力と権威は、「鉄のつえ」として語られています。それは、白馬に乗って剣を振り回すカルキ神の出現に関するヒンドゥー教の予言と一致しないのでしょうか？ もちろん、すでに述べた通り、馬と剣は象徴です。聖ヨハネが彼を「王の王、主の主」と言っていることは注目に値します。これもまた、ナーディの予言の「カリユガの影響がよりいっそう強まるとき、人々は彼の真の力を知って、彼こそが至高の力であることを認めるでしょう。その時人類は偉大なる王に対してそうするように、彼に頭を下げるでしょう」という記述と一致しています。

聖ヨハネはまた、人の子が座する玉座の周囲に集まった人々の数が何百万人にも達するのを見えています。

また、わたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。

—『新約聖書：ヨハネの黙示録』日本聖書協会編 5章:11節

さて、それをスワミ御自身の御言葉と比べてみましょう。

(…) **アヴァターから恩恵を受けようとして何百万人もの人々が集まって来る日が急速に近づいています。**私は皆さんに、あらゆる恩寵とあらゆる至福を可能なうちに手に入れておくようにと助言しています。(…)

—『サティヤサイ スピークス (第11巻)』第41章

新約聖書には、キリスト教徒がイエス＝キリストの再臨と信じている「人の子」の到来に関する多くの文章があります。でも、私たちはすでに、イエスは自分自身が帰って来ることを言ったのではない、というスワミの御言葉を見て来ました。イエスが言っていたのは「ババ」の到来のことなのです。聖書に書かれた「人の子」の「再臨」は、シュリ サティヤ サイババ御自身の「再臨」を意味するのではないのでしょうか？

人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国の民をその前に集めて (…)

—『新約聖書：マタイによる福音書』日本聖書協会編 25章:31-32節

「人の子」の到来は、スワミの御講話の中で言及されている「黄金時代」のような、真実と愛と平和の新しい時代の前触れとなると信じられています。

人の子はその使たちをつかわし、つまずきとなるものと不法を行う者とを、ことごとく御国からとり集めて、(…)

—『新約聖書：マタイによる福音書』13章:41節 日本聖書協会編

人の子とその御使たちは、新しい王国にダルマと平安が確保されるように、すべての悪を滅ぼします。悪、偽り、憎しみ、不調和が全く存在しなくなる、この黄金の時期は、少なくとも1,000年間続くと言われています。

またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から降りてきた。彼は、**悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。**

—『新約聖書：ヨハネの黙示録』日本聖書協会編 20章:1-3節

聖ヨハネはビジョンの中で、天使が悪魔を1,000年の間縛っておく光景を見ます。これは地球からすべての悪と非真と不調和が取り除かれることの象徴です。それに続くのは、もう一つの眩いばかりのビジョンで、聖ヨハネは、美しい新しい都が天から降りて来て、それがこの平和な世界の中心となる光景を見るのです。

また、**聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。**また、御座から大きな声が叫

ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。

—『新約聖書：ヨハネの黙示録』日本聖書協会編 21 章:2-4 節

聖ヨハネは、「人の子」として降臨した神が神の民と共に住む新しい都が天から下って来るのを見ます。「人の子」は地球上からすべての悲しみを拭い去って、地上には恐れも死も存在しなくなります。聖ヨハネはこの都を「新しいエルサレム」と呼んでいます。「エルサレム」という名前は、ヘブライ語で文字通り「平安の住む所」（英語版ウィキペディアより）と翻訳されます。それは、プラシャーンティ ニラヤムと同じ意味ではないでしょうか？ 聖ヨハネのビジョンは、「至高の平安の宿る処」であるプラシャーンティ ニラヤムの将来を垣間見たのではないのでしょうか？ スワミは、プラシャーンティ ニラヤムには全世界が来ることになるでしょうと仰っているのです。

将来は、全世界がプラシャーンティ ニラヤムに来なければならなくなるでしょう。

—『サナタナ サラティ』誌 1991 年 12 月号

皆さんはプッタパルティがマドウラナガール（クリシュナ生誕の地）になるのを目の当たりにするでしょう。いかなる人もこの発展を止めたり遅らせたりすることはできません。

—プラシャーンティ ニラヤムでの御講話

1961 年 10 月 21 日

私を信じなさい。このプッタパルティは間もなくティルパティになります。（…中略…）サナタナ ダルマの再建はここから始まるのです。

—『サッティヤム シヴァム スンダラム（真・善・美）』第1部 第16章

興味深いことに、ヒンドゥー教の予言によれば、カルキ神は、「シャンバラ」と呼ばれる都に到来されることになっています。そして、この「シャンバラ」の文字通りの意味は「平和と平穏と幸せの場所」（英語版ウィキペディアより）です。

さあ、神御自身がお住まいになる天の都、プラシャーンティ ニラヤムが、大いなる霊的変動の震源地となって、サティヤ サイの黄金時代の幕開けを宣言する、人類史の「決定的な瞬間」を、私たち皆で、共に待とうではありませんか。

忍耐強くしていなさい。時が来ればあらゆるものがあなたに与えられることでしょう。幸せでいなさい。何も心配する必要はありません。（…）皆さん方の全員が聖なる魂なのです。そして、来たるべき新たな黄金時代の幕が上がる時、皆さんはそれぞれの役割を演じることになるでしょう。

—『サナタナ サラティ』誌 1996 年 10 月号 裏表紙

第10章 なぜスワミは肉体をお離れになったのか？

誰も私の神秘を理解することはできません。皆さんにできる最善のことは、それに没入することです。

—『サイババは世界の危機を救う (Sathya Sai Baba, The Embodiment of Love)』 p.96

スワミがなぜ予期されていたよりも早く肉体をお離れになる必要があったのかは、誰にも分かりません。それはずっとスワミの御計画の一部であったはずで、私たちに分かっているのは、これまでに私たちが見たり聞いたりしたことだけです。スワミの身体が徐々に衰弱して、すべての臓器が一つずつ機能不全に陥って、肉体をお離れになった、私たちが理解しているのはそこまでです。ここで、なぜスワミは御自身を治癒されなかったのかという疑問が生まれるかもしれません。しかし、このような疑問は私たちの理解を超えたものであり、スワミ御自身とともに偉大な神秘の一部なのです。もし答えがあるとすれば、唯一の答えは、スワミがそのような意志されたからであり、そのような定めであったということです。何一つ偶然に委ねられていたものはありませんでした。スワミは「万物の主」なのです。

この身体は帰依者たちのために来たのです

(…) その病は、その病のために死ぬ運命にあった一人の人物、その病にかかったら静かに耐えることが不可能だったある人を救うために、私が肩代わりすることを意志した病でした。これは化身した神の働きの一つであり、帰依者に恩寵を注ぐことなのです。(…) 私は、私以外の身体を痛みや苦しみから救うために、この肉体を持ってやって来たのです。この肉体は常に病気や苦痛から解放されており、病気は決してそれに影響を及ぼすことはできません。それが真実です。

—『サティヤ サイ スピークス (第10巻)』第37章

上のスワミの御言葉から分かるのは、スワミがどのような病気で苦しめられたにせよ、それはスワミ御自身の身体に原因がある病気ではないことです。「カルマの法則」は非常に不思議な働き方をします。一つ確かなのは、いったん行動（あるいは思い）が起きれば、その結果、すなわち「成果」が追いかけて来るということです。また、「カルマの負債」を、他の人が意図的に別な人から受け取ることが出来るのも事実です。スワミの帰依者たちが自らのカルマの結果に対処できないという理由で、スワミは何度も、彼らのカルマを御自分の身にお引き受けになりました。スワミは、いかなるカルマであっても意志するだけでそれを帳消しにできたにもかかわらず、そうしないことを選択され、その代わりに、帰依者たちのカルマを御自身の身に引き受けられたのです。御自身はカルマの法則に左右されないにもかかわらず、スワミは、人間の身体を取られた以上、常にカルマの法則を尊重してこられました。

いかなるものであれ、即席の解決策は、自然界の根本的な性質そのものにも、因果とい

うカルマの法則にも反します。

—ブリッツ誌のインタビュー 1976年9月

これまでスワミが帰依者のカルマを御自身に引き受けられる時には、たとえ短い時間であっても、スワミの身体は必ず何らかの苦しみを通りました。今回、愛に満ちた慈悲深い主は、人類全体のカルマを引き受けて、御自身の一つひとつの細胞でそれを焼き尽くすことを決意されたのではないのでしょうか？ スワミは生涯を通じて、人類を高めるという唯一の使命を持って生きられましたが、その同じ大義のために御自身の身体も犠牲に供されたのではないのでしょうか？

かつてスワミは、傑出したジャーナリストであった R.K.カラランジア氏に与えたインタビューの中で、自然災害は人類の集団カルマ、すなわち人間たちの邪悪な行為の直接の結果であると指摘されました。

苦しみと惨事は、宇宙のドラマにおける避けることのできない演目です。神がこれらの災害を運命づけるのではなく、人間自身が自らの邪悪な行為に対する応報という形でそれを招くのです。

—ブリッツ誌のインタビュー 1976年9月

スワミは別な機会にもこのテーマに触れていらっしゃいます。

(…) 人間は自然界から数えきれないほど多くの負債を抱え込みつつ、自然から与えられる快適さを様々な方法で楽しんでます。しかし彼らは、自然にいかなる感謝を表しているのでしょうか？ 神にどのような感謝を捧げているのでしょうか？ 彼らはあらゆるものを提供してくださる神を忘れてます。それこそが、人間が様々な困難や災難の餌食になっている原因なのです (…)

—『サティヤ サイ スピークス (第21巻)』第19章

(…) 多くの自然災害は、すべて人間の行動が原因です。地震、火山の噴火、戦争、洪水、飢饉その他の災難は、自然界の異常事態によって引き起こされたものです。そして、これらの異常は人間の行為が原因です。人間は、人類と自然界との間に、一体としての関係があることに気づいていません。

—『サティヤ サイ スピークス (第25巻)』第37章

これは、カルマ理論で「集団カルマ」と呼ばれているものです。バガヴァンは、このような大規模な自然災害や、核による大惨事を含む人災を回避することも、バガヴァンの使命のひとつであると仰っています。もし厄災が集合的カルマの直接の結果であるとすれば、そうした災害を回避するためには、巨大なカルマを清算する必要があるのではないのでしょうか？ スワミは何らかの大きな厄災を防ぐために、膨大な臨界量のカルマを吸収していらっしゃったのではないのでしょうか？ スワミが入院していらっしゃった頃の世界の出来事を注意深く調べてみれば、

関連性を見出すのは難しいことはありません。スワミが呼吸困難（肺炎）で病院に収容されたのは、日本の地震／津波／原発事故の何日か後でした。この三重の災難は一万人以上の人々の命と（犠牲になった方々のご冥福を祈ります）多くの人々の住む家と健康を奪った、非常に不幸な出来事でした。日本の歴史上最大規模の地震とそれが引き金となった恐ろしい津波によって、福島原子力発電所に異常事態が生じ、日本の国には核の大惨事が迫っていました。福島の原子炉は最大地震強度をマグニチュード 8.2 と想定して設計されていたのですが、現実には（マグニチュード 9.0）それを超えてしまったのです。専門家の中には、原子力発電所があのような事故に耐えることが出来、原子炉が完全なメルトダウンを回避できたのは奇跡であると言う人たちもいます。もし完全なメルトダウンが起きていれば、人類が遭遇したことの無い、想像を絶する大惨事となる可能性があったのです。さらに、今述べたのは私たちが知っていることですが、起きる運命にあったもので、起きなかった災難に関してはどうでしょう？ それはスワミだけが御存じです！ シュカ ナーディの「彼は、自然界の怒りを抑えることができるのは彼だけであることを示すだろう」という予言を思い出すのは、私だけでしょうか。

スワミは非常に明確に、御自身の身体に起きることは、すべて人類の幸せのためだけに起きるのだと仰っています。

ナラシマムルティが指摘したように、ある時カストゥーリが私に、帰依者を救う過程で決してこの身体を粗末に扱わないでくださいと懇願しました。私は、この身体は帰依者たちのためにこの世に来たのだから、帰依者たちの幸せのためには、どんなことでもするために使われるだろうと答えました。肉体への執着は人間のものであり、完全な無執着は神のものです。すべての苦しみや悲しみは肉体への執着が原因で起きるのです。神は肉体執着をいっさい持たないので、自らの肉体の苦しみにはまったく重きを置きません。いったん神が肉体を持てば、その肉体には多くのことが起きます。いかなることが起きてても、それはしかし、全世界の幸せのために起きるのです。

—プラシャーンティ ニラヤムにおける御講話

1999 年 1 月 14 日

これ以上のどんな証明が必要でしょうか？ 私たちが理解しなければならないのは、スワミの肉体は「全世界の幸せのために」犠牲に供されたということです。上記のスワミの御言葉にあるように、スワミは、御自身の肉体の苦しみにはいっさい重きを置かれませんでした。事実、上記と同じ御講話の中で明らかになったことですが、スワミは、帰依者を救うためであれば、いかなることをも辞さなかったのです。

〔以下の御講話は、スワミの帰依者全員が読むべき画期的な御講話の一つだと、私は思います。〕

（12 月に）バンガロールから戻る途中、私は校長（ナラシマムルティ）に、スポーツ大会に学生たちを（プラシャーンティ ニラヤムに）連れてこないようにと言いました。彼らは、この私の言葉を聞いて様々な理由を考えました。（…中略…）学生たちは

優しいハートを持ち、崇高な感情とスワミに対する愛に満ちています。彼らは、私を喜ばせようと思って、すでに様々なプログラムを計画していました。私は迫り来る危険をはっきり認識していましたが、学生たちは私の言葉の通りにしようとしませんでした。私はこの状況ではどのような助言をしても意味がないと感じました。彼らは、私の命令に従わなかった結果に直面して初めて、私の言葉の価値に気づくのです。事実、今、この瞬間まで、11日の朝に何が起きたかを知っている人は誰もいません。誰もがスポーツ大会は大成功だったと言いました。私も、皆さんが首尾よく何かを行えば嬉しく思います。学生たちのパフォーマンスは見事なものでした。一人ひとりが、それぞれの能力に応じてこのイベントを成功させました。あの朝、私がスタジアムに入った時、二台の大型トラックが目に入りました。すぐに、そこに危険が潜んでいるのが分かりました。大型トラックの上には巨大な足場が組まれていました。学生たちはその上でアクロバットの演技を行おうとしていたのです。私には、棒の一つが正しく嵌め込まれておらず、間もなく足場が壊れようとしているのが分かりました。そんなことが起きれば、学生は頭部に大怪我をし、背骨が大きな損傷を負います。私は、その事故を自分で引き受けて、学生が救われるように意志しました。(中略) その前日、私は四人の学生に、当日はスワミの乗るチャリオット(儀式用四輪車)を囲んで注意深く見張っているようにと指示しました。学生たちは皆スワミに対する帰依と愛に満ちています。しかし私は誰もその場にいないことに気付きました。誰をも責められません。誰も意図的にそうしたわけではないのです。学生たちにとって、スワミは呼吸そのものです。

私は、チャリオットを止めるように言いました。年長の帰依者が、非常に誠実に愛と帰依の心でチャリオットを運転していました。彼は私の命令に従って車を止めました。そして、私が副学長と話そうとした瞬間、運転手はブレーキを踏む代わりに、誤ってクラッチを踏んだのです。車が急に動いたので、私はチャリオットから落ちてしまいました。その結果、私は頭と手に大怪我をして、背骨がひどい損傷を受けました。学生が直面しなければならなかったことを、私自身の身に引き受けたのです。客席には多くの男女が座っていましたが、私は誰も私が怪我をしたことに気付かないようにしました。私は何事もなかったように振る舞いました。副学長は、私が立ち上がることが出来ないのではないかと心配していました。私はこれ以上行動が遅れると、帰依者たちが不安を感じる事が分かっていました。そこで私は痛みをそのままにしてすぐに立ち上がり、両手を振って帰依者たちを祝福し始めました。痛みが激しく、手の傷は、ナイフで刺されたように深かったのです。しかし、ローブの袖で私の傷はしっかりと覆われていました。皆さんはこの出来事から、神の無限の力を垣間見る事が出来るでしょう。

厄介な状況でした。私は怪我を気付かれないように壇上に登らなければなりませんでした。そこで私は、人々が心配しないように、誰も私の怪我に気づかないことを意志しました。私は壇上に登って自分の席に着きました。その間に、ローブの下ドーティーは血まみれになっていました。帰依者たちに気付かれないように、私はさりげなくトイレに行きました。そこにあったタオルは吹き出る血を拭い去るには十分ではありませ

んでした。私は、トイレに血染めのタオルを残して人に気付かれなくなかったので、タオルを石鹸で洗い、よく絞って干しておきました。いかなる状況においても、私は自分の苦しみや痛みや疲労を人に見せないようにしています。何人かの学生が、なぜ私が何度もトイレに行くのか知りたがっていました。私は「どうして君が心配するのだ？ 君には関係がないことだろう？」と言いました。通常私は、一日に二回、朝と晩にしかトイレに行きません。大量の出血があったので、私は短時間の内に 5~6 回もトイレに行かなければなりませんでした。その間に、二人の学生が、旗を掲揚してくださいと頼みに来ました。椅子を降りると大変な痛みで、電気ショックを受けたような衝撃でした。あの時のことを思い出すと、笑えて来ます。私はしっかりと地面に立つことさえできませんでした。私は、肉体に惑わされるべきではないと考えて、微笑みを浮かべながら真っ直ぐ歩いて旗を掲揚しました。そしてランプに火をつけました。しかし、とても困った状況だと分かりました。どんな姿勢を取っても心地よく座ることはできませんでした。でも私自身がすべての帰依者たちに肉体への執着を捨てるようにと教えているからには、自分がその手本を示すべきです。このように自分に言い聞かせながら、私はそれに応じた振る舞いをしていました。

小学校の生徒たちが非常に見事な演技をして、私と一緒に写真を撮りたいと希望しました。生徒たちの祈りに従って、私は彼らのところに歩いて行って写真に納まりました。子供たちをがっかりさせたくなかったからです。それ以降、残りの学生たちと写真を撮るために、競技場まで 5 回歩いて行かなければなりませんでした。このように、私は自分自身を肉体から引き離して動きました。私の肉体は痺れていて、もう何の感覚もありませんでした。頭はくらくらしていました。私は、自分の身体に何が起ころうとも、子供たちを喜ばせようと決意しました。私はこのことを自分だけに留めておくことにしたのです。競技場から壇上に戻る途中で血の染みが見えるといけないと気遣いながら、私は自分の席に直接つながる階段を昇りました。人間には、あれほどの大群衆の中にいて、あのよう大きな怪我を長時間にわたって人々の視線に触れないようにすることが出来るのでしょうか？ 出来ません。私は 5 時間という長い時間、椅子に座っていたのです。私がこうしたことを話しているのは、学生や帰依者たちが、神の性質を理解できるようになるためです。私が体験した窮状に置かれた人は、どんな人でも 1 秒たりとも椅子に座っておれなかったことでしょう。足を一步踏み出すことすら出来なかったはずで、電気ショックが全身を刺し貫くかのようなものでした。ショックを与えるものは電気の流れですが、私自身が電流であるとき、自分がそのショックを受ける余地があるはずはありません。

このように感じつつ、私はプログラムの全ての時間にわたって座り続けた後、マンディールに戻りました。セントラル トラストのメンバーたちが私についてきましたが、彼らは私に何が起きたか気づいていませんでした。年長の帰依者が、起きたことに対してお詫びを言いました。私は彼に、「どうして過ぎたことを心配するのですか？ 過去は過去です。私は幸せです。私のことを心配する必要はありません」と言いました。全員が昼食をとりました。昼食後に再び出血が始まりました。学生たち全員が、私と一緒に写

真を撮るために外で待っていました。血を拭くために、私はまたトイレに行きました。これに気がついたインドゥラル シャーが「スワミ、どうなさったのですか？」と大きな声を上げました。私は彼に、優しく「インドゥラル シャー、私の身体に起きなければならなかったことが起きただけだ」と言いながら、怪我を見せました。誰もが苦悩の声を上げました。彼らはあちこちに付いている血に気づきました。私は彼らに、みんながそんなに悲しむのなら、今後はいっさい何も本当のことは打ち明けないと言いました。私がマンディールに到着するまで、誰もそれに気づきませんでした。同じように、私は様々な時に、学生たちや帰依者たちを守るために、彼らの言いようのない苦しみを自分の身に引き受けるのです。今回の不幸な出来事に関しては、誰にも責任はありません。皆さんは、誰かが悪いと考えるかもしれませんが、今回のことは誰の責任でもないのです。起きなければならなかったことが起きただけの話です。ただそれだけのことです。

私がこの出来事を話しているのは、私の命令に従う帰依者たちを救うためであれば、私はどんなことでもするという事実を、皆さんに断言するためだけです。マンディールに戻った私は、あの四人の学生たちを呼びました。彼らは私の怪我に気づいて、うなだれました。私は、私の命令に従わなかったことで、彼らを穏やかにたしなめました。私は彼らに尋ねました。「どうして君たちは、私が命じた通りに、あそこになかったのか？ 君たちが命令に従っていさえすれば、この事件は起きなかったのだ」と言って、彼らに、もうそのことを悲しまないようにと言いました。

ープラシャーンティ ニラヤムでの御講話

1999年1月14日

スワミが御講話を終えられると、その場にいた人々は耐えられなくなりました。帰依者たちはすすり泣き、学生たちは嗚咽しました。スワミは痛ましい怪我を御自身の身体に引き受けられただけではなく、プログラムの進行の邪魔にならないように、苦心してそのことを帰依者たちに悟られないようにされたのです。スワミは、それほど痛みがあったにもかかわらず、ただ帰依者たちを満足させるためだけに、プログラム全体を通してずっと座っていらっしゃったのです。私たちに對するスワミの愛を、どう言葉で表現できるのでしょうか？ 学生たちがスワミの言葉に従わなかったにもかかわらず、スワミは彼らをお守りになったのです。千人分の母親の愛をお持ちのスワミは、帰依者の幸せのためであれば、いかなる妥協もされませんでした。スワミの愛の中にいることのできる私たちは何と恵まれていることでしょう！

ここで、スワミの、「肉体を使った『最後の演技』」について、スワミの雅量の大きさを理解するために、ある学生の喘息を御自身の身体に引き受けて治癒されたという、よく知られているエピソードを振り返ってみたいと思います。サイ大学布林ダヴァン校の学生の一人が重い喘息に悩まされていました。彼は何度もスワミに手紙を書いて、この病気を治してくださいと祈っていました。ある日の夕方のダルシャン中に、スワミは真っ直ぐその学生のところに歩いて行かれて、学生の手を取りました。次の瞬間、学生はスワミが呼吸困難に陥られたのに気付きました。スワミが自分の病気を御自身の身体に引き受けられようとしているのを知ったその学

生は、「ババ、私は病気を治して下さいとお願いしましたが、スワミがそれを御自身で引き受けるようなことはお止めください。お願いですから、どうか私のために苦しむようなことはなさないでください」と叫びました。そう言いながら学生は自分の手をスワミの手から引き離そうとしましたが、スワミは学生の手をお離しになりませんでした。そのまま 2 分ほど経つと、スワミの呼吸は普通の状態に戻り始めました。それからスワミは、深い眼差しで学生をご覧になって、次のように仰いました。

君からの手紙がなければ、私は君に何が起きているのか分からなかったと思っているのかい？ 私は君の喘息のことは知っていたよ。君のカルマの影響が私の身体に移されたのだ。君が 20 年苦しむべきところが、私が 2 分間苦しむだけで終わったのだよ。

ある人の 20 年分の苦しみ、スワミが 2 分間苦しむだけで解消されるのであれば、私たちの慈悲深い主が、入院されていた 28 日間の中にいったいどれだけのカルマを御自身の身体に引き受けられたのか、推し量ることさえ出来ません。そしてそれには、それまでにスワミが人知れず苦しんでいらっしやったと言われる、何週間、何ヵ月という長い年月は含まれていないのです。

祈りの力

この世界には、神の御名ほど強力な守護の力は存在しないことを覚えておきなさい。世界を救うのは武器や爆弾ではありません。神の恩寵のみで世界を守るようにするべきです。神の恩寵を求めて祈ることこそは、人間の第一の義務です。祈りはこの上なく重要です。

—『サティヤ サイ スピークス (第 24 巻)』第 4 章

純粋な祈りを通して、山のような悪も粉碎され、取り除かれます。

—『サティヤ サイ スピークス (第 13 巻)』第 26 章

スワミが入院されていた間、すべての帰依者たちは、どうか御自身の病を癒してくださいと、熱烈にスワミに祈っていました。世界中の様々な場所で、絶え間ない祈りの会合やマントラの吟唱などが行われていました。サイの帰依者たち一人ひとりの心にあったのは、スワミの健康のことだけでした。私自身のことを言えば、あの 28 日間以上に思いを込めて一心に祈ったことはありませんでした。それが一人ひとりすべてのサイの帰依者たちに当てはまったのではないかと思います。あの何日間かの間のサイの帰依者たちの協調と努力だけをとっても、世界のプラスの波動が相当に高まったことでしょう。スワミが、2011 年 4 月 4 日にシーマ デーワンに宛てた、「あなたのためだけに」と題するメッセージ（「差し迫った復活の手がかり」の章を参照してください）の中に、次のような啓示的な言葉があります。（抜粋のみ記載）

「(…) 神の御名は、それが唱えられれば、今日世界中を覆っているマイナス エネルギーを解放します。たとえ私の肉体が苦しみを体験している間でも、私は常に至福の内

にあります。私は痛みを感じません…私はあなただけを…あなたの安全だけを思い、至福の内にいます。あなたが私を最も思うのは、あなたが困難の中にいるときです。だからといって、どうして私があなたに困難を与えることが出来るのでしょうか？ 私はあなたの母なのです。私は常にあなたの幸せを探しています。あなたの涙を一粒見ると、私はあなたのそばに駆けつけます。わたしはいつもあなたのそばにいます。でもあなたは私を見ることが出来ません。それは、あなたの目はこの世を求めているからです。

あなたは私以外の何者でもありません。マイナスのエネルギーを追い払うために、あなたは神の御名を憶念しなければなりません。だからこそ私は、この病気を私自身に引き受けたのです。私を思い出しなさい…祈りなさい、それによって、清らかで純粋な心でいなさい。そうするだけで、あなたからプラスのエネルギーが発せられて、あなたやあなたの愛する人々は、あらゆるトラブルや大惨事からまぬがれるでしょう。

私に関して言えば、肉体の病気は何でもありません。あなたは、私の状態を見て苦痛を耐え忍ぶことで、祈り、愛し、一つになり、正しいことをする強さを自分の中から引き出します。それが、あなたのために私が望むことのすべてです。あなたの平安は、善良であることにのみ存在します。

(…) 争っている兄弟姉妹たちでさえ、母親が病んでいる時は結束するものです。私は、皆さん方がお互いへの愛によってつながり、完全にひとつになるのを、また皆さんが私の庇護の傘の下にいと堅く信じているのを見たいのです。」

上のメッセージでスワミは、世界のマイナス エネルギーを取り除くために帰依者たちが真剣に祈ることを望んでおられることを、明言されています。すべてのマントラの吟唱や祈りは、実際にこの宇宙の安寧を確保する方向に向けられたということでしょうか？ 病気を御自身の身にお引き受けになったことは、おそらく帰依者たちを祈りで結束させるための、スワミの方策だったのでしょうか。母なるサイが病気になった時、スワミの子供たち全員が一つになって、スワミのために祈りました。スワミが肉体をお離れになった後も、サイ ファミリーの絆は 10 倍にも増強されました。誰もがお互いに気を配り合う必要性を感じました。帰依の心は深まりました。サイの活動も増大しました。誰もが、スワミの存在をこれまでよりも近く感じています。私たちは肉体意識を超えることに成功し、スワミが「ハートの中にお住いの方（フリダヤグァースィー）」でいらっしゃることを確認したのです。

全世界を駆け巡ったニュース

マークトゥウェインは、「真理が靴を履いている間に、嘘は世界を半分回ることが出来る」と言いました。悪いニュースも同じです。それはたちまち津々浦々に広がります。事実、世界中の多くの人々が、スワミが肉体をお離れになったというニュースによって、はじめてスワミのことを知ったのです。スワミの御逝去のニュースは、数日間グーグル ニュースの海外欄のトップ ニュースをかざり、タイム誌は 2011 年の十大ニュースの 7 番目にあたるニュースとしま

した。スワミに関して否定的な見方をしていた人々の中には、インド政府が国葬によってスワミの功労を讃えたのを見て、考えを変えた人もいたと思います。

しかし、否定的な評価を煽るメディアも沢山ありました。インド国外に住む帰依者の中には（インド国内に住む人々のほとんどは、スワミのことを知っています）、インドで最近他界したというグルについて質問された人がいると思います。何よりも彼らは、96 歳まで生きるというスワミの予言がいかなるわけで成就しなかったのか、知りたがったと思います。スワミが入院されていた当時から、サイの帰依者は、複数の団体から仮借のない攻撃を受けました。帰依者たちが、スワミに、どうか御自身を癒してくださいと熱心に祈っていた間、彼らは、病気になって入院するような人がどうして神なものと、非難し続けました。スワミが肉体をお離れになってからは、取材に来た国際的メディアの中にさえ、復活を待ち望んでいる帰依者の様子を見て、私たちの信仰を嘲笑したものがありました。しかしながら、ここで最も重要なことは、どのような理由であれ、スワミの御名が世界中に広く知れ渡ったことでしょう。想像してみてください。スワミが復活されるときには、すでに世界のほとんどの人々が、スワミを知っており、成就しなかったと言われる予言のことを聞いているのです！

私の考えでは、おそらく、悪い宣伝も含めたすべてが一つの目的に役立っており、神の設計の一部なのです。様々な人々が、各々の利己的な意図からスワミの御名を汚そうとするとき、そしてスワミの帰依者の信仰をしつこく非難するとき、私はスワミの御復活を渴望しつつ、途方もないまき返しという筋書きの神のドラマが、この宇宙の微細な次元の広がりの中で形成されて行く様を心に思い描かずにはいられません。

(…) 今はスワミの真実に気づくことが出来ない人々も、悔悟の涙を流しながらやって来て、私を体験しなければならないでしょう。もう間もなく、このようなことが世界中で起きることでしょう。

— 『サティヤ サイ スピークス (第 15 巻)』 第 55 章

面白い劇には、必ず何カ所かに最悪の状態が入っているものです。劇作家は、必ず主人公を挫折させた後、最後には観客が主人公の勝利に歓喜するように作ります。神御自身がお書きになり監督していらっしゃるこの神のドラマの中でも、スワミ御自身の紆余曲折を筋書きに織り込まれないことなど考えられるのでしょうか？そうして、いっさいをスワミの蓮華の御足に委ねたスワミの帰依者たちが、スワミの最終的な勝利に歓喜するという筋書きを考えられているのではないのでしょうか？

この（神聖な）現象は、真理を支え、非真を根絶するでしょう、そうして、その勝利の中で、皆さん方全員を歓喜に酔わせることでしょう！これが、サイのサンカルパ（意志）です。

— 1968 年 5 月 17 日の御講話より

多くのことを一度に

私は間違いなくこのアヴァターの目的を達成するでしょう。それを疑ってはいけません。私は自分のやり方で時間をかけて私の計画を実行します。皆さんに言えるのは、皆さん方が急ぐからと言って、私が急ぐことはできないということです。時には、私は 10 のことを一度に成し遂げることができるようになるまで待つかもしれません。それは、機関車を一台の貨車を牽くために使うのではなく、その能力に見合う十分な台数の貨車が準備できるまで待つのに似ています。私の言葉は決して間違いません。私の意志した通りのことが起きなければなりません。

— 『サティヤ サイ スピークス (第 1 巻)』 第 31 章

私たちはここまで、スワミが肉体をお離れになった多くの理由について、スワミ御自身のお言葉から推測して論じて来ました。まず、これから黄金時代が来ることになっていました。その前に様々な災難が回避される必要がありました。そのためには、集団カルマとマイナスエネルギーを追い払わなければならませんでした。どうすればそれが可能になったのでしょうか？ カルマを御自身の肉体に引き受けて、帰依者たちに祈らせることによってです。これで終わりではありません。どうすれば帰依者たちの帰依心や霊性修行の密度を高めることが出来るのでしょうか？ どうすれば帰依者たちをもっと一致団結させることができたのでしょうか？ どうすれば、サイが単なる肉体ではなく、サイはすべてであり、万物に内在していることを帰依者たちに悟らせることが出来たのでしょうか？ それだけではありません。多くの人々が、スワミが肉体をお離れになったというニュースを通じてスワミのことを知るようになったのです。さらに、ぴったり合わせたように、スワミは、復活祭の日に肉体をお離れになりました。(『復活の栄光』の章を参照してください。) スワミはかつて、場合によっては 10 のことを一挙に達成出来るようになるまで待つことがあると仰いました。おそらくスワミは、入院された時から最終的に肉体をお離れになるまでに、おそらく 20 ものことを達成されたことでしょう！

何も心配する必要はありません。何を体験しても、何が起きても、このアヴァターがそのように意志したのです。このアヴァターがやって来た使命を、一瞬たりとも遅らせることが出来る力は地球上に存在しないことを知りなさい。

— 『サナタナ サラティ』誌 1996 年 10 月号 裏表紙

第11章 復活の栄光

イエスを信じる者たちは、イエスは、弟子たちの罪をあがなうために、十字架上で苦しんで死んだと信じています。スワミもまた、イエスは信者たちのために自分の生命を犠牲にしたと仰っています。

私に全託した人々の苦しみを、私が自分に引き受けることは、私の義務です。私には苦しみはありません。また、私がこの私自身の義務を果たしている時に、皆さんが苦しむ理由也没有ありません。このギブ=アンド=テイクの全体が聖なる愛のドラマです。愛によって私が引き受けたのです。ですから、どうして私が苦しむことがありえるのでしょうか？ キリストは、キリストを信じている人々のために、自らの命を犠牲にしました。彼は、奉仕は神であり、犠牲は神であるという真理を広めたのです。

— “Baba Sathya Sai (第2部)” p.171

私たちは聖書から、イエスが十字架にかかってから、三日目に自らを蘇らせたことを知っています。カルマを解消する目的で使われ、滅びた肉体に、イエスの聖なる御力が再び生命を与えたのです。しかし私たちは、復活後のイエスの活動については、わずかなことしか知りません。聖書には、イエスが近い弟子たちに復活した身体のビジョンを見せたことが述べられています。復活後のイエスは、そのほかにどのようなことをしたのでしょうか？ ペギー メイソンとロン レインの共著 “*Sathya Sai Baba, The Embodiment of Love*” (邦題：『サイババは世界の危機を救う』) からの引用を見てみましょう。

私はババに、どうしても聞きたかったことがありました。そこで私は尋ねました。

「スワミ、長い間私が知りたかったことがあります。イエスの肉体は墓の中で再生したのでしょうか？ つまりそれは、ヨガナンダの師（スワミ シュリ ユクテシュワ ギリ）が、自分の肉体が埋葬された三か月後に自分の姿をヨガナンダに示した時のような、霊が物質化された肉体ではなかったのでしょうか？」

スワミは、「いいえ … 肉体です。霊が物質化された身体ではありません。肉体です」とお答えになりました。

「ああ！」と私は言いました。「それでは、イエスは東の方に旅されたのでしょうか？ 自分の使命を果たし続けながらカシミールまで行かれたのでしょうか？」

「そうです。 … そして、彼はまた、カルカッタやマレーシアへも行きました。」

「それでは、カシミールのスリナガルにあるロザバル寺院に埋葬されているのは、イエスの身体なのでしょうか？」

スワミはうなずいて、「そうです」と仰いました。

— “Sathya Sai Baba, The Embodiment of Love”

(邦題：サイババは世界の危機を救う) 英語版 p.48-49

この本には、ペギー メイソンがスワミにインタビューを頂いたときのことが書いてありますが、その時彼女は、イエスの身体は実際の肉体を復活させたものか、霊が物質化された肉体だったのかをスワミに尋ねます。スワミは、それは実際の肉体でしたとお答えになっています。次にスワミは、それまでは研究者たちが憶測しか出来なかったことについてお答え下さいました。つまり、復活後にイエスがインドに旅したことや、スリナガル（インドのジャンムー・カシミール州の夏季の州都）のロザバル寺院のお墓は実際にイエスのものであることを肯定されたのです。イエス（カシミール地方ではイエスはユズ アサフという名前で知られていました…「ユズ」とはヨセフの息子の意味）が肉体の死を迎えた後、遺体はその寺院に埋葬されたと信じられています。イエスはまた、復活後、霊性の大師として長い歳月を送ったと信じられています。

また彼女はこの時、スワミ シュリ ユクテシュワ ギリが、死後三か月経ってから復活して、弟子のシュリ パラマハムサ ヨガナンダに自分の姿を見せたことに関して、スワミにお尋ねしています。この時、スワミ御自身が間接的に確認されたように、シュリ ユクテシュワ ギリの復活は、霊が物質化された肉体でした。ですから、このインタビューでは二種類の復活が論じられているわけです。シルディ サイババもまた、いったん肉体を離れて、三日後にその肉体に戻って来られたことがありました。それにしても重要なのは、復活という一幕は、時々地上に降臨する聖なる存在の使命遂行にとって、欠かすことのできない部分であるという事実です。一方、復活という出来事を別な角度から見ると、復活に栄光を与えているものは死に他なりません。死が無ければ復活は無いのです。実際、イエスの死と復活の一幕があったからこそ、今日、何十億という人々がイエスを信仰し従っているのです。新約聖書の『コリント人への第一の手紙』の第 15 章の中で、聖パウロは次のような言葉でキリストの復活の重要性を説いています。

もしキリストがよみがえらなかったとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなたがたの信仰もまたむなしい。

— 『新約聖書：コリント人への第一の手紙』 15 章 14 節 日本聖書協会編

聖パウロのこの言葉はつまり、「復活を信じることは神を信じることである」ということです。なぜなら、もし神が本当にいて、宇宙を創造したのであれば、神は死人を生き返らせる力も備えているはずだからです。命を与える方のみが、命を蘇らせる力を持っているのです。さらに聖パウロは、もし復活が無ければ、キリストに関する説教をしても意味がないと言っています。復活の一幕は、キリスト教という屋根を支えている柱です。それはまた、イエスが行った奇跡

の中で最大のものと考えられています。イスラム教においては、約束された教師マフディーの蘇りが期待されている日は、「ヨーム アルキヤマ」と呼ばれています。これは、アラビア語で文字通り「復活の日」を意味する言葉です。スワミが、黄金時代の先駆けとなる「再臨」のことをお話になった時（『間近に迫ったスワミの再臨に関する手がかり』の章をお読みください）、スワミは、復活と同じ奇跡のことを意味されていたのではないのでしょうか？ そうでなければ、どうしてスワミは、イエスが復活した日とされている「復活祭」¹の日に、肉体をお離れになることを選択されたのでしょうか？ スワミは私たちに、サイ アヴァターにも同じことが起きるというヒントを与えられたとは考えられないのでしょうか？ サイの帰依者で、スワミに関する著書や翻訳書があるシュリ B.K. ミシュラは、次のように自分の信念を述べています²。

彼（スワミ）は神聖な魂です。スワミは単に人間の肉体を捨てられただけです。実際、スワミが復活祭の日にお亡くなりになったことは、キリストのように復活される可能性があることを示唆しています。

肉体に関する疑問

皆さんは私が一度に 2 カ所で、もしくは 1,000 もの違った場所で同時に姿を現すことができるので驚いています。

—『サッティヤム シヴァム スンダラム』第 4 部 p.194

スワミが肉体をお離れになった後の何日間かの間、多くの思いが私の心に浮かんでは消えました。イエスの時と同じように、スワミは二、三日の内に復活されるのだろうか？ もしそれほど早く復活されるのだとしたら、そもそもどうして、スワミは肉体を離れる必要があったのだろうか？ スワミは、御自身の神性があるひとつの出来事を通じて世界に明らかにされることになると言われました。ひょっとすると復活がその目的にかなうのではないだろうか？ しかし、その時世界はそれを受け入れるだろうか？（あくまで想像ですが… 今振り返ると、もしスワミが二、三日の内に戻って来られたなら、おそらく警察が、サティヤ サイ トラストが帰依者たちと世の人々を驚かせるために、死と復活のドラマを演出したのだろうと疑って、トラストを厳しく追及したことでしょう。不幸なことに、今はイエス キリストやシルディ サイババの時代ではないのです！）。もしスワミが復活されるとすると、スワミは本当に、復活のために同じ身体を必要とされるのだろうか？ それは肉体が腐敗する前に起きなければならないのだろうか？ このような数々の疑問について、私は自問自答していました。しかし、本当のことを言えば、スワミとスワミの不可思議なやり方には、論理的な推論は一切役に立ちません。主の主でいらっしゃるスワミは、時間と空間を超えておいでです。スワミにとって、一つの肉体を再び創り出すのは、草の葉を一枚拾い上げるのと同じくらい容易なことでしょう。

¹ スワミが復活祭の日を選んで肉体を去られた意義を偲び、またスワミが近々復活されることを記念して、本書の初版本は、2012 年の復活祭の日である 4 月 8 日に出版されました。

² 2011 年 4 月 25 日付の“Ahmedabad Mirror”紙に掲載された、同新聞社に対するミシュラ氏のコメントによる。

神の力が達成できないことは何一つありません。それは地を天に、天を地に変えることが出来ます。これを疑うことは、あなたがあまりにか弱いために、普遍的な存在の偉大さを理解することが出来ないことを証明するだけです。

—『サティヤ サイ スピークス (第 4 巻)』第 49 章

スワミがまだ肉体を持って生きていらっしゃった頃から、スワミが複数の場所に同時に現れたという出来事がいくつもありました。そうした事例の一つですぐに思い出すのは、シュリ K.N.P. ナイヤーの体験です。1993 年 6 月 6 日、ロンドンにあるこのビジネスマンの家を、スワミが微細体で訪問されました¹。スワミは彼の家に四日ほど滞在されただけでなく、シュリ ナイヤー夫妻と共に、ロンドン市内を観光されたのです。スワミの身体は、シュリ ナイヤー夫妻が触れて感じることをできる、現実の肉体でした。その間ずっと、スワミの肉体は相変わらずプラシャーンティ ニラヤムにあって、平常通りの日課をこなしていらっしゃったのです。これは、スワミが同時に二つ以上の肉体の中にいらっしゃった数多くの例の一つに過ぎません。さて問題ですが、どちらの肉体が本物だったのでしょうか？ プラシャーンティ ニラヤムで日常業務に携わっていらっしゃった肉体でしょうか？ それとも、世界の別な場所に住む帰依者と共に時間を過ごしていらっしゃった肉体でしょうか？あるいは両方ともに本物だったのでしょうか？ スワミのお墓に安置された肉体はどの肉体だったのでしょうか？ 私たちはその答えを知りません。重要なのは、肉体をお持ちになっていた頃でさえ、スワミは一つの肉体だけに縛られていたわけではないという点です。そのうちの一つの肉体をお離れになった後で、今でもスワミを制限するものがあると考えられるのでしょうか？

スワミは、『ラマカタ ラサ ヴァーヒニ』の中で、ラーヴァナに誘拐されたのは本当のシーターではなく、マーヤーの（幻の／バーチャルな）シーターであったと仰っています。実際のシーターがラーヴァナに触れられるようなことはあり得ないのですが、物語は、ラーマ アヴァターの目的を遂行するために進んでいかなければなりません。劇的一幕が終わってラーヴァナが死んだ後で、ラーマ神が火の中から元のシーターを復帰させるまで、シーターのマーヤーの身体は役割を演じ続けました。あらゆる目的のためにマーヤーの身体は、神の劇が要求するままに、本来のシーターと同じ人間的な特質を持ち、その振る舞いも同じで、両者の間に肉体的な意味での違いは何一つありませんでした。スワミが過去のアヴァターたちに関するそうした霊妙な真実を解き明かして下さる時、実は、御自身も含めたアヴァター全般の行動に関する示唆を与えていらっしゃるのです。「ナーディにしるされた驚くべき予言」の章で、私たちはスワミのマーヤーの身体について言及している幾つかのナーディを見ました。また、死んだと受け止められている、マフディーの消滅を暗示する予言も読みました。こう考えると、スワミが離れた肉体は、外の世界に与えた単なるマーヤーの肉体だったということもあり得るのです。そしてその場合は、スワミの復活は、スワミの本来の身体の顕現となるでしょう！

¹参照：テッド ヘンリーとジョーディー クリアリーによる、『シュリ K.N.P. ナイヤーのビデオ インタビュー』：--- souljourns.net （日本語版は、“ソウルジャーナズ サイババ体験談 4”で検索）

ニルマナ カーヤ(肉体の物質化)という概念

ヨーガの究極的な力の一つに、「ニルマナ カーヤ」(文字通りの意味は「肉体の物質化」と呼ばれている、物質的に死んでしまった肉体を再び創る能力があります。多くのヨーガ行者の中でも選ばれた者だけが、この能力を持っていると信じられています。以下は、イーシャ ファウンデーションのサッドグル、ジャッジ ヴァースデーヴァによるニルマラ カーヤについての説明です¹。

過去に存在した多くのヨーガ行者たちの中には、今もある意味で存在している者たちがいて、彼らは自分自身の最も霊妙な部分を完全なままに保持していて、それをそのまま存続させています。必要を感じたときはいつでも、彼らは昔の身体を再生することが出来るのです。(中略) そうした人々は、自分自身の身体を再生する「ニルマナ カーヤ」として知られています。ゴータマ ブッダは、「ニルマナ カーヤ」の一人だとされています。そのほかにも、自分たちが好んだ昔の若い頃の通りに身体を再生するニルマナカーヤはたくさんいます。(中略) 時間は問題になりません。

ヨーガ行者たちに自分たちの肉体を再生する力があるならば、あらゆる力を授ける方にそれが出来ないなど考えられるでしょうか？ おそらく、スワミにその力があるかどうかは、一度も問題になったことはないと思います。問題は、スワミがそうすることを選択されるか否か、でした。スワミは自然の法則を尊重されるので、今回も自然の法則に反することはされないだろうと主張している人たちは少なくありません。そういう人たちは、それとなく、イエスは自然界の法則に反することをしたと言いたいのでしょうか？ しかしながら、スワミが、自然の法則を超越する行為をされた例は、これまでに沢山あります。その上、スワミ御自身がそれを認めていらっしゃいます。次のスワミの言葉を考察してみましょう。

中には皆さんの頭を混乱させようとする年寄りたちがいます。彼らは、**クリシュナ神は、驚くほど自然の法則を無視して多くの不思議を示したので、獵師の矢によって命を落とさなければならなかったと言います！** またイエスが十字架上で苦しまなければならなかったのは、多くの奇跡を行ったからだと言うのです！ 彼らの主張によれば、**私が自然の法則を受け入れないので、私もまた同様に苦しむのだそうです！** 彼らの目的は、皆さんの中に恐怖と警戒心を広めることです。しかし、これらは、弱さや無知や妬みから来る単なるおしゃべりに過ぎません。**彼らはこの栄光を理解することが出来ず、心を開いて栄光を受け入れたいとも思わないのです！**

—『サッティヤム シヴァム スンダラム』(第3部) 第8章

上の言葉の中で、スワミは間接的に、クリシュナ神や、イエスや、スワミ御自身が、自然の法

¹ 参照：www.ishafoundation.org —サッドグル ジャッジ ヴァースデーヴァによる講演のビデオより。

則を超越する行いをしたことを認めていらっしゃいます。アヴァターはいかなるものにも影響されません。すべてのアヴァターが、それぞれの使命を完遂するために、自然の法則を越えなければなりません。実際、どのアヴァターにも、人々が神の化身として讃え、賛美の歌を作り、そして賛歌を歌い、その栄光について瞑想することが出来るような、途方もない御業が行われる「決定的瞬間」がありました。クリシュナ神は、まだ子供であった頃に、村を大雨から守るためにゴーヴァルダナ山を持ち上げました。また、自分のグルの、12 年も前に死んだ息子の身体を再生させて命を吹き込みました。さらに、地球に接近して衝突しようとしていたナラカという惑星を破壊するなど、驚嘆すべき奇跡をいくつも行っています¹。サイ アヴァターも、（一度死んだ）帰依者を甦らせたり、雨や洪水を止めたり、病気を治したり、帰依者を別な大陸に瞬間移動させたりなどを含めた圧倒的な奇跡を数えきれないほど行って来られました。こうしたスワミの奇跡は、実際どれも自然の法則を超越しているように見えると思います。そもそもそれらが「奇跡」と呼ばれるのは、そのためではないのでしょうか？

ある時のインタビューの中で、傑出したジャーナリストであった R.K.K. カランジア氏は、神が人間の姿を取らなければならない理由をスワミに尋ねました。スワミは次のようにお答えになりました。

なぜなら、それが人間の内に存在する神を具体化する唯一の方法だからです。アヴァターが人間の姿を取って人間のように振る舞うのは、人類が神に親密さを感じられるように、という理由です。同時に、人間の姿をしたアヴァターである彼は、神の高みにまで登るので、その結果、私たち人間も、神に到達したいと熱望できるようになるのです。人の内に宿る神が、私たちの命の原動力であることを具体的に顕すことが、アヴァターが人間の姿を取って降臨する時の任務なのです。

— ブリッツ誌のインタビュー 1976 年 9 月

神聖な行動さえも、人々に自分たちの神性に気付かせるための見本としての行為なのです。人々が同じレベルにまで登れば、同じことが出来るということを知らせるためなのです。イエスが次のように言ったのはそのためです。

よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。— 『新約聖書：ヨハネによる福音書』日本聖書協会編 14 章 12 節

スワミ御自身は復活に関して何と仰っているのでしょうか？

¹ 「かつて、ナラカという惑星が地球に接近して来るのが見えたことがありました。地球の住民たちは迫り来る大災害への恐怖で一杯でした。彼らは、間近に迫った災難を防いで自分たちを救ってくださいと、主クリシュナに祈りました。その時、シュリクリシュナは特別な知識（ブラグニヤー）を使って惑星を破壊しました。」

本当の復活とは何でしょう？ それは、人間に内在する神性が啓示されることです。

— 1964 年 2 月 28 日の御講話

スワミは世界に見本を示す人生を送られました。スワミの奇跡は、私たち全員に、自分の内にある可能性を思い出させるためのものでした。だからこそスワミは、常に「私は神です。そして皆さん方も神です」と仰っていたのです。ですから、自然の法則を超越してスワミが復活されるはずがないと考えるのは、理屈がとおりません。実際、復活の奇跡は、地上を歩かれた中で最も偉大なアヴァターの栄光を飾るにふさわしい出来事ではないでしょうか！

第12章 結論

本書は、間近に迫ったスワミの復活の可能性を示す多くの兆候を提示してきました。しかしながら、私はまた、スワミを呼び戻すのは帰依者たちの信仰と祈りであるとも信じています。スワミはある時、自分は帰依者たちの必要を満たすためなら、プラシャーンティ ニラヤムさえ離れる覚悟があると仰いました。

私は、皆さんの要求に応えるためなら、プラシャーンティ ニラヤムから立ち去る覚悟さえあります。私は人々のためになることであれば、どんなことでもする準備があります。人々のためになることが、私の唯一の関心事です。

— “Sai Vaani, Messages collected from discourses of Sri Sathya Sai Baba”

私たちはスワミが仰りたかったことを理解したつもりでしたが、お言葉通りに、プラシャーンティ ニラヤムから肉体的に去ってしまわれるとは、誰も思っていませんでした。もちろん私はそれが、全世界のため（「スワミはなぜ肉体をお離れになったのか？」の章で論じられている理由のために）だと確信しています。そして、もしスワミがお戻りになるとすれば、それもまた同じ理由に違いありません。私は、このために帰依者たちが取るべき最初のステップは、揺るぎない信仰を持ってスワミの御言葉を心から信じ、スワミの復活を求めて祈ることだと、考えています。スワミはこれまでに、御自身がアヴァターであることを何度か宣言されましたが、最初の頃に、「サドゥー（行者）たちが祈ったので、私は来ました」と仰っています。サティヤ サイ アヴァターの降臨は、何千年も前から様々な経典に予言されていました。しかしそれでも、神が降臨するためには、サドゥーたちが祈らなければならなかったのです。ですから、スワミがお戻りになるためには、私たち帰依者が熱心に祈らなければならないと考えるのは、理にかなっているのではないのでしょうか？ スワミはある時、ひとりの帰依者に次のように仰いました。

そうです。私は揺るぎない信仰を持っている人々への約束を守ります。

— 『サッティヤム シヴァム スンダラム』（第4巻） p. 181

私たちは今、完全な信仰を持つことこそが鍵であることを知っています。本書を出版した最大の理由は、私たち帰依者がスワミの復活を信じ、一つになって祈るための、いわゆる同意形成です。その他には、目的も下心もありません。本書のインターネット版は無料で読むことができます。私が主張したいのはただ一つ、スワミの復活を信じるのは弱さの表れではないということです。実際、グルの言葉に対して揺るぎない信仰を持つことは、帰依者や弟子の強さであると見なされています。私たちは自分のグルのやり方に疑念を抱くべきではありません。スワミがなさることの意味やその理由は、スワミのみが御存じです。疑問視するべきではありません。一方、スワミの御言葉を完全に信じることは私たちが持っている権利なのです。そしてスワミも、私たちにそうすることを勧めていらっしゃいます。

約束された言葉にとっては、真実が命です。私の言葉には、真実の押印があります。私は真実と離れることが出来ません。私は、私の言葉に何の価値も置かない人々には話しません。(中略) 人々が私の言葉に耳を傾けると、私はあらゆる方法で彼らを助けて、彼らに幸せを授けようとします。

—『サティヤ サイ スピークス (第 28 巻)』 第 2 章

スワミはすべての人に、スワミの言葉を重んじるようにと教えていらっしゃいます。そうであれば、どうして私たち帰依者が、スワミのどの言葉を信じて、どの言葉を信じないなどと選り好みが出るのでしょうか？ 私たち帰依者には、自分自身の感じ方によってスワミに出来ることと出来ないことを決めつけて、スワミを限定してしまう傾向があります。スワミの御言葉の確実さを信じないで、すでに起きたことを、自分たちの曖昧な解釈の枠の中にはめ込もうとします。私たちは、スワミが、全宇宙を創造した神であることを忘れてしまいがちです。スワミが何かに制限されるなどということがあり得るのでしょうか？ スワミが肉体を離れて日が浅いうちは、帰依者のほとんどが、スワミの復活を信じていたように思えます。それは、スワミ御自身の言葉から判断して、まだスワミがこの世を去られる時が来ていなかったからです。ではどうして、日が経った今は、別のことを信じるのでしょうか？ あの頃と今では何が違うのでしょうか？ もしスワミがああ頃復活することが出来たと信じるなら、今スワミに同じことが出来ないと言うのでしょうか？ いずれにせよスワミは、あの肉体に縛られてはいらっしゃらなかったのです！ スワミの御言葉のすべてを完全に信じるこそが、私たちの義務です。スワミを呼び戻すのは、そのような揺るぎない信仰のみであると、私は確信しています。

サイ大学の卒業生で、同大学の MBA コースでゴールドメダルを勝ち取った、シュリ ヴィノード カルティックは、2012 年 2 月 15 日にラジオサイに掲載されたインタビュー記事¹の中で、スワミの復活に対する確信を、次のように述べています。(抜粋)

(前略) 個人的なことを言えば、私は確信しています。…これもまた説明はできないのですが…もちろんスワミが遍在でいらっしゃるのは、直観的に分かっています。スワミはいつもここにいらっしゃいます。そのうえで私は、私たちが再びスワミの肉体を見るようになると確信しています。これは 200%の絶対的な確信です。

スワミはたくさんのかたを仰いました。今、様々な理由によって自分たちの信仰を減らす必要はないと思います。スワミは御自身の言葉をすべて必ずお守りになります。スワミの言葉を成就するために、全宇宙が配列し直さなければならないのです。私たちは、普通の人物ではなく、神のことを話しているのだということを忘れないようにしなければなりません。

私自身の体験から、スワミに関する目に見えることという条件で、一つだけ大切な学び

¹ media.radiosai.org/journals/vol_10/01FEB12/04_vinod_04.htm より

を挙げなさいと言われたら、それは、スワミの声は良心の声でもあるということです。スワミが何かを仰って、自分の良心がそれとは違うことを言っているというジレンマには、私はただの一度も陥ったことはありません。だからこそ私は、完全な確信を持って、スワミが仰ったことは、時間が経てば一つひとつすべてが正しかったことが証明されると言うのです。

スワミはすべての約束を守られる。

スワミは、どのような状況であったとしても、御自分がされた約束はすべて守ると仰いました。スワミがサティヤ サイ アヴァターを宣言されたばかりの頃、帰依者たちがダルシャンを受ける場所として自分の家を提供していた、シュリ スッバンマという帰依者がいます。彼女は主なるスワミに対する大いなる愛と帰依心を持っていました。その彼女に、スワミは、人生の最後の瞬間にババのダルシャンを受けたいという願いをかなえることを約束していました。スッバンマが亡くなったとき、スワミはプッタパルティにいらっしゃいませんでした。親族の人々は、翌日スワミがお戻りになるまで遺体を保管していました。スワミが彼女の最後の願いをかなえられた時のことを、スワミ御自身が次のように話していらっしゃいます。

（略）「スワミ、あなたのスッバンマが、昨夜亡くなりました」と言いながら、人々が駆け寄って来ました。すぐに私は車の向きを変えて真っ直ぐブッカパトナムに行きました。彼女の身体はベランダに安置されて、布がかけられていました。家全体が悲しみに沈んでいました。スワミはいったん約束をしたら、どんなことがあってもそれを守ります。私は身体を覆っている布を取りました。彼女は前の晩に亡くなったので、全身に蟻が這っていました。私が、「スッバンマ」と呼ぶと、彼女は眼を開きました。このニュースは、たちまち野火のように広まりました。ブッカパトナムの人々が、スッバンマが生き返ったと言いながら、その場に詰めかけ始めました。スッバンマの母親は、当時 100 歳でした。私は彼女に、コップに水を入れて、その中に一枚のトゥルシの葉を浸して持って来るように言いました。私はトゥルシの葉をスッバンマの口に入れて、水を少し飲ませました。私は、「スッバンマ、私は約束を守ったよ。さあ、安らかに眠るといい」と言いました。彼女は、「スワミ、これ以上何が必要でしょう？ 私は至福に満ちてあちらへ参ります」と言いました。歓喜の涙を流しながら、彼女は私の両手を取って、息を引き取りました。私はこのように、いかなる状況の許でも必ず約束を守ります。このように、私は決して約束を破りません。

— 2002 年 10 月 20 日の御講話

スワミは最後のダルシャンを受けるために、スッバンマの魂を一時的に呼び戻されたのです。この出来事は、何があってもスワミがすべての約束をお守りになるという確たる証です。もしスワミが、最後のダルシャンの約束を守るだけのために帰依者を生き返らせることが出来るのであれば、御自身の言葉を守るために、スワミが生き返ることを阻むものがあるでしょうか？

私は、微塵の疑いもなく、スワミの御言葉でまだ成就していないものは、そのうち必ず成就さ

れると信じています。いつ、どのように、は、スワミのみぞ知る、です！ あと何年か後で振り返って見れば、私たちにも理解できることでしょう。シュリ サティヤ サイ アヴァターは、普通のアヴァターではありません。この話は、これまでに人間の姿を取って地上に現れた神の化身の中でも、最も強力な化身の話なのです！ 今から長い歳月が経って、未来の人々がサティヤ サイ アヴァターの栄光の物語を読むときが来たなら、栄光と賞賛の言葉の中で、成就しなかった予言の痕跡すら見つからないことでしょう。決して見つかるとは思いません！

スワミの帰依者たちの訓練期間？

スワミが肉体をお離れになった時、すべての帰依者たちは悲しみに打ちひしがれました。あたかも私たちをそうした事態に備えさせるかのように、スワミは特別な約束をされています。

誰もスワミの健康を心配したり気を揉んだりする必要はありません。スワミはいかなる危険にも陥ることはありません。スワミは常に、あらゆる困難や問題を無傷で切り抜けます。恐れたり、気の毒に思ったり、悲しんだりする必要はありません。スワミは必ずすべてを成功させます。

— 2003年7月13日の御講話

今日この言葉を読むと、大変深い意味を持っていることが分かります。なぜならスワミは、将来的に困難や問題が起きるであろうことを認めていらっしゃる一方で、御自身がそれらを無傷で切り抜けることも約束して下さっているからです。しかし、どうして私たちが気を揉んだり心配したりしないことができるのでしょうか？ 私たちの愛するスワミのことなのですから！ スワミは、クリシュナが肉体を離れたとき、アルジュナは別離に耐えかねて精神的な力まで失ってしまったと仰っています。

アルジュナはクリシュナが自分のハートの中にいると常を感じており、それが彼に力を与えていました。クリシュナの訃報を聞いたアルジュナはクリシュナがいなくなったと感じました。アルジュナがそう感じたために、彼の気力も失われてしまいました。

— 『サティヤ サイババとの対話』 p.159

ドワパラ ユガにおいてさえ、アルジュナほどの優れた帰依者が主との別離に耐えられなかったとすれば、このカリユガに住む私たちはこうした苦悩にいったいどのように対処すればいいのでしょうか？ とはいえ、スワミの恩寵によって多くの帰依者たちが歩みを進めて、御姿を超えたスワミをハートの中にお祀りしようと努力したのも事実です。私はこれもまた、帰依者たちがスワミの御姿や肉体への執着を克服することを助けるための、神のドラマであると信じています。ですから、私たちの祈りが、スワミの復活を熱烈に求めると同時に、肉体としてスワミに近づける状態を取り戻すためのものとならないように、気を付けなければなりません。肉体的な緊密さを取り戻したいとする祈りは、スワミが御自身の姿を地上から消された目的そのものを台無しにしてしまいます。私たちは前章までに、スワミ御自身が、スワミの寿命や、サティヤ サイ アヴァターがこの世の黄金時代の先駆けとなることに言及された、数々の言葉を

見てきました。もしスワミがそうした発言をされていなかったなら、おそらく私たちの誰もが今、サティヤ サイ アヴァターの復活をではなく、プレーマ サイ アヴァターの到来を待ち望んでいたことでしょう。同じ理由で私たちは、現在の世界が陥っている悲惨な状況から、全世界を良い方向に向かせる衝撃を与えるスワミの復活を切に祈らなければなりません。

スワミが何度も仰って来たように、スワミの帰依者たちは全員、スワミの聖なる使命の中で、果たすべき役割を持っています。

(黄金時代につながる) 変容をもたらす中で、皆さんがた全員が、何らかの役割を演じることになります、そのとき皆さんが使うべき道具は愛です。

— “Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind” p. 224

スワミは、1979年にはすでに、チャールス ペンに宛てたメッセージを通して、私たち全員にスワミの使命の中で道具になる準備を整えなさいと指示していらっしゃいます。

あなたの使命が始まりました。これは私の帰依者である皆さんへの、私の言葉です。皆さん方一人ひとりが、今生で演じる独自の貴重な役割を持っています。私が呼んだ人々だけが私に仕えることができます。私の使命は今、皆さん方一人ひとりが、担うべき仕事を持つ段階に到達しました。この惑星は、それを取り巻く大いなる銀河系の中で一つの目的を持っています。その目的が今、私たちの目の前で開き始めています。皆さんの中のバクティ（神への愛）を放射して、その見えない力があなたの周りのすべての人々を包み込むようにしなさい。あなたの役目を上手に演じるために、いつも私を意識の中心に置いておきなさい。（中略）私の愛が何倍にも増えて行くのが、全世界で感じられるようになるでしょう。私は、皆さんがこの仕事ができるように、私が何度も化身する間に、皆さんの準備を整えて来ました。そして私は皆さんを私の許に引き付けました。私はこれまでの過去の化身を通じて、使命遂行の為に大きな歩みを進めて来ました。私の仕事は絶えることが無く、したがって皆さんの仕事もまた終わることはありません。（略）

私が皆さんの中にも外にもいることを知りなさい。それには何の違いもありません。あなたの中から取るに足りないことを金輪際取り除いてしまいなさい。あなたは今私の中におり、私は今あなたの中にいます。何の違いもありません。私のダルシャン（霊的祝福）は、私からあなたへ、そしてあなたを通して世界に注がれることでしょう。あなたはこの絶えざる活動に気付いていないかも知れません。常に清らかなハートと魂でいなさい。そうすれば、あなたが生きている時の人々は、あなたのユニークな特質によって恵みを得ることでしょう。

他の人々もまた、私が彼らを引き寄せる時に、この使命に加わることでしょう。全人類が調和して生きる時が近づいています。人々が考えるよりも早くその時はやってきます。その時が来る前に、生きとし生けるすべてのものに、存在の真の目的を明らかにするた

めに必要とされること—それが何であれ—そのための準備を整えておきなさい。(略)

—『My Beloved』チャールス ペン著 p. 96-97

私たちは、スワミが御自身の仕事を続けるために戻って来られるのを待つのではなく、むしろ一人ひとりが、自分たちの霊性修行をこれまで以上に熱心に行い、目の前で展開される新しいサイの時代に、スワミの聖なる道具になれるように努力するべきです。それが、上記の示唆に富むメッセージを通じて、スワミが私たちに望んでいらっしゃるのだと信じます。

昔、帰依者たちが容易にスワミに接近することが出来た頃でさえ、かつてはとても親切にしていた近しい帰依者に、スワミがある時から距離を置かれたという話を、私は何度も聞いたことがあります。このスワミの行動は、帰依者が、スワミの御姿への執着を無くして、スワミの無形の実体と自分が一つであるという気づきを促すための、母親としての愛であることは明らかです。スワミのお姿が見える所にいると、どうしても一体であると気付くのが難しいからです。今回、スワミが肉体的に不在となる状況を私たちに強いられたのは、同じ理由からであった…つまり、スワミは単なる肉体ではなく、私たちの上に、周囲に、中に、常にいらっしゃるのだという、最も重要なことを学ぶためにそうされたのだと考えられます。このことを念頭に、私たちは、心を内に向けて、スワミが約束された来るべき美しい霊的時代に備えたいと思います。

さて、私たちは果たして、スワミが戻って来られたときに世界に与える衝撃の大きさを、想像出来るでしょうか？ スワミはかつて、世界全体がプラシャーンティ ニラヤムにやって来るだろう、そしてそのときは立錫の余地すら無くなるだろう¹と仰いました。ハヌマンタッパ博士は、プッタパルティの未来に関する夢を、“Sri Sathya Sai Baba A Yuga Avatar”² (p.167) という自著の中で、次のように説明しています。

人々は、お祭りなどの時に遠くからスワミのダルシヤンを受けることが出来るだけです。その時でさえ、私たちはスワミの全身は見る事が出来ません。ですから将来は、こうしたことは予測不能な状況になります。私たち古い帰依者は、未知の世界に来たように感じることでしょう。

こうした状態では、私たちは、肉体的にスワミに近づくという、ほとんど不可能に近いことを切望するよりも、スワミを私たちのハートの中に見ることが出来るように努めるべきです。第7章「消えたマフディー」で、私たちはすでに、マフディーに関する予言がサティヤ サイ アヴァターの特徴に完全に一致することを見て来ました。また、マフディーの消滅とその後の再臨に関して書かれていたことも見て来ました。私はさらに、マフディーは、復活した後は誰に対してもいっさいの義務を負うことはないと言っている、興味深い予言に出会いました。

¹ 「サティヤ サイの黄金時代の幕開け」と題する章を参照してください。

² 「間近に迫ったスワミの再臨に関する手がかり」と題する章を参照してください。

彼が蘇る時、我らのカイムは、誰に対しても一切の義務を負うことはないだろう。

—『ビハール アル=アンワル』 Vol.13 Part 1,
英訳版 p.147

言い換えれば、カイム、すなわちマフディーが、消えた後に蘇るのは、特定の人々のためではありません。彼は、全世界の主となられるのです。現在起きているスワミの消滅期間も、私たち帰依者が、そのようなスワミの無執着の態度に対処できるようになるための訓練期間なのかもしれません。

スワミは、いつもその力を、マヤーと人間的な行動の後ろに隠して抑制されていました。その理由についてスワミは、もしスワミが実際の力の顕現を赦せば、全世界がスワミのもとに来ることになる。しかし、まだその時が来ていないと仰っていました。

その時（スワミがアヴァターであることの公的宣言）は、まだ遠い先のことです。それに先立って、私は、前世において厳しくたゆみない靈性修行を通じて、私に接近しようとして来た人々を、近くに引き寄せなければなりません。それから、公的な宣言によって、世界がアヴァターについて知る時が来るでしょう。（略）

—“Sai Baba and Nara Narayan Gufa Ashram” Part II, p. 38

今はスワミの真実を認識できない人々も、日が経つにつれて、悔悟の涙を浮かべて近づいてスワミを体験しなければならなくなるでしょう。間もなく、これは世界的なものとなります。スワミは今、こうした展開を抑えています。いったんそれが許されれば、全世界がブラシャーンティ ニラヤムに変わるでしょう。

—『サティヤ サイ スピークス（第15巻）』第55章

おそらく今、このような世界的な展開の機が熟しているのかもしれません。ですから、復活後のスワミは、何ものからの束縛もお受けにならないかも知れません。またその必要もないことでしょう。スワミはすでに、万人に対するメッセージとして、お手本として、85年という歳月を生きて来られました。再臨されるからには、御自身に対する抑制をすべて外されて、全能の力を余すところなく行使される可能性が考えられます。明らかになったすべての手がかりを考え合わせた時、いったい誰がそのような可能性に待ったをかけることが出来るのでしょうか？

おお、親愛なる主サティヤ サイ、あなたの御国が来ますように。
御国が早く来ますように

祈り

わたしたちの心に住まう 母なるサイよ
わたしたちがお慕いする あなたよ

あなたの御心が行われますように
あなたの御国が来ますように

どうぞわたしたちの願いをお聞きください
あなたの御足にすぎり わたしたちは祈ります

わたしたちのすべてをお捧げして
あなたの子供たちは乞い願います

暗雲は
陽光をいつまでもさえぎることはできず

太陽は
あなたの御国を照らす時を待ちわびています

ああ一刻も早く
あなたを再び拝し 敬い賛美する時が来ますように

—シュリ ジュリー チャウドゥリー

祈 り

おお主よ、わたしの愛を
あなたへの帰依心で満たしてください

おお主よ、わたしの手を
あなたのために絶えず働かせてください

おお主よ、わたしの魂を
あなたとひとつにならせてください

おお主よ、わたしの心と思いを
あなたと一致させてください

おお主よ、わたしのすべてを
あなたのために働く道具としてください



慎んでスワミの聖なる蓮華の御足に捧げます。

*** ジェイ サイラム ***

訳者あとがき

まず、この類いまれな本を翻訳する機会を私に与えてくださったスワミに、心から感謝しています。

また、スワミの御復活という大変大きな難しいテーマに挑み、本書をまとめられた、シュリージットナーラーヤン氏に敬意を表します。私は訳している間、至福の時間を過ごしました。

本書では、スワミの御復活の可能性に関して様々な視点から検討が行われており、根拠となる例や文献も十分に提示されています。それに加えて、私もひとつ、あるエピソードをご紹介しますと思います。

これは、スワミの言葉の真実についての話です。

スワミの大学を卒業し、スワミのアテンダントも務めたスンダー アイアー氏が、驚くべき体験をソウルジャーナイズのインタビューで語っています。同氏によれば、彼をコブラの毒による死から救うために、スワミは、緊急事態を知らせた人に、「彼はヘビに噛まれたのではない、刺だ」と言われたそうです。その後、数年たったある日、アイアー氏は、スワミの言葉が厳然としてその意味を保ったままであることを、スワミから直接に教えられます。スワミは彼に、「わたしは決してヘビに噛まれたとは言わないでしょう。わたしは刺だと言ったのです。これから後も、あれは刺です。永遠に刺です」と言われたのです。

この話は、スワミの言葉の神聖な力を現しています。私たちが今、スワミの御復活を待つことが出来るのは、この真実です。

私たちが、スワミが肉体を離れられたことを悲しんでいる時、スワミは次のような言葉を、帰依者のシーマデーワンを通じて私たちに与えてくださいました。

「…清らかな心と愛に満ちたハートを持つ献身的な人々は、折に触れて何度も、私を呼ぶでしょう。そうした人々のみが、清らかさの力によって、私を再びこの世に見えるようにし、私は再び、両手に一杯贈り物を持ってやって来るでしょう…」(本書第5章より)

私たちバガヴァンシュリーサティヤサイババを愛する者たちは、この言葉どおりに、スワミの御名を、何度も、何度も、呼ばずにはいられません—あなたの御国が来ますように、あなたの御心が行われますように、と。

穂積由利子

2013年4月8日

訳者紹介：穂積由利子。フリーランス翻訳者。1994年カナダ在住中に、本でバガヴァンシュリーサティヤサイババを知る。1996年ブラシャーンティニラヤムに行き、インタビューを与えられる。現在は日本在住。2011年、奈良野英介と共に、ソウルジャーナイズ日本語版を、オリジナルサイト Souljourns を制作しているジョーディークレアリーとテッドヘンリーの協力を得て始める。本書の、6-8章、および祈りの翻訳を担当。

：スンダー・アイアー氏のインタビューは：<http://youtu.be/jZV8pMLMmUo>

参考文献／引用文献

- *An Eastern View of Jesus Christ*, (『サイババ イエスを語る』サティヤ サイ出版協会刊) Lee Hewlett and K. Nataraj, Sai Publications, 1982
- *Anyatha Saranam Nasthi Other than You Refuge There is None*, Smt. Vijayakumari, Sai Shriram Printers, 1999
- *Baba: Satya Sai*, (『ババ、サティアサイ』Ra. ガナパティ著 日本サイババ研究会刊) Ra. Ganapati, Satya Jyoti, 12, Radhakrishnan Street, Madras, 600017, India, 1981
- *Bihar-ul-Anwar* Volume 13 Part 1 & 2, Allamah Muhammad Baqir al-Majlis, English Translation, Ja'fari Propagation Centre, Mumbai
- *Bhagavan Sri Sathya Sai Baba (An Interpretation)*, V.K.Gokak, New Delhi: Abhinav Publications, 1975
- *Conversations with Bhagavan Sri Sathya Sai Baba*, J.S.Hislop, Sri Sathya Sai Books & Publications Trust
- *Conversations with Sathya Sai Baba*, (『サティヤ サイババとの対話』J.S.ヒスロップ著 サティヤ サイ 出版協会刊) J.S.Hislop, Birth Day Publishing Co., San Diego, CA, 1978
- *God Descends on Earth*, Sanjay Kant, Sri Sathya Sai Towers Pvt. Ltd., 1998
- *In Search of Sai Divine*, Satya Pal Ruhela, M.D. Publications Pvt. Ltd., 1996
- KJV: *King James Version of the Holy Bible* (欽定訳聖書)
- *Living Divinity*, (『大神格サイババ アヴァター』シャクンタラ バルー著 日本サイババ研究会刊) Shakuntala Balu, Sawbridge Enterprises, 1981
- *Modern Miracles: An Investigative Report on Psychic Phenomena Associated With Sathya Sai Baba*, Erlendur Haraldsson, Hastings House, 1997
- *My Baba and I*, Dr. John S. Hislop, Birth Day Publishing Co., 1985
- *My Beloved. The Love and Teaching of Bhagavan Sri Sathya Sai Baba*, Charles Penn, Sri Sathya Sai Baba Books and Publications Trust, Prasanthi Nilayam, 1981
- *Sacred Nadi Readings*, (『神聖ナディの記録』編集: シュリ ヴァサンタ サイ 日本サイババ研究会刊) Compiled by Sri Vasantha Sai, Sri Vasantha Sai Books & Publications Trust, Mukthi Nilayam, 2011
- *Sai Baba and the Nara Narayan Gufa Ashram Part 1 & 2*, (『サイババとヒマラヤ洞穴の修行者たち』原著 スワミ マヘーシュワラナンダ; B.P.ミシュラ英訳・編集 日本サイババ研究会刊) Swami Maheshwaranand, ed. B.P. Mishra. Bombay: Prasanthi Printers, 1990B.P.

- *Sai Baba Avatar: A New Journey into Power and Glory*, (『世紀末の奇跡 サイババ・アヴァター』 ハワードマーフェット著 日本サイババ研究会刊) Howard Murphet, San Diego, Birth Day Publishing Co., 1977
- *Sai Baba, The Holy Man and the Psychiatrist*, (『サイババ：聖者と精神科医』 サミュエル サンドワイズ著 サティヤサイ 出版協会（翻訳中）) Samuel H. Sandweiss, San Diego: Birth Day Publishing Co., 1975
- *Sai Messages for You and Me Vol. I.*, Lucas Ralli, (『あなたと私へのサイメッセージ』 ルーカス ラーリ著 日本サイババ研究会刊) London: Vridnavanum Books, 1985
- *Sai Messages for You and Me Vol. II.*, Lucas Ralli, London: Vridnavanum Books, 1988
- *Sai Vaani*: Messages collected from discourses of Sri Sathya Sai Baba
- *Sai Vandana*, ed. K.Hanumanthappa, Prasanthi Nilayam, Sri Sathya Sai Institute of Higher Learning, 1995
- *Sanathana Sarathi*: (『サナタナ サラティ』 誌 プラシャーンティ ニラヤムから発行されている月刊機関誌) A monthly magazine published from Prasanthi Nilayam
- *Sathya Sai Baba, Embodiment of Love*, (『サイババは世界の危機を救う』 ペギーメイソン、ロンレイン共著 日本サイババ研究会刊) Peggy Mason and Ron Laing, London, Sawbridge, 1982
- *Sathya Sai Speaks*: (『サティヤサイ スピークス』 バガヴァン シュリ サティヤサイババの講話集 元のテルグ語から英訳されたもの シュリ サティヤサイ出版局) Discourses by Bhagawan Sri Sathya Baba translated from Telugu (Sri Sathya Sai Books and Publication Trust)
- *Sathyam Sivam Sundaram* (『サッティヤム シヴァム スンダラム (真・善・美)』 第1～4巻 シュリ N.カストゥーリ著 シュリ サティヤサイ出版局) Volumes 1-4, Sri N.Kasturi, Sri Sathya Sai Books and Publications Trust, Prasanthi Nilayam, 1961-1980
- *Sri Sathya Sai Avathar*, V.Aravind Subramaniyam, Sura Books Pvt. Ltd., 2004
- *Sri Sathya Sai Baba and the Future of Mankind*, Sathya Pal Ruhela, New Delhi: Sai Kripa, 1991
- *Sri Sathya Sai Baba A Yugavatar*, Dr.K.Hanumanthappa, Sri Sathya Sai Books and Publications Trust, Prasanthi Nilayam, 2008
- *Thapovanam Sri Sathya Sai Sathcharithra*, Jandhyala Venkateswara Sastry, Sri Sathya Sai Books and Publications Trust, 2002
- *The Blitz Interview*: (ブリッツ誌のインタビュー記事 1976年9月) The extended interview given by Sri Sathya Sai Baba to the chief editor R.K.Karanjia of Blitz Magazine in September of 1976
- *The Heart of Sai*, R. Lowenberg, Sri Sathya Sai Towers Pvt. Ltd., 1981
- *The Life of Bhagavan Sri Sathya Sai Baba*, Kasturi.N, Sri Sathya Sai Baba Book Center of America, 1971